

# 令和元年度年報

(2019 年度)



国立療養所多磨全生園

# 2019（令和元）年度年報発刊に寄せて

国立療養所多磨全生園 園長 石井 則久

国立療養所多磨全生園は2019（令和元）年9月28日に創立110周年を迎えました。

当園は、1907（明治40）年の「癩予防ニ関スル件」に基づき、1919（明治42）年に第一区府県立全生<sup>ぜんせい</sup>病院として創立されました。偏見差別にあい、家族や友人からも別れ、治療薬もなく、障害が進んだ体で患者は入院してきました。職員・運営費は少なく、軽症患者が重症患者の世話をし、多くの食料を自給する状態でした。手、足、顔面、眼などの障害は進行していきました。

1941（昭和16）年に厚生省移管で、国立療養所多磨全生<sup>ぜんしやうえん</sup>園になりましたが、戦争中の物資食料の払底、職員減少、結核の蔓延などで多くの療友が納骨堂の御霊になりました。

1946年の石館プロミンの全生園患者への使用からようやく日本のハンセン病治療の歴史は始まりますが、内服薬のDDSの時代になっても、らい予防法の下、隔離政策は続きました。最大1,518名（1943年）の入所者も新規患者の減少、退所、死亡などで減少の一途をたどりしました。

1996年のらい予防法の廃止によりハンセン病を取り巻く環境は大きく変わっていきました。2020年3月末現在146名の入所者が暮らしています。平均年齢は86.6歳、在所期間は66年以上が37名（25%）です。入所者は身体的な困難さと共に心のよりどころにも困難さが出てきています。職員は入所者に寄り添うべく努力しています。

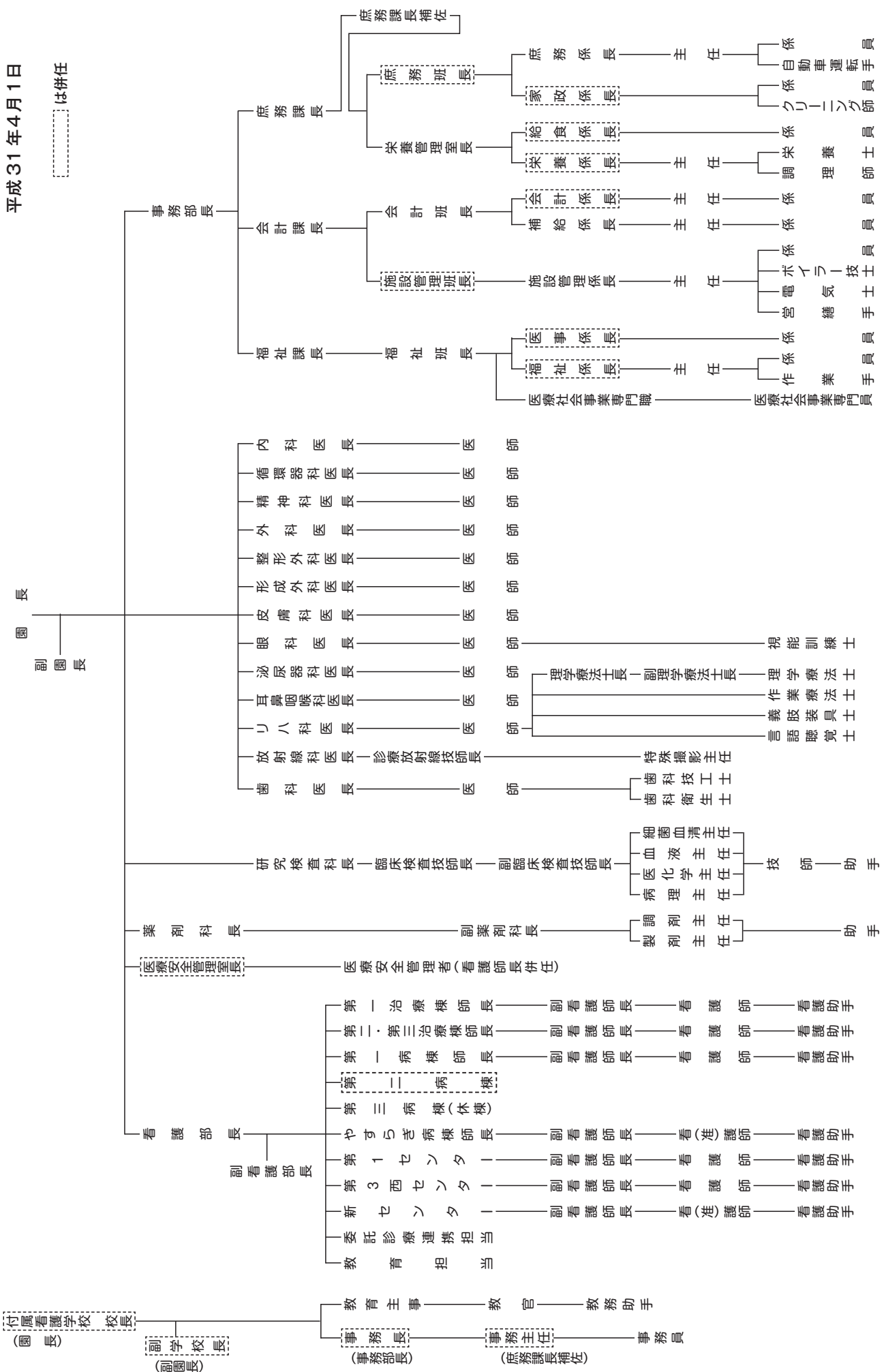
2019（令和元）年度の年報は、全生園の1年間の歩みが分かるように編集しました。大きな流れとしては、4月1日に三宅智先生が副園長に就任。9月28日に創立110周年記念式典を加藤勝信厚生労働大臣、小池百合子東京都知事、渡部尚東村山市長などの臨席をいただき挙行。1月下旬から新型コロナウイルス感染症の予防のため外出・園内外の行事の自粛。2月19日に多磨全生園将来構想の一環として東村山市・入所者自治会・多磨全生園の三者で「災害時における国立療養所多磨全生園の施設等利用に関する協定」の締結。また、前自治会長の平沢保治様が東村山市民栄誉賞を受賞されたことも特筆すべきことです。

緑多い全生園は入所者の生活、医療の充実を図ると共に、市民、都民、国民にハンセン病の歴史を伝え、人権の大切さを発信し、偏見・差別のない世界を目指します。

そして、天国に旅立った4,232名の御霊に謹んで哀悼の意を捧げます。

# 国立療養所多磨全生園組織図

平成31年4月1日



## 施設理念

当園は、入所者一人ひとりが心の安らぎを得て療養できる環境を提供し、生きていることの充実感が満たせるように医療・生活の充実をはかります。

## 基本方針

- ◎ 入所者の目線にたった安心で信頼される医療を提供します。
- ◎ 入所者の権利（知る権利・自己決定権・プライバシー）を尊重します。
- ◎ 快適な生活環境の場を提供します。
- ◎ 職員の教育・研修に努めます。

## 患者（入所者）の権利

- ◎ 人格を尊重した医療を受ける権利
- ◎ 医療に関する十分な説明を受ける権利
- ◎ 個人情報保護の権利
- ◎ 診療情報の提供を受ける権利
- ◎ 検査や治療等の自己決定権の権利



# 国立療養所多磨全生園の組織目標

国立ハンセン病療養所のミッション：  
（※各施設共通）

「ハンセン病問題の解決の促進に関する法律」及び「国立ハンセン病療養所における療養体制の充実に関する決議」の趣旨を踏まえた、入所者の実情に応じた国立ハンセン病療養所の運営・管理の適切な実施、入所者の良好な生活環境の維持向上。

## 【今期（平成31年度＝令和元年度）の組織目標】

施設名：国立療養所多磨全生園

	内容	推進する上での課題
1	<p>期限（ 3月まで ） 数値目標（ ）</p> <p>【国立療養所多磨全生園の将来のあり方の推進】 ハンセン病問題解決促進法等に基づき、将来のあり方（地域開放等）について、入所者等と十分な調整を行った上で、一定の方向性を策定（検討）する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入所者の意見を尊重し、入所者との話し合いを十分に行った上で検討。</li> <li>地方自治体、地域住民等との調整。</li> <li>必要に応じ、本省と調整。</li> </ul>
2	<p>期限（ 3月まで ） 数値目標（ ）</p> <p>【職員確保対策の推進】 入所者へのサービス提供体制の維持・向上を図るために、必要となる職員の確保を行うとともに、離職防止策を検討・推進する。特に看護師については、積極的な募集活動を行うなど欠員解消に向け努力していく。（4/1 現在 育休6人、休職4人、期間業務職員（看護助手等）欠員32人）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設全体で各部門の確保対策、離職防止策を検討・実施。</li> <li>積極的な就職説明会への参加、学校等への募集の呼びかけ。</li> <li>必要に応じ、本省と調整。</li> </ul>
3	<p>期限（ 3月まで ） 数値目標（ ）</p> <p>【職員の知識・技術の向上の推進】 入所者のハンセン病の後遺症及び高齢化による認知症や四肢の障害等が増加している現状を踏まえた医療・看護・介護の充実のために、職員の研修・勉強会を開催し、施設内外の研修等への積極的な参加を促進する。 （医療安全管理研修会年2回開催、感染対策研修会年2回、セクハラ・パワハラ研修会年1回開催し、参加率については各研修会共に最低80%を目標とする）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設全体で各部門の職員が積極的に研修等に参加できるような計画を策定・実施。</li> <li>全職員（特に新規採用）が、ハンセン病に対する理解を深め、医療・看護・介護の充実に繋がる研修内容の策定・実施。</li> </ul>
4	<p>期限（ 3月まで ） 数値目標（ ）</p> <p>【平成31年度予算の適正な執行】 施設・設備整備等の平成31年度予算について、施設・設備整備計画に基づき適正な執行を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設全体で施設・設備整備計画の進捗状況を把握、3月までのスケジュールの調整、適正な執行。</li> <li>執行する上で必要に応じ、本省と調整。</li> </ul>
5	<p>期限（ 3月まで ） 数値目標（ ）</p> <p>【職員の健康管理の改善】 職員の健康管理のために、定期健康診断の受診後の指導等を徹底し、年次休暇の取得、超過勤務縮減ができるような環境作り、特定保健指導・メンタルヘルス・病気休暇者等へのさらなる適正な対応（相談、職場復帰等）を検討・実施。 （健康診断受診率100%、年次休暇一人当たり取得日数16日、超過勤務時間対前年度を下回る。）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員全員の定期健康診断結果の把握、指導体制の確立。</li> <li>施設全体で年次休暇取得、超過勤務縮減に向けた検討・実施体制の整備。</li> </ul>
6	<p>期限（ 3月まで ） 数値目標（ ）</p> <p>【看護・介護体制の充実】 入所者の現状を踏まえた効果的な病棟等の運用を検討し、看護・介護サービス提供体制の向上に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入所者の意見を尊重し、入所者との話し合いを十分に行った上で検討。</li> <li>職員の確保対策も踏まえて検討。</li> <li>必要に応じ、本省と調整。</li> </ul>
7	<p>期限（ 3月まで ） 数値目標（ ）</p> <p>【人生サポートの支援】 人生サポート推進室を中心とした他職種協働による活動体制の整備により、入所者の終末期における意向を聞き取り、既存データとの内容整理をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動に係る職員・入所者への周知方法等。</li> <li>推進室の業務と聞き取り者の仕分け等。</li> <li>聞き取りデータと既存データの整合性等。</li> </ul>

## 【職員の能力向上のための取り組み】

	内容
人材育成・組織活性化	<p>入所者のハンセン病の後遺症及び高齢化による認知症や四肢の障害等が増加している現状を踏まえた医療・看護・介護の充実のために、職員の研修・勉強会を開催し、施設内外の研修等への積極的な参加を促進する。(再掲)</p> <p>医療安全管理研修会年2回開催、感染対策研修会年2回開催、セクハラ・パワハラ研修会年1回開催し、参加率については各研修会共に最低80%を目標とする。(再掲)</p>
実態把握能力	<p>入所者へのサービス提供体制の維持・向上に必要な職員の確保を行うために、各部門の職員の欠員状況・理由を分析し、欠員を減少させる対策を整理する。(再掲)</p> <p>施設・設備整備等の平成31年度予算について、施設・設備整備計画どおり適正な執行を行う。(再掲)</p>
新政策企画・立案能力	<p>ハンセン病問題解決促進法等に基づき、将来のあり方（地域開放等）について、入所者等と十分な調整を行った上で、一定の方向性を策定（検討）する。(再掲)</p>
政策検証能力	<p>ハンセン病問題解決促進法等に基づき、将来のあり方（地域開放等）について、入所者等と十分な調整を行った上で、一定の方向性を策定（検討）する。(再掲)</p>
コミュニケーション能力	<p>管理診療会議等で示されたもの（特に職員全員が知っておくべきもの）は、誰が読んでも分かりやすい表現となっているか、的確にポイントを伝えることができているかなど常に心がける。また、管理診療会議における伝達事項については、職場長が部下に対し出来るだけ直接説明し、かつ、確実に全職員に伝わるよう園内ランへのアップをタイムリーに実施していく。</p>
コスト意識	<p>平成31年度予算について、各部門の執行状況を把握しながら効率的な執行を行う。後発薬品の使用割合については前年度に引き続き80%を目指すように薬事委員会等で周知し対応する。</p>
業務改善能力	<p>ハンセン病問題解決促進法等に基づき、将来のあり方（地域開放等）について、入所者等と十分な調整を行った上で、一定の方向性を策定（検討）する。(再掲)</p> <p>事務職員の人材育成に向けた研修会を、毎月計画的に開催することによりスキルアップを図っていく。</p>
リスク対応能力	<p>全職員に法令遵守を徹底させるよう働きかけ、問題発生を未然に防ぐ。また、万一問題が生じた場合には、本省に迅速に報告し、対応策を講じる。31年度における具体方策として、公務員倫理研修会の実施を通して法令遵守を啓蒙していく。</p>

# 目 次

- ・年報発刊に寄せて（園長 石井則久）
- ・国立療養所多磨全生園組織図
- ・施設理念・基本方針・患者（入所者）の権利
- ・国立療養所多磨全生園の組織目標

I	活動報告	1
	1. 諸会議開催状況	3
	2. 診療部門	4
	3. 看護学校	29
	4. 新型コロナウイルス対応について	30
II	行事・園外からの受入、研修等報告	33
	1. 園主要行事	35
	2. 創立百十周年記念式典・集い	36
	3. 災害時における多磨全生園の施設等の利用に関する協定	52
	4. 厚生労働省・法務省等視察状況	55
	5. 看護学生実習・施設見学・研修等施設利用許可状況	56
	6. ボランティア受入状況等	65
	7. 研究活動、研修参加、倫理審査委員会状況	66
	8. 規程の改訂状況	79
III	統計資料	81
	1. 職員定数・現員、永年勤続授賞者等	83
	2. 経理関係	88
	3. 入所者関係	89
	4. 治療棟診療科受診者数	95
	5. 診療統計関係	96
	6. 医療事故分析報告	104
	7. 看護学校関係	105

# I 活動報告





## 1. 諸会議開催状況（令和元年度）

会議名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
管理診療会議・院内感染対策委員会	4月25日	5月30日	6月27日	7月25日		9月26日	10月24日	11月28日	12月26日	1月30日	2月27日	3月26日
幹部会議	4月1日	5月7日	6月4日	7月2日		9月3日	10月1日	11月5日	12月3日	1月6日	2月4日	3月3日
	4月16日	5月21日	6月18日	7月16日		9月17日	10月15日	11月19日	12月17日	1月21日	2月18日	3月17日
				7月30日			10月29日					3月31日
医療安全管理委員会	4月18日	5月16日	6月20日	7月18日	8月22日	9月18日	10月24日	11月21日	12月19日	1月16日	2月19日	3月19日
薬剤委員会		5月27日		7月22日		9月24日		11月25日		1月27日		3月23日
褥瘡委員会	4月8日		6月10日	7月8日		9月9日	10月7日	11月11日	12月9日	1月20日	2月10日	3月9日
NST委員会		5月9日	6月6日	7月4日		9月5日	10月3日	11月7日	12月5日	1月9日	2月6日	3月5日
献立委員会	4月23日	5月28日	6月25日	7月24日		9月24日	10月29日	11月26日	12月24日	1月28日	2月25日	3月24日
栄養管理委員会	4月23日			7月24日			10月29日			1月28日		
人生サポート委員会	4月25日		6月17日						12月16日		2月17日	
公共調達委員会	4月17日			7月29日			10月25日			1月15日		
医療機器整備委員会	4月23日									1月27日		
臨床検査委員会												3月15日
健康安全管理委員会	4月25日											3月26日
医療ガス安全管理委員会			6月27日									
輸血療法委員会		5月27日										
保育所委員会	4月19日	5月16日		7月18日		9月13日		11月21日		1月16日		3月19日
中央材料室運営委員会												3月5日
年報編集委員会	4月22日		6月7日									
倫理審査委員会								迅速審査		迅速審査		
人権擁護委員会						9月30日						
売店等の設置運営委員会												3月17日
将来構想に係る意見交換会			6月3日								2月19日	
施設懇談会	4月11日	5月8日	6月12日	7月16日		9月18日	10月9日	11月14日		1月23日	2月19日	3月12日

## 2. 診療部門

# 内 科

内科医長 佐藤 一朗

令和元年の内科は、入所者の病状に合わせて外来診療および入院診療を行っております。外来は、入所者の年一回の健康管理と、一般外来で疾病の早期発見、早期治療を主な役割として診療に当たっています。常勤の内科医が、入所者の状態に合わせた予約診療を行い、必要に応じてリウマチや神経の各専門分野の医師に紹介を行っています。さらに園内で治療困難な症例は、多摩北部医療センターや、東京病院、埼玉病院、公立昭和病院、複十字病院などと連携して、治療に当たっています。

当園では入所者の高齢化を背景に、生活習慣病、悪性腫瘍、フレイル等による嚥下性肺炎等の疾病が多くなってきています。

外来で治療が困難な急性期疾患に対して、第一病棟で治療を行っております。内科入院診療の主な対象患者は、不明熱、リウマチ膠原病疾患、感染症、呼吸器疾患、血液疾患、内分泌代謝疾患、糖尿病、脳血管疾患、神経疾患、老年病疾患など、内科系のほぼ全範囲をカバーしています。さらに、入院患者に関しては、他科、特に整形外科、皮膚科の入院患者に対する血糖コントロールや発熱・肺炎などの内科的トラブルに対して、コンサルテーションやバックアップを行っています。

ただ、最近の傾向として高齢化により入院加療が終わっても、入院中の筋力低下等によりすぐに、居住区へ帰れない場合が増加しております。

また、複数の疾患をもち全体的にとらえて各病態の調整が必要な方を主治医として診療していますが、固形がんの治療や、カテーテル・内視鏡などのインターベンションが必要な方は、外来と同じく他院の専門診療科に依頼もしくは共同で診療しています。

居住区での生活が困難な入居者は、やすらぎ病棟で療養と必要な内科的な治療を行っております。

高齢化が進み、さらなる老人病疾患の増加が見込めることから、早期発見を目指していっそう健診に努力したいと思っています。

# 精神科

精神科医長 佐藤 真由美

精神科では、外来と入院で診療を行っている。外来では主として認知症、気分障害（うつ病など）、神経症、睡眠障害などを対象とした診療が中心である。急性期病棟では当科的に集中的な治療を行うだけでなく、身体疾患で入院された患者様の精神的な問題に対して、他科と連携して診療を行うコンサルテーション・リエゾンが重要な仕事の一つとなっている。また、慢性期病棟では認知症の方を主に診ている。

精神科医師は三名（うち一人は非常勤）で、外来一名、病棟二名体制で行った。

令和元年度、精神科が関係した外来通院中、または入院中の者は81名、男性26名（32.1%）女性55名（67.9%）、平均年齢88.1歳であった。

診断の内訳（重複診断有り）は、認知症46名（56.8%）、不眠症20名（24.7%）、神経症19名（23.5%）、気分障害6名（7.4%）、統合失調症3名（3.7%）であった。

平成25年度（主診断のみ）と比較し、疾患の割合に大きな変化はない印象である。

		患者総数	認知症	神経症	不眠症	気分障害	統合失調症	その他
平成25年	2013年	97	54	16	15	7	4	1
令和元年	2019年	81	46	19	20	6	3	(名)

当園における精神科的な特徴は、入園者全体の高齢化である。令和元年度精神科が担当した患者81名中56.8%にあたる46名の主病名が認知症であった。認知症の内訳は、アルツハイマー型認知症19名（23.5%）、血管型認知症26名（32.1%）、レビー小体型認知症5名（6.2%）、その他4名（4.9%）で、一般傾向より血管型認知症の割合が多かった。

認知症の方の重症度の内訳は、重度13名（28.2%）、中等度15名（32.6%）、軽度18名（39.1%）であった。経過の内訳は、急速に進行15名（32.6%）、徐々に進行26名（56.5%）、あまり進行を認めない5名（19.9%）であった。重症度が軽度や中等度の方、経過が急速に進行している方に対する、早急な対策が課題である。

認知症患者に対する関わりを重視し多職種が連携した取り組みを行うため、平成30年度から認知症対策部会の活動が開始され、精神科も一翼を担っている。

同部会の下部組織である調査チームでは、精神科の疫学調査、認知症対策の調査、認知症に対する意識調査を行った。また、リハビリテーションチームでは、検査科やリハビリテーション科と協同して、前頭葉リハビリテーションの試験的導入、機能的近赤外分光法（fNIRS）による前頭葉活性化の評価などを行った。

今後も認知症や高齢化対策を中心に、継続的な活動を行っていく予定である。

# 外 科

外科医長 白井 律郎

外科外来では、従来より手・足の創の予防と治療、熱傷や肛門疾患の治療のほか、外科的救急患者さんへの対応、外科検診などを主たる業務としてきた。同時に、手足の慢性創などで治療を受けていた患者さんが、創の治癒後にセンターなどで予防処置を継続中に新たに問題を生じた場合、再び外来治療を行ったのち改めて生活区域での処置に移行するための診療も行ってきた。またここ数年は、陥入爪の患者さんに対し、近年開発された治療法による治療を行なってきたが、令和元年度にはこれを発展させ、希望する入所者の方々に定期的な爪のケアを行い、必要があれば医療へつなげるための「爪ケア外来」を、看護師チームのイニシアティブで行っている。令和元年度には、外来において延べ571名の患者さんの診療を行い、また、爪ケア外来では17名の入所者さんをフォローアップしている。

現在、外来診療・処置のうち、可能なものは患者さんの生活地域へ移行させる方針が示されている。当科においても、手足の慢性創の処置や予防をセンターなどに依頼することで、以前は頻回であった患者さんの外来受診を週一回程度とすることを原則としている。また、こうして得られた時間的余裕を活用し、生活区域のチームの協力を得ながら、より詳細な患者さんの情報を得て個々の病態をより良く理解した上で、治療・予防を行うことを心掛けている。さらに、患者さんの病態に関する知見を生活区域の看護チームとも共有することで、医療の標準化を行い、創治癒後の生活区域での管理にスムーズに移行できるよう考慮している。



# 整形外科

大伴 直央

2019年度の整形外科外来の中心は患者さんの一般診療と、健康管理が主な診療となっている。一般診療は、整形外科一般と各医師の専門性を生かした診療を行っている。専門性は、脊椎、関節、腫瘍などの分野に別れており、それぞれの専門性を活かし、時にはお互いに連携をとりながら診療を行っている。また、当園でも患者さんの高齢化が進んでおり、整形外科では脊椎の圧迫骨折、大腿骨の頸部骨折などの外傷が主になっている。骨折以外に他科の治療で入室して治療が必要になると、その患者さんのADLの低下はどうしても避けることができず、結果として、体力、筋力の低下からADLの低下、廃用が進んでしまう患者さんが多いことが問題点になっている。このような状況を、少しでも改善するために入室と同時に床上でのリハビリを開始する様に心がけている。病棟看護師、リハビリ科の医師、OT、PTさんとの連携をより一層密にして、ADLの低下を防ぎ、自立動作を維持できるよう心がけている。

しかしながら、入室してからのリハビリはどうしても、制限が発生する、リハビリに対するモチベーションを維持することが困難などの問題点がある。そこで、近年は外来一般診療においても積極的なリハビリの活用、体力維持の必要性の注意喚起を患者さんに対し訴えている。注意喚起のお陰で、現在では外来でリハビリを受診する患者さんも増加しており、リハビリの活用に満足している患者さんの声も聞くことができるようになった。これは、リハビリを行うことで患者さんの運動や生活の維持に対する意識が向上している結果であると考えている。

上記に加え、近年整形外科では末梢神経障害による皮膚および軟部組織潰瘍に悩まされる患者さんが増加している。当科の傾向として、過去に手術された部位の潰瘍症例、再発症例が多い。これは、高齢化による体力、栄養状態などの全身状態の衰えが、潰瘍の改善の遷延化や難治性の発展に寄与していると考えている。また、創部の培養結果からも、抗生剤耐性菌が発生することが多く、使用できる抗生剤に限られることが多く治療が難渋し長期化する原因の一つと考えている。一方で外用薬、被覆剤も発展しており、患者さんの皮膚の状態から適切な外用薬、被覆材を選択することで、創部の状態をより早く改善することが可能になってきた。このような点に関しては、皮膚科医師の方がエビデンスに基づいた知識、使用法に詳しく、適宜皮膚科医師に相談し、助言を頂きながら診療に当たっている。

最後に、予防という点に関し、当科では年に1～2回の骨密度の測定検査を行っている。患者さんへの理解も深まり、現在では整形外科を定期的を受診されている患者さん内の普及率は向上している。今後は、健康診断の一つとして、普段は整形外科を受診してない方にも、受診いただけるよう注意喚起を行っていく予定である。

# 専門医皮膚科

皮膚科医長 山崎 正視

令和元年度の皮膚科外来で多く見られたのは、胼胝、胼胝下潰瘍、外傷、熱傷、白癬、カンジダ性指間びらん症、皮脂欠乏性皮膚炎です。また、帯状疱疹、単純性疱疹、丹毒、蜂窩織炎も数例ありました。難治性の両下腿うっ滞性皮膚炎の患者さんが1名おり、外用療法と弾性包帯により1年ほどかけて治癒に至りました。高齢者が多いため、顔面の日光角化症が数例ありました。そのうち1名は皮膚科外来で全摘出し、もう1名は外来での皮膚生検による確定診断後に、防衛医大病院の形成外科に診療を依頼し、全摘出、VYフラップによる形成手術を受けました。

入室が適応になった患者は、難治性皮膚潰瘍、蜂窩織炎が多く、長期に入室している患者では、カンジダ性間擦疹、関節拘縮に伴う皮膚潰瘍、褥瘡などを認めました。また、表皮内癌であるボーエン病の例が、手術をすることなく、抗がん剤軟膏により完治に至りました。

この数年、日本人の新たなハンセン病の報告はありませんが、ネパール、ブラジル、ミャンマー、フィリピン出身の在日外国人から毎年数例の発症があります。依頼があれば、当科では可能な限り当該医療機関に出張し、診察・スミア検査を施行します。そして当園検査科にて組織の特殊染色、抗PGL-1抗体の測定を行い、診断と治療方針の助言をしています。これらは、ハンセン病という日本ではまれな疾患の、一般医療機関への啓蒙活動となっています。

## 参加学会・講習会

第118回 日本皮膚科学会総会 名古屋 2019年 6月6－9日

第83回 日本皮膚科学会東京・東部支部合同学術大会 東京 2019年11月16－17日

第884回 日本皮膚科学会東京地方会 東京 2019年 5月18日

第885回 日本皮膚科学会東京地方会 東京 2019年 7月20日

第886回 日本皮膚科学会東京地方会 東京 2019年 10月19日

第887回 日本皮膚科学会東京地方会 東京 2019年 12月14日

日本皮膚科学会研修講習会 必須(夏) 東京 2019年 8月24日

日本皮膚科学会研修講習会 選択(夏) 東京 2019年 8月25日

# 眼 科

国立病院機構東京医療センター・杏林アイセンター  
非常勤眼科医師 重安 千花

眼科は非常勤体制で診療をしています。国立埼玉病院および杏林大学病院の医師で現在は週に2～3日の診療を行っています。2020年6月現在、隔週月曜日は杏林大学より慶野准教授、火曜日は埼玉病院より林医師、隔週金曜日は重安が担当しています。

眼科では受診者を対象とした眼疾患後遺症の調査を2014年10月から2017年12月にかけて retrospectiveに行い、2019年の日本眼科学会雑誌に報告をしました。調査開始時、全生園に登録されていた全238名のうち、眼科を受診した199名398眼（男性106名、女性93名；平均年齢は84.2歳）を対象としました。結果の概要としては、視力が測定できた179名の矯正視力は0.2であり、本邦の視覚障害の基準（2018年に認定基準が改正され、現在は最も程度の軽い6級：視力の良い方の眼の視力が0.2以上0.6以下かつ他方の眼の視力が0.02以下のもの、と定義されています）に準じると65名（36.3%）が視覚障害に該当しました。主なハンセン病の眼後遺症として、兎眼116眼（29.2%）、兎眼性角膜炎に伴う角膜混濁66眼（16.6%）、角膜らい腫による角膜混濁25眼（6.3%）、帯状角膜変性症26眼（6.5%）でした。白内障は149眼（37.4%）にみられ、眼内レンズの挿入は143眼（35.9%）、無水晶体眼は24眼（6.0%）にみられました。また慢性虹彩毛様体炎が17眼（4.2%）、眼球癆（眼球摘出を含む）は40眼（10.1%）にみられました。

調査により、眼表面および眼内の慢性的な炎症の管理がハンセン病の眼後遺症の長期的な予後に影響すると考えられました。低視力の方が多いため視力低下の自覚がしづらく、また角膜知覚の低下が生じているために痛みを感じにくいのも悪化する要因となります。日々の点眼介助の際に、眼の状態に変化がないかどうか他覚的に観察することが重要であると考えます。

本報告は、令和元年度の日本眼科学会雑誌最優秀論文賞をいただきました。ハンセン病既往者の眼後遺症は、高齢化に伴う要因も加わり視覚障害の程度が重篤であるため長期にわたる眼科疾患の管理が重要であることを、報告できましたことを嬉しく思います。調査にご協力をいただきました入所者の皆様、眼科外来看護師の皆様ならびに日頃よりご教示いただいております石井園長先生にこの場を借りて深謝を申し上げます。

非常勤での勤務であるため、多摩北部医療センターの先生方をはじめ近隣の先生方に緊急時は御対応をいただいております、恐縮に思います。また長きにわたりご勤務いただきました視能訓練士の中島さんが昨年度をもちまして退職されました。視力・視野検査から眼鏡合わせに至るまでこなしていただいておりますが、今後の状況次第では院内で対応できる検査に制限がでる可能性につきお詫びいたします。微力ながら皆様にお力添えできますよう、引き続き精進して参りたいと存じます。どうぞ引き続きよろしく願いいたします。

# 耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科医長 中井 淳仁

平成20年度以降医長1名のみで診療を行っている。

平成28年度より、専門医資格の更新基準が変わり、それまでよりも多くの学会・講習会等の出席が求められるようになったため、従来の夏休み3日間に加えて、学会出席のために年に数日休診とさせていただいている。

入所者数の減少に伴い、1日に当科で診療する患者数は15から20名程度のことが多くなり、減少傾向が続いている。定期の病棟往診はほぼなくなっている。

引き続き入所者健診に力を入れ、各部署の協力を得て、耳鼻咽喉科検診の受診率90%超を維持している。

診療の内容としては、かなりの部分がハンセン病の後遺症である萎縮性鼻炎に関係した鼻腔の清掃で、残りは、一般の高齢者に見られる難聴・中耳炎・鼻副鼻腔炎・咽喉頭炎・嚥下障害などへの対応である。

摂食嚥下障害については、本年度は全職員対象の講習会を、言語聴覚士・歯科衛生士と共同で行った。引き続き各不自由者棟での誤嚥・窒息対策の講習も行っている。

現在手術は園内では行っていない。手術その他の専門的医療が必要な症例や専門家の診断を仰ぎたい症例については、適宜疾患分野に応じた専門家のいる医療機関へ委託診療を行っている。



# リハビリテーション科

リハビリ科医師 中村 拓也

2019年度のリハビリ科では患者さんへのリハビリテーションの処方や生活指導、装具の作製、家屋評価などを主な業務としていました。リハビリの処方においては、末しょう神経障害や関節変形に伴う歩行障害や上肢機能障害、ADL障害を評価し、患者さんの状態に合わせて理学療法、作業療法、言語聴覚を組み合わせて処方を行いました。近年高齢化に伴い徐々に機能低下を来す患者さんが多く、リハビリテーションの負荷や頻度を調整しながら、なるべく長く本人が望む生活を送れるよう支援を行いました。

主に足部の関節変形に対して義肢装具士や看護師と連携しながら装具療法を行っておりました。感覚障害を合併している患者さんが大半で創ができるまで装具のあたりに気づかないため、創の治療と並行して装具を作成することも多くあり、皮膚科や外科と連携しながら診療を行っていました。長い経過の中で特殊な関節変形を来した患者さんや下肢装具の選択に独特のこだわりを持つ患者さんも多くいらっしゃり、義肢装具士と相談しながら患者さんのニーズに合致した装具を作成するよう心がけていました。

認知機能や運動機能が低下し室内での転倒が増えた患者さんや園外での生活が困難となり新たに入園された患者さんが安全に生活できるよう理学療法士、作業療法士、介護士、看護師、義肢装具士らと相談しながら家屋評価を行い、家屋改修や歩行補助具の導入などを提案してきました。また、リハビリ科外来における健康診断では年1回歩行能力や上肢リーチ能力などを評価していました。

上記のように慢性期の患者さんに対するリハビリテーションを主な業務としておりましたが、内科や整形外科の医師からコンサルテーションをいただき、骨折や肺炎、心不全などの急性期疾患に対するリハビリテーションも適宜行っておりました。

また昨年度は認知症の患者さんに対する集団リハビリを月1回の頻度で精神科の佐藤医師と行っていました。主に軽度の認知症を有する患者さんを対象とし、患者さん2名とスタッフでゲーム性がある課題を一緒に行い、遂行機能などの前頭葉機能の活性化を図りました。課題を実施する際の主に前頭葉での脳血流の変化を近赤外分光分析法（Near-infrared spectroscopy:NIRS）を用いて測定しました。定量的な評価は行っておりませんが、一部の患者さんでは課題中に血流の変化を認め、今後のリハビリにおけるヒントになりうると考えられます。



# 理学療法部門

理学療法士長 鈴木 広美

定員：理学療法士長 1 名、理学療法士 5 名、計 6 名で理学療法業務を実施。

2019.4月：増員 1 名の枠に、理学療法士が人事異動により補充された。

2019.6月：病気休職者 1 名復帰。業務量調整により患者担当は10月から開始。

2020.2月：自己の理由により理学療法士 1 名が退職した。

近年みられる傾向として、継続フォローアップの症例においてマンツーマンでの運動療法や徒手療法を要し、かつ重症度が上がってきている。物理療法においては、ホットパックが主であり、パラフィン浴、スーパーライザーといった物療機器での治療を要した症例はいなかった。居室内での転倒等により理学療法処方が出た特徴的な症例として、入室への拒否があり安静を要するが廃用防止の観点で居室での早期より床上リハビリをおこなった。その他、終末期の緩和ケア的な介入が増えた。また、家屋改修においては同一症例に対して、リハビリ科医師の立ち合いによる調整後、頻回に再対応を要す症例が増えた。その一因としては、高次脳の低下や身体機能の低下により、居室内動作困難となる症例が確実に増えており、変化に対してより丁寧な情報共有、看護部門との連携強化が年々必要となってきている。

# 作業療法部門

作業療法士 室川 由美子

定員：作業療法士 2 名で作業療法業務を実施。

2019.10月より、退職に伴い作業療法士 1 名欠員となる。

ハンセン病後遺症による末梢神経障害に加え、高齢化に伴う上肢手指機能低下から、日常生活では以前より使用している自助具の再調整や新規作成、身の回りの介助量増加、また、認知機能低下から生活困難者が増加傾向にある。

作業療法部門では個別療法の他に週 2 回約 1 時間、機能訓練室で集団での棒体操、認知症対策部会のひとつである「認知症リハビリテーションチーム」の一員として機能的近赤外分光法 (functional near-infrared spectroscopy 以下、fNIRS) を併用した前頭葉リハビリテーションを行った。

2019年10月から作業療法士1名欠員に伴い、機能訓練室で行っていた個別療法の一部を身体機能や能力に合わせてベッドサイド対応に切り替えた。また、週2回の集団棒体操は理学療法士協力のもと機能訓練室とやすらぎ病棟ホールの2か所に分け、1グループ2～5名の小集団に再編成し、回数変更はせず、1グループ約20分に時間を短縮して行った。

認知症予防対策部会では「認知症リハビリテーションチーム」として精神科医師指導のもとfNIRSを併用した前頭葉リハビリテーションを1グループ2名、月1回×3回を1クールとし、2クール行った。

## 言語聴覚療法部門

言語聴覚士 柴山 聡美

定員：言語聴覚士1名

入所者に対して、摂食・嚥下障害、高次脳機能障害、認知機能障害、全般性精神機能障害に介入した。

言語聴覚療法実施件数及び単位数は統計資料の通りである。入所者の高齢化に伴い、摂食・嚥下障害や認知症の対象者がさらに増加しており、その重症度も上がってきている。それに伴い、居室またはベッドサイドでのリハビリや、食事に関する相談も増加傾向にある。認知症の重症度が高い方では、新しい事に対して柔軟に対応することや受け入れる事ができず拒否的な言動が増え、その結果リハビリの介入に苦慮するケースも多く、重症化する前段階での予防的リハビリでの介入が望ましい。今後もこれらの傾向は続いていくと考えられる。

その他、医療機器類の故障のため、嚥下造影検査（VF）は実施していない。今回初めて、歯科から他科依頼を通してリハビリの依頼もあった。また、看護全職員を対象とした摂食・嚥下に関する講師依頼などがあった。（2件）

## 義肢装具部門

義肢装具士 菅野 太洋

定員枠：義肢装具士2名にて義肢装具製作・適合業務を実施

ハンセン病後遺症患者に対し義肢装具の製作・修理のほか、日常生活活動援助のための自助具製

作や入所者の家屋改修なども行っている。装具は、後遺症による難治性潰瘍に対する治療の一環として製作することが多く、装具の不適合は潰瘍の悪化に繋がるため、他科と積極的に協力しながら調整や免荷方法の提案、経過観察などを細やかに行った。自助具や家屋改修については、患者の身体機能が高齢化に伴い低下しているため、要望が多岐に渡りかつ実施件数が増加傾向にあるが、可能な限り要望に応じ実施した。義肢装具処方を受け対応した実施件数は統計資料（義肢装具処方件数）の合計であるが、その他に微調整や修理を多数行っているため、平成27年度より「調整等」として件数を計上した。

その他の活動として、資料館への協力や、外部団体の研究会で講演を行った。資料館への協力では、ハンセン病に対する義肢装具についての情報提供要請があり、技術解説や資料提供などを行った。

# 診療放射線科（X線装置更新報告）

診療放射線技師長 藤田 智之

放射線科では、令和2年3月16日に14年間使用してきましたX線TV撮影装置を更新しました。

新しく、更新されました装置は、今までのX線透視下での検査（胃透視検査、嚥下機能検査等）に加え、被ばくの少ないデジタル断層撮影が行えるトモシンセシス、短時間で広範囲を撮影出来る自動長尺撮影が可能です。

また、更新目的の一つとして導入より多くの入所者を撮影しております、骨密度測定検査も可能となりました。

骨密度測定検査は、国民の高齢化が進むなかで、骨粗鬆症による骨折予防の重要な診断要因として推進されています。

当園装置の測定方法は、精度の高いDEXA法（Dual Energy X-ray Absorptiometry）を用いて検査を行っております。DEXA法とは2種類のエネルギーの放射線を検査部位に当て、その透過率から骨密度を測定する方法です。

撮影部位は「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン」で推奨されている、腰椎と大腿骨近位部の測定を行っています。

放射線科では、今後も入所者皆様の健康と予防に努めて参ります。

# 歯 科

歯科医長 石崎 勤

令和元年度の歯科は、患者の高齢化に伴う全身的な変化と後遺症に伴う障害に配慮しながら普遍的で安全な診療を志してきました。入所者の全身状態の変化および歯科診療体制が大きく変わりましたが、歯科パラメディカルの協力の下で年間延べ受診件数は2953件とほぼ維持できました。医療安全的にはアクシデントは無く、インシデントも影響レベル0が2件・レベル1が1件となりました。しかし、更なる安全性確保のためポータブルの歯科レントゲン装置の購入・歯科ユニット（治療台）の1台更新をしていただきました。

一般診療を継続する傍ら歯科衛生士には専門的口腔管理と共に入所者の方々と職員に対しての啓蒙・教育活動の継続、歯科技工士には入所者の経口摂取が中断されないよう可能な限り早急に修理・技工に対応できるようにしております。また、歯科看護師には診療補助のみならず患者様の身体的情報や生活様式の収集などお願いし、週に1回は診療に関わる歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士・看護師全員での情報伝達会を行っております。

食事を楽しむことや会話をすることが人たる所以の大きな要素で有り、歯科はその一端を担うことを心に留めおく診療を目指しております。今後の課題としては、オーラルフレイル（虚弱）のみならず重複障害に対して早期から歯科的にアプローチにより全身的フレイルの防止を目指すことが緊要と考えています。入所者様のQOLの維持・向上のためには、他職種を含めた包括的な連携がより必要であり医療安全的にも重要と考えています。



# 薬 剤 科

薬剤科長 筒井 秀知

## 薬剤科の理念

入所者の方々の薬物療法が安全で効果的に行われるよう他部門と連携し、医薬品及び情報を提供します。

## 薬剤科の基本方針

1. 園内の方々との信頼関係向上
2. 薬の正確で安全な調剤を心がける
3. 薬品情報は正確で迅速な提供
4. 薬品の適正在庫による健全な経営

## 薬剤科の業務

薬剤科の業務は調剤、注射、医薬品管理、医薬品情報など薬剤師4名と薬剤助手1名で日々作業しています。

私ども薬剤科員は、患者さんに安心して安全な薬物療法を提供できるように心がけています。また、最近の傾向として外部医療機関への委託受診が増えていることに鑑み、日頃服用している薬剤情報や併用禁忌薬の情報提供を充実させてきました。

調剤では処方せんの記載事項を確認し、薬品名、規格、用法用量、相互作用、禁忌薬など内容確認（処方監査）、薬袋の記載事項、服用方法確認の後、調剤を実施しています。

注射薬においても処方監査の後、払い出し数量、施用歴の把握など適正使用を前提とした管理を心掛けています。

医薬品管理では使用の際、安全かつ有効に管理保管し、購入、在庫、供給の適正化をはかり経済性を重視しています。後発医薬品使用促進では数量割合で85%を目指し、本年度は後発医薬品で90.5%を達成しました。

医薬品情報では薬剤委員会資料、薬剤科ニュースなど情報の収集、加工、整理し、医療関係者へ伝達。また患者さんに対してもお薬説明書など医薬品に関する情報を提供いたします。

その他、医療安全管理室、ICT感染防止対策チームなどに参画し、研修会、勉強会で適切な薬物療法、医療事故防止に努めています。

# 第1病棟

看護師長：田澤 理恵

## 1. 病棟の特色

内科・外科病棟として急性期の役割を果たし、緊急の入室に対応している。高齢化に伴いハンセン病による重複障害や認知症、他の合併症などから、身体の不自由度が増しているため、多職種と連携しながら入退室の調整を行っている。また、高齢化に伴い終末期の過ごし方を居住区と共に検討し、患者の心に寄り添い、その人らしく、安寧を保ちながら、より良い時間を過ごし最期を迎えることができるよう援助を行っている。

その他、園外から再入園を希望する患者の受け入れも行っている。

## 2. 看護・介護体制

### 1) 看護方式

チームナーシング・継続受け持ち制・一部機能別

### 2) 勤務体制

2019年4月1日

看護師・准看護師			看護助手(介護員)		
早出	7:00~15:30	0名	早出	7:00~15:30	2名
日勤	8:30~17:15	12名	日勤	8:30~17:15	0名
準夜	16:30~1:00	2名	遅出	9:00~17:45	1名
深夜	0:30~9:00	3名	遅出	10:00~18:30	0名
二交代	16:00~9:15	2名	深夜		名
遅出	12:30~21:00	0名	当直		名

## 3. 患者の状況

### 1) 入院患者 (2019年度)

1日平均患者数	11.7名
平均在院日数	192.8日
病床利用率	34.40%
平均年齢	87.5歳

### 4) 看護度

2019年4月1日

	I	II	III	IV
A	1	4	1	0
B	0	4	1	0
C	0	0	3	0

### 2) 疾患別構成 (2019年度)

整形外科疾患(骨折他)	16名
その他(生活困難など)	8名
呼吸器系疾患	7名
皮膚疾患	6名
消化器系疾患・食思不振	6名
循環器系疾患	6名
脳神経疾患	4名
精神科疾患	3名

### 5) 不自由度

2019年4月1日

特重	11
重	1
中	1
軽	2
一般	0

### 3) 手術・人工透析等件数 (2019年度)

手術	0件
人工透析	289件

### 6) ADL状況

2019年4月1日

	全介助	一部介助	自立
入浴	9	6	0
食事	3	9	3
排泄	6	6	3
移動	9	4	1

# やすらぎ病棟

看護師長：田崎 明子

## 1. 病棟の特色

後期高齢者や認知症のある精神科関係の病棟である。平均年齢91歳。入所者は長年住み慣れた一般寮、センターでの生活が困難となり生活全般の介助を要する。日常ケアでは、ADLの低下予防、寝たきりにしないことをモットーに残存機能維持に留意している。その人らしく生きるサポートとして、病棟レクリエーション、誕生日会や園内保育園児参加の催し、日々の生活の中にやすらぎと楽しみを得られるよう援助しているとともに、急性期病棟の後方病棟としての役割を担っている。

## 2. 看護・介護体制

### 1) 看護・介護方式

チームナーシング・継続受け持ち制・一部機能別

### 2) 勤務体制

2019年4月1日

看護師・准看護師			看護助手(介護員)		
早出	7:00~15:30	0名	早出	7:00~15:30	3名
日勤	8:30~17:15	14名	日勤	8:30~17:15	0名
準夜	16:30~1:00	3名	遅出	9:00~17:45	3名
深夜	0:30~9:00	3名	遅出	10:00~18:30	0名
二交代	16:00~9:15	0名	深夜		名
遅出	12:30~21:00	0名	当直		名

## 3. 患者の状況

### 1) 入院患者 (2019年度)

1日平均患者数	19.3名
平均在院日数	1477日
病床利用率	47.7%
平均年齢	91.7歳

### 2) 疾患別構成 (2019年度)

アルツハイマー型認知症	5名
血管性型認知症	2名
その他の認知症	9名
統合失調症	1名
精神発達遅滞	1名
腰痛・大腿骨骨折	2名

### 3) 手術・人工透析等件数 (2019年度)

手術	0件
人工透析	0件

### 4) 看護度

2019年4月1日

	I	II	III	IV
A	0	0	0	0
B	15	3	1	0
C	0	0	0	0

### 5) 不自由度

2019年4月1日

特重	17
重	1
中	1
軽	0
一般	0

### 6) ADL状況

2019年4月1日

	全介助	一部介助	自立
入浴	17	2	0
食事	17	2	0
排泄	17	2	0
移動	18	1	0

# 新センター

看護師長：吉田 輝子

## 1. 不自由者棟の特色

### 1) 入所者の特徴

特重・重不自由度を対象にした不自由者棟である。

ハンセン病の後遺症と高齢化による重複障害・認知症のため不自由度も増してきている。

また、自分から訴えることが困難な入所者が多く、日常生活において常に観察を密に行っている。

### 2) 看護・介護の特徴

入所者の日常生活の観察を行い、日々のカンファレンスで情報共有し、異常の早期発見に努めている。また、外来各科、他部門との情報交換、協力体制を取り、入所者の健康維持・増進を図っている。さらに、日常生活に変化をつけたレクリエーションや、入所者個々との散歩、園外への買い物など、個別対応業務に力を入れ、QOLの維持・向上に努めている。

## 2. 看護・介護体制

### 1) 看護・介護方式

受け持ち制、一部機能別

### 2) 勤務体制

2019年4月1日

看護師・准看護師			看護助手(介護員)		
早出	7:00~15:30	0名	早出	7:00~15:30	6名
日勤	8:30~17:15	8名	日勤	8:30~17:15	2名
準夜	16:30~1:00	2名	遅出	9:00~17:45	2名
深夜	0:30~9:00	2名	遅出	10:00~18:30	0名
二交代	16:00~9:15	2名	深夜		名
遅出	12:30~21:00	0名	当直		名

## 3. 入所者の状況

### 1) 入居者の状況

2019年4月1日

在籍者数	11名
現在数	11名
居室利用率	45.8%
平均年齢	88.9歳

### 3) ADL状況

2019年4月1日

	全介助	一部介助	自立
入浴	11	0	0
食事	5	6	0
排泄	4	7	0
移動	0	11	0

### 2) 不自由度

2019年4月1日

特重	5
重	6
中	0
軽	0
一般	0

### 4) 身体状況

2019年4月1日現在

全盲	0名
弱視	9名
難聴	7名
片義足	0名
両手指欠損	0名
片手指欠損	0名
認知症	7名

# 第1センター

看護師長：伊藤 郁江

## 1. 不自由者棟の特色

### 1) 入所者の特徴

ハンセン病後遺症と高齢による重複障害及び合併症を持った不自由度の高い夫婦と、独身者を対象とした生活の場である。平均年齢は、88.3歳であり、歩行困難者や車椅子利用者は、入居者の約80%を占め、視力障害や聴力低下・認知症も併発し、介助を必要としている。

### 2) 看護・介護の特徴

入居者が、安全に過ごすことができ、その人らしく生活するために、看護・介護の協力で生活・健康に関わる援助を行っている。また、入居者のADLの低下に対応できるよう日常生活援助や環境整備に努めている。センター夜勤看護師が、24時間入居者の健康管理や体調変化に対応できるよう管理している。

## 2. 看護・介護体制

### 1) 看護・介護方式

看護師：13寮（3名）14寮（3名）15寮（4名）16寮（4名）17寮（3名）寮ごとの受け持ち制及び一部機能別  
 介護長：13.14.15寮（1名）、16.17寮（1名）1年交替  
 副介護長：13.14.15.16.17寮（各1名）6ヶ月交替  
 介護員：各寮 6ヶ月ごと交替

### 2) 勤務体制

2019年4月1日

看護師・准看護師			看護助手(介護員)		
早出	7:00~15:30	0名	早出	7:00~15:30	12名
日勤	8:30~17:15	8名	早出	7:30~16:15	0名
準夜	16:30~1:00	2名	早出	8:00~16:45	1名
深夜	0:30~9:00	2名	日勤	8:30~17:15	6名
二交代	16:00~9:15	0名	遅出	9:15~18:00	7名
遅出	12:30~21:00	0名	遅出	12:30~21:00	0名

## 3. 入所者の状況

### 1) 入居者の状況

2019年4月1日

在籍者数	31名
現在数	28名
居室利用率	47.9%
平均年齢	87.7歳

### 3) ADL状況

2019年4月1日

	全介助	一部介助	自立
入浴	12	11	5
食事	0	23	6
排泄	2	1	25
移動	2	20	6

### 2) 不自由度

2019年4月1日

特重	5
重	7
中	6
軽	5
一般	5

### 4) 身体状況

2019年4月1日

全盲	2名
弱視	2名
難聴	2名
片義足	1名
両手指欠損	1名
片手指欠損	0名
認知症	11名

# 第3西センター

看護師長：原 祐二

## 1. 不自由者棟の特色

### 1) 入所者の特徴

ハンセン病の後遺症と重複障害がある、独身者の生活の場である。平均年齢は86.1歳であり、超高齢化に伴い、脳血管障がいや骨折後の後遺症も重なり、ADLの低下や認知機能の低下などにより、自立した生活が困難になってきている。

### 2) 看護・介護の特徴

超高齢化に伴い、入居者の生活には日々変化がみられる。その変化に対応できるよう看護・介護、他職種との連携を図り、健康で安全安楽に過ごせるようサポートしている。入居者の習慣や文化を大切にし、個人を尊重すると共に、心の安らぎを得て生活できる環境作りを心がけている。誤嚥防止の嚥下体操や認知症予防対策、引きこもり防止のためのレクリエーションを行い、入居者同士の交流を図っている。

## 2. 看護・介護体制

### 1) 看護・介護方式

受け持ち制、一部機能別看護

### 2) 勤務体制

2019年4月1日

看護師・准看護師			看護助手(介護員)		
早出	7:00~15:30	0名	早出	7:00~15:30	10名
日勤	8:30~17:15	7名	日勤	8:30~17:15	4名
準夜	16:30~1:00	2名	遅出	9:15~18:00	8名
深夜	0:30~9:00	2名	遅出	10:30~19:00	1名
二交代	16:00~9:15	0名	深夜		名
遅出	12:30~21:00	0名	当直		名

## 3. 入所者の状況

### 1) 入居者の状況

2019年4月1日

在籍者数	31名
現在数	24名
居室利用率	73.80%
平均年齢	88.0歳

### 3) ADL状況

2019年4月1日

	全介助	一部介助	自立
入浴	8	5	10
食事	14	9	0
排泄	16	6	1
移動	9	13	1

### 2) 不自由度

2019年4月1日

特重	4
重	8
中	8
軽	2
一般	2

### 4) 身体状況

2019年4月1日現在

全盲	1名
弱視	16名
難聴	17名
片義足	3名
両手指欠損	5名
片手指欠損	5名
認知症	13名



# 一般寮支援室（第1治療棟）

看護師長：中原 孝子

## 1. 治療棟の特色

### 1) 一般寮支援室

一般寮入所者の健康管理、生活支援を中心とした活動を行っている。毎週居室を訪問し、感染対策の啓蒙活動、体調不良時の外来受診の付き添い、転倒防止や火災の危険に対する環境調整を行っている。

### 2) 人生サポート推進室

入所者の高齢化が進む中、重複障害を持ちながらも一人ひとりがその人らしい人生を送ることができるように療養生活をサポートするために、園全体で計画的に取り組む為の調整役として、機能を果たす。

### 3) 透析室・中央材料室・手術室

透析専門看護師が常勤している。透析の技術的対応のみでなく、日常生活や食事の管理、気分転換など、精神的なケアにも取り組んでいる。シャント増設やシャントトラブルは、外部病院でフォローしている。中央材料室では、中央管理に切り替えるなど、無駄のない適切な使用に取り組んでいる。

## 2. 看護・介護体制

### 1) 看護・介護方式

受け持ち制

### 2) 勤務体制

2019年4月1日

看護師・准看護師			看護助手(介護員)		
早出	7:00~15:30	0名	早出	7:00~15:30	0名
日勤	8:30~17:15	11名	日勤	8:30~17:15	1名
準夜	16:30~1:00	1名	遅出	9:00~17:45	0名
深夜	0:30~9:00	1名	遅出	10:00~18:30	0名
二交代	16:00~9:15	0名	深夜		名
遅出	12:30~21:00	0名	当直		名

※1治療棟、2・3治療棟2部で準夜及び深夜を担当している

## 3. 患者（入所者）の状況

### 1) 手術・人工透析等件数（2019年度）

手術	0件
人工透析	289件

### 2) 訪問看護件数（一般舎の入所者の所へ治療棟看護師が訪問した回数）（2019年度）

年間延べ人数	6303
月平均	57.3
平日平均数	28

# 治療棟（第2・3治療棟）

看護師長：高倉 千明

## 1. 治療棟の特色

診療科は、内科・精神科・神経内科・皮膚科・外科・整形外科・脳神経外科・眼科・耳鼻咽喉科・歯科・泌尿器科・婦人科・乳腺科・リハビリテーション科の14診療科と内視鏡室である。

入所者の高齢化に伴い、生活習慣病や認知機能の低下、ADLの低下等によって、種々多様な症状が出現し、それらの治療を受けている。

看護としては、入所者の訴えを傾聴し、居住区担当者との情報交換を密にし、細やかな観察・援助を心がけている。

専門医療機関への委託診療も増加しており、各診療科がその窓口になっている。また、園外患者からのハンセン病に関する電話相談を受け、医師と連携して対応に当たっている。

## 2. 看護・介護体制

### 1) 勤務体制

2019年4月1日

看護師・准看護師			看護助手(介護員)		
早出	7:00~15:30	0名	早出	7:00~15:30	11名
日勤	8:30~17:15	19名	日勤	8:30~17:15	9名
準夜	16:30~1:00	1名	遅出	9:00~17:45	4名
深夜	0:30~9:00	1名	遅出	10:00~18:30	1名
二交代	16:00~9:15	0名	深夜		名
	12:30~21:00	0名	当直		名

※1 治療棟、2・3治療棟2部署で準夜及び深夜を担当している

## 3. 患者（入所者）の状況

### 1) 診療科別受診者数（2019年度）

年間延べ人数	内科	精神科	皮膚科	外科	整形外科	眼科	耳鼻科	歯科	泌尿器科
月平均	175.4	74.4	333.63	47.45	132.09	61.18	384.18	229.27	14.5

年間延べ人数	神経内科	婦人科	乳腺科	リハビリ テーション科	透析	リウマチ
月平均	5.45	0	0	107.45	289	1.6

### 2) 検査状況と手術件数（2019年度）

	超音波エコー	上部内視鏡	下部内視鏡	気管支鏡	膀胱鏡	CT	バイオプシー	手術
年間延べ人数	152	0	0	0	0	118	7	0
月平均	16.6	0	0	0	0	9.8	0.6	0

## 4. 看護師・看護助手（看護部所属）が委託診療を受ける入所者へ付き添った件数（2019年度）

	入院	外来	退院	面会 等
看護師が付き添った延べ件数	26	299	27	109
看護助手が付き添った延べ件数	0	0	0	4
合計	26	299	27	113

# 委託診療連携室(令和2年4月1日治療棟へ合併)

看護師長：武藤 直子

## 1. 委託診療連携室の特色

平成30年4月1日、第1治療棟より委託診療連携室として設立された。

委託診療機関への外来受診、入退院の付き添い、手術・検査等の説明時の同席、委託病院入院中の面会の人員の手配を他部署と連携して行っている。

委託診療に関する諸手続と付き添い家政婦の手配を福祉課と連携して行っている。

入所者及び職員が不安なく受診、入院、付き添いができるよう対応に心がけている。

## 2. 看護・介護体制

### 1) 勤務体制

2019年4月1日

看護師・准看護師			看護助手(介護員)		
早出	7:00~15:30	0名	早出	7:00~15:30	0名
日勤	8:30~17:1	1名	日勤	8:30~17:15	0名
準夜	16:30~1:0	0名	遅出	9:00~17:45	0名
深夜	0:30~9:00	0名	遅出	10:00~18:30	0名
二交代	16:00~9:15	0名	深夜		名
遅出	12:30~21:00	0名	当直		名

## 3. 看護師・看護助手(看護課所属)が委託診療を受ける入所者へ付き添った件数(2019年度)

	入院	外来	退院	面会 等
看護師が付き添った延べ件数	26	299	27	109
看護助手が付き添った延べ件数	0	0	0	4
合計	26	299	27	113

# 教育担当

看護師長：金子 夕香里

## (1) 目的

- ・国立療養所多磨全生園及び看護部の理念と方針に基づいて、組織の一員としての自覚を高め行動できる人材を育成する。
- ・ハンセン病療養所で生活する入所者の歴史が理解でき、人権を尊重し、社会に向けて啓発できる人材を育成する。
- ・ハンセン病療養所の職員として、専門知識・技術を習得し、看護・介護が実践できる人材を育成する。
- ・専門職業人として、自己研鑽できる人材を育成する。

## (2) 目標

- ・ハンセン病療養所の看護職員としての役割と責任を自覚して倫理観をもった行動ができる能力を養う。
- ・入所者の歴史を理解し、人権を尊重した看護・介護が提供できる能力を養う。
- ・ハンセン病及びその後遺症が理解でき、適切な看護・介護が提供できる能力を養う。
- ・高齢化している入所者に対応するため、老年の特徴を理解し、看護・介護ができる能力を養う。
- ・入所者が生きていることの充実感を満たせるようにQOLの向上をはかる能力を養う。
- ・入所者、家族（保護者）、医療メンバーとの望ましいコミュニケーションを図るための能力を養う。
- ・医療やハンセン病療養所の動向に目を向け、今日的な専門知識・技術を習得し、看護・介護が提供できる能力を養う。
- ・臨床看護研究や研修を通じ、ハンセン病看護の専門性及び看護・介護の質的向上を図る。

## (3) 活動内容

研修名	目標	対象者	人員	実施日
新採用者 オリエンテーション	国立療養所多磨全生園の一員としての自覚を持ち 役割と責任を認識する	新採用者 中途採用者 異動者	18名	2019年4月1日 ～3日
入職後の語る会①	国立療養所多磨全生園の新人看護師として不安・ 悩みの解決を図る	看護師	5名	2019年5月17日
看護技術 (採血)	安全な採血と検体の取り扱いを手順に基づいて実 施する	看護師	5名	2019年6月14日
薬剤について	医薬品の剤形の種類を知る 医薬品の剤形ごとの使い方を理解する	看護師	5名	2019年6月25日
救急看護	救命救急の理論的理解と根拠に基づいた基本的な 技術を身につける	看護師	4名	2019年7月16日
看護記録	看護記録の目的や法的責任を学び、看護実践に役立 つ記録のありかたを学ぶ	看護師	5名	2019年9月13日
静脈注射	静脈注射の安全な実施に関する知識・技術を習得 する	看護師	5名	2019年10月15日

研修名	目標	対象者	人員	実施日
入職後の語る会②	現在抱えている不安や悩みの解決が図れ、卒後2年目看護師として看護に臨むことができる	看護師	5名	2020年1月21日
看護倫理	看護倫理に関する知識を深め、倫理的行動をとることができる	看護師	8名	2019年6月28日
看護と介護	生活の場で求められる看護師の役割を理解する	看護師	8名	2019年7月19日
看護過程 (事例検討)	的確に患者の状態を把握し状況に応じた看護を提供する	看護師	8名	2019年12月20日
創傷ケア園内認定 看護師養成研修	ハンセン病後遺症における屈曲指の胼胝ケア、胼胝下潰瘍等、専門的知識・技術を用いて質の高い看護を実践できる能力及び他の看護師の指導・相談を行なうことができる	看護師	園内8名 駿河4名	2019年10月7～8日
医療安全分析① (1コース3回開催)	安全な医療の提供に必要な知識・技術を身につける	看護師	16名	2019年11月29日
医療安全分析② (1コース3回開催)	安全な医療の提供に必要な知識・技術を身につける	看護師	15名	2019年12月17日
医療安全分析③ (1コース3回開催)	安全な医療の提供に必要な知識・技術を身につける	看護師	14名	2019年1月23日
ストレス マネージメント	自己の感情を認識し、ストレス状況においても感情的にならず、建設的に対応するための手技を身につける	看護師	9名	2019年9月20日
看護過程 (ライフサポート)	個別性のある看護を主体的に実践できる	看護師	4名	2020年2月12日
皮膚科・外科・眼科 ケアについて	ハンセン病療養所の看護師として必要な知識・技術を習得する	看護師	15名	2019年6月5日
フットケアについて	ハンセン病療養所の看護師として必要な知識・技術を習得する	看護師	36名	2019年6月18日 2020年2月18日 2020年2月21日
リハビリ・義肢装具 について	ハンセン病療養所の看護師・介護員として必要な知識・技術を習得する	看護師 介護員	25名	2019年7月23日
入所者が語る歴史	ハンセン病療養所の看護師として必要な知識・技術を習得する	看護師	33名	2019年11月25日
看護研究① (5回シリーズ)	職場の問題を解決できる	看護師 介護員	13名	2019年6月24日
看護研究② (5回シリーズ)	職場の問題を解決できる	看護師 介護員	14名	2019年7月29日
看護研究③ (5回シリーズ)	職場の問題を解決できる	看護師 介護員	13名	2019年9月24日
看護研究④ (5回シリーズ)	職場の問題を解決できる	看護師 介護員	12名	2019年10月28日
看護研究⑤ (5回シリーズ)	職場の問題を解決できる	看護師 介護員	9名	2019年11月26日
ボディメカニクス	ボディメカニクスの定義及び7つの原則と活用法を学ぶ	看護師 介護員	19名	2019年6月21日
メンバーシップ	チームメンバーとして自己の果たす役割を理解する	介護員	14名	2019年7月12日
ライフサポート	各部署におけるライフサポート活動を知る	看護師 介護員	27名	2019年10月31日

研修名	目標	対象者	人員	実施日
医療安全KYT	医療現場における安全を理解し、危険防止について実践できる	看護師 介護員	14名	2019年12月18日
リーダーシップ	チームの中での自分の役割を理解し、リーダーシップを理解する	介護員	10名	2019年11月22日
高齢者看護・介護 摂食・嚥下について	摂食・嚥下機能障害について学び、患者の食べる事の楽しみを支援する	看護師 介護員	27名	2019年6月19日
	摂食・嚥下機能障害について学び、患者の食べる事の楽しみを支援する	看護師 介護員	35名	2019年12月13日
高齢者看護・介護 「認知症」	認知症看護・介護Ⅰ 認知症看護の基本について理解する	看護師 介護員	27名	2019年7月17日
高齢者看護・介護 「認知症」	認知症看護Ⅱ 認知症の早期発見ができ、早期治療につなげることができる	看護師 介護員	14名	2019年9月17日
高齢者看護・介護 「認知症」	認知症看護Ⅲ 認知症のある人とコミュニケーションの基本的知識を理解し、状態に応じたコミュニケーションが実践できる	看護師 介護員	22名	2019年11月19日
高齢者看護・介護 「認知症」	認知症介護Ⅱ 認知症の病態を理解し、病期に応じた介護を理解し、介護の場面で実践できる	看護師 介護員	15名	2019年10月23日
介護を語る	介護体験を語る事ができる	看護師 介護員	23名	2020年1月28日



### 3. 看護学校

教育主事 小林 愛子

#### I. 令和元年度看護学校目標

##### 1. 質の高い教育実践

- 1) 国家試験対策マニュアルを策定・体制を整備し、国家試験合格100%を目指す
- 2) 看護技術経験録を見直し、卒業時技術到達度評価表を作成する
- 3) 前年度評価を活用し改善する
- 4) 研究授業や研修等への参加を通し、教員個々のスキルアップを行う
- 5) 研究に取り組み研究成果を学会等で発表する

##### 2. 学習環境の整備

- 1) カウンセラーによる学生相談室の開室に向けた準備をする
- 2) 進路指導の体制を整備する
- 3) 図書・教材器具の老朽化が目立ち更新が遅れている図書・教材教具を計画的に更新・整備する

##### 3. 危機管理

- 1) さまざまな災害に対応できるように看護学校災害マニュアルを整備する
- 2) 個人情報管理の徹底

##### 4. 健全な学校経営

- 1) 入学試験の受験人数を増やし、質の高い学生を確保する
- 2) 働きやすい職場づくり

#### II. 教育計画（2019年4月～2020年3月）

月 日	内 容
4月4日	始業式
4月8日	入学式 第52回生 13名 入学
4月18日	健康診断
4月22日	重監房資料館見学
5月8日	防災訓練
7月2日	七夕（園訪問）
7月26日・8月3日	学校説明会
10月15日	自己推薦入学試験
10月16日	健康診断
11月3日	学校祭「楓祭」テーマ：「令和で平和 笑顔の輪」、学校説明会
11月25日	第52回看護学生看護研究学会参加
12月5日	一般入学試験
2月16日	第109回看護師国家試験
3月2日	特別講演「プロフェッション」
3月3日	卒業記念講演「専門看護師の活動から看護の可能性を考える」
3月5日	卒業式 第51回生 19名 卒業
3月12日	終業式

## 4. 新型コロナウイルス対応について

新型コロナウイルスは2019年11月に中国武漢で発生が確認され、2020年1月下旬時点での主要なアウトブレイクは中国大陸に限局されていたが、その後は東アジア・ヨーロッパを中心とし世界各地に拡散した。

2020年1月31日、このウイルスの感染拡大が懸念されることから世界保健機関（WHO）は「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」（PHEIC）を宣言した。これを受け、日本政府は武漢に駐在する邦人を帰国させ、ウイルスの潜伏期間である2週間を隔離する宿泊施設支援要員として多磨全生園においても岩垂庶務課長、吉田看護師長、望月医化学主任技師を税務大学校（和光市）に派遣した。

3月11日にはこのウイルスの感染拡大について、WHOがパンデミック（世界的流行）相当との認識を初めて示した。国内では4月7日政府より緊急事態宣言を発出（16日からは全国の都道府県に拡大）し、東京都は5月25日に解除宣言がされた。

当園では2月の「武漢からの帰国邦人宿泊施設における支援業務」に引き続き、4月より三宅副園長、検体採取の要員として望月化学医主任技師、吉田看護師長、田澤看護師長、金子看護師長を成田空港検疫所へ派遣している。（令和2年8月現在継続中）

### 園内での対策状況等

#### 1) 入所者への感染症対策

- ・発熱等の風邪症状時は、原則個室対応（居室で療養困難時は病棟入室）
- ・毎日のバイタルサイン・体温測定を2回に変更
- ・委託診療先受入困難を想定し、隔離病棟の開設
- ・新型コロナ対策班（ICTとは別に特別設置（幹部等少数精鋭・約10人））
- ・園葬儀への園外者参列の自粛、参列者席の離席配置
- ・レクリエーション・イベント等について中止、規模縮小・外部者の抑制
- ・園内でのPCR検査及び抗体検査の実施
- ・COVID-19に関するレジストリ研究の参加（アビガン、オルベスコの適応外使用）

#### 2) 職員への感染症対策

- ・手指衛生の徹底と就業時マスク着用を全職員に周知
- ・出勤前体温測定と体調確認記録を全職員に徹底（朝夕1日2回に増）
- ・37.5℃以上もしくは平熱を1℃前後上回る発熱等の場合の出勤自粛
- ・本人、同居者、濃厚接触者に感染疑症状がある場合は職場報告を周知徹底
- ・在宅勤務、早出遅出の活用、週休日の平日振替、公共交通機関通勤から自家用車、自転車への変更、遠方通勤者の宿泊（官舎・研修棟の貸与）の奨励
- ・グループ編成による2班別出勤の導入、勤務場所・執務室の階別分離
- ・執務室対面デスクの天井ビニール仕切による分離
- ・事務当直者の寝室分離、対面執務の分離

- ・事務職・調理師の昼食時休憩室の複数化・分離拡大による3密防止
- ・委員会・会議の短縮化（30分以内）、資料メール送付による集会回避開催

### 3) 来園者への禁止措置

- ・入所者居室への訪問時は、面会者記録簿に記入のうえ園内通行証携行し、手指衛生とマスク着用を徹底し、体調の悪い者は面会を不可
- ・外来棟入口の入室規制
- ・園内東西南北入口各所に「園内立入自粛要請看板」の設置
- ・人が集まる桜公園等の入園規制ロープによる規制

### 4) その他特記事項

- ・出入りのNPO等と入所者・自治会と連動した語り部や園内視察等の自粛・中止
- ・園内郵便局の営業時間の短縮（朝夕各1時間の短縮）
- ・保育所は都の自粛要請を受け運営規模を縮小、保育料日割計算の実施
- ・園コロナ担当職員による第二種感染症指定医療機関への対応等視察研修
- ・近隣医療機関（NHO等）及び地元東村山市との情報交換、備蓄品準備相談



武漢からの帰国邦人宿泊施設における支援業務の様子（税務大学校）



## Ⅱ 行事・園外からの受入・研修等報告





# 1. 令和元年度 国立療養所多磨全生園主要行事表

月	行事名	実施日時	備考
4月	観桜会	4月3日(水) 午後1時30分～	
	看護学校入学式	4月8日(月) 午後2時00分～	
	市民公開講座	4月13日(土) 午後1時00分～	主催：資料館、資料館にて
	葛西臨海水族園による移動水族館	4月23日(火)	110周年記念事業
	林家さん喬落語会	4月26日(金)	110周年記念事業
5月	東村山市清掃ボランティア	5月10日(金)	
	園内歩け歩け運動	5月15日(水) 午後1時30分～	
6月	多磨全生園看護師採用試験	6月1日(土)	
	駅からハイキング	6月1日(土)～6月16日(日)	主催：JR東日本、本年度よりルートに組み込み
	柏田ほずみオペラ	6月17日(月)	110周年記念事業
	東京都認可外保育施設に対する立入調査	6月18日(火)	
7月	厚生労働省官房会計監査	7月10日(水)～7月12日(金)	
	(株)エプソンによる夢水族園(プロジェクションマッピング)	7月18日(木)	110周年記念事業
8月	納涼祭	8月1日(木)	
	ハンセン病医学夏期大学講座	8月5日(月)～8月9日(金)	主催：ハンセン病研究センター
9月	敬老の日記念式典	9月3日(火) 午後1時30分～	
	墓参	9月19日(木) 彼岸	
	全生園まつり(演芸)	9月下旬から10月18日迄	
	林家たい平、柳家三三落語会	9月26日(木)	110周年記念事業
	創立110周年記念式典	9月28日(土) 午後1時00分～	
	吟剣詩舞スーパーチーム公演	9月28日(土)	110周年記念式典のアトラクション
10月	合同慰霊祭	10月3日(木) 午後1時30分～	
	ハワイアンフラダンスショー	10月10日(木)	110周年記念事業
	全生園まつりセンターコーラス	10月18日(金) 午後1時30分～	
	コメディカル学会学術集会	10月18日(金)～10月19日(土)	宮古南静園にて
11月	全生園まつり	11月1日(金)～11月3日(日)	
	楓祭(学園祭)	11月3日(日)	
	国立病院総合医学会	11月8日(金)～11月9日(日)	名古屋市にて
	焼き芋会	11月13日(水) 午後1時30分～	
	厚生労働省文書管理に係る監査	11月27日(水)	
12月	駿河との医療安全合同カンファレンス	12月10日(火)	駿河療養所にて
2月	災害時における施設等の利用に関する協定(締結式)	2月19日(水)	多磨全生園にて
3月	看護学校卒業式	3月5日(木) 午後1時30分～	
	墓参	3月18日(水) 彼岸午後1時30分～	

## 2. 創立百十周年記念式典・集い

国立療養所多磨全生園

### 創立百十周年記念式典・集い

日 時 令和元年九月二十八日（土）  
式 典 午後一時より  
資料館見学 午後二時四十五分より  
記念の集い 午後三時四十五分より

### 百十周年記念式典

（司会 国立療養所多磨全生園 庶務課長 岩垂 朋昭）

- |            |  |  |
|------------|--|--|
| 一、開式の辞     | 国立療養所多磨全生園副園長  | 三宅 智   |
| 一、黙祷       |  |  |
| 一、国歌斉唱     |  |  |
| 一、式辞       | 国立療養所多磨全生園長<br>多磨全生園入所者自治会長  | 石井 則久<br>平沢 保治   |
| 一、厚生労働大臣告辞 | 厚生労働大臣   | 加藤 勝信  |
| 一、来賓挨拶     | 東京都 福祉保健局長<br>東村山市長  | 内藤 淳<br>渡部 尚   |
| 一、電報披露     |  |  |
| 一、感謝状贈呈    | 国立療養所多磨全生園長<br>多磨全生園入所者自治会長<br>多磨全生園入所者<br>多磨全生園入所者<br>東村山市緑を守る市民協議会会長<br>東村山活き生きまちづくり理事長<br>天理教むさしの支部 | 石井 則久<br>平沢 保治<br>天野 秋一<br>中島 一<br>石橋 博<br>澤田 泉<br>井餘田 多久郎 |
| 一、閉式の辞     | 多磨全生園入所者自治会副会長   | 藤田 謹三  |

### アトラクション【日本吟剣詩舞振興会 スーパーチーム】

### 国立ハンセン病資料館見学

### 百十周年記念の集い

（司会 国立療養所多磨全生園 庶務課長補佐 村山 隆司）

- |            |                    |                |
|------------|--------------------|----------------|
| 一、開会・歓迎の挨拶 | 国立療養所多磨全生園副園長      | 三宅 智           |
| 一、来賓挨拶     | 東京都知事<br>法務省人権擁護局長 | 小池 百合子<br>菊池 浩 |
| 一、乾杯       | 国立療養所多磨全生園看護部長     | 松岡 宣代          |
| 一、閉会の挨拶    | 国立療養所多磨全生園事務部長     | 水谷 義彦          |

（敬称略）

## 式 辞

国立療養所多磨全生園長 石井 則久

国立療養所多磨全生園は、本日、2019年、令和元年、9月28日、創立110周年を迎えました。

創立110周年の式典に当たり、多数の来賓の御臨席を賜りありがとうございます。

皆様には日頃から当園の運営に対して多大なるご理解、ご協力を頂戴し、深く感謝申し上げます。

当園は、1907年、明治40年の「癩予防ニ関スル件」に基づき、2年後の1909年に第一区府県立全生病院として、東京府東村山村に創立されました。武蔵野の雑木林に包まれた緑豊かな自然環境の地にハンセン病の病院を建設することになりましたが、幾多の困難にあい、4月予定から半年遅れの病院創立でした。

偏見差別にあい、家族や友人からも別れ、治療薬もなく、障害が進んだ体で患者は入院してきました。北條民雄の小説は1934（昭和9）年頃の全生病院の情景を描いていますが、入院しても治療薬は寛解がわずかに認められる筋肉注射の大風子油のみで、さらに職員や運営費は極端に少なく、軽症患者が重症患者の看護や日常の世話をし、多くの食料を自給する状態でした。入所者の増加と共に、狭い敷地を拡大するため、入所者が農産物などを売り、集まった資金で新たに土地を購入し、園に寄付することも行われていました。入所者は、知覚障害、運動障害があるため、病状の悪化の他、園内作業などのため、手、足、顔面、眼などの障害は進行していきました。

1941年、昭和16年に厚生省移管で、国立療養所多磨全生園になりましたが、戦争中の物資食料の払底、職員減少、結核の蔓延などで多くの療友が納骨堂の御霊になりました。

1946年の石館プロミン使用からようやく日本のハンセン病治療の歴史は始まりますが、内服薬のDDSの時代になっても「らい予防法」の下、隔離政策は続きました。新たな患者、新規入所者は減少し、最大1,518名の入所者も減少の一途をたどりました。1981年に世界保健機関（WHO）が新たな治療法、すなわち、リファンピシン、クロファジミン、DDSの3剤による多剤併用療法を提唱する頃には療養所入所者の治療はほぼ最終の時期でした。

110年間の入所者の生活は困難の連続でした。1996年のらい予防法の廃止によりハンセン病を取り巻く環境は大きく変わっていきました。本年9月現在152名の入所者が暮らしています。心安らかに安心して生活できる環境を入所者の方々と職員で作って、日々改善に努め



ています。しかし平均年齢は86歳と高齢になり、身体的な困難さと共に心のよりどころにも困難さが出てきています。職員377名は入所者に寄り添うべく努力しています。

この110年間、入所者に寄り添った職員は多数いました。設立当初は医師、看護師、事務員は数えるばかりしかいませんでした。ハンセン病の施設の職員というだけで、彼らもその家族も偏見・差別を受けていました。その中にあっても誠心誠意、患者に寄り添っていました。

全生園は東村山市にあります。地域の方々との交流も深まっています。全生園を散策したり、園児や児童・学生の歓声、野球に興じたりする姿は、開かれた全生園の姿です。緑多い全生園は市民、都民、国民にハンセン病の歴史を伝え、人権の大切さを発信し、偏見・差別のない世界になるように、緑を大切にしていきます。来年の東京オリンピックでは聖火のトーチがここ、全生園にもやってきて、偏見・差別のない平和な社会を作る理念を訴えていきます。

最後に、天国に旅立った4,226名の御霊に謹んで哀悼の意を捧げ、ハンセン病の偏見・差別のない、人権を尊重した社会にし、入所者が心安らかに毎日を送り、更に平和な世界を目指すことを誓って、式辞といたします。



## 式 辞

多磨全生園入所者自治会長 平沢 保治

本日、厚生労働大臣加藤勝信先生をはじめ、多くの関係する先生方のご臨席をいただき、多磨全生園創立110周年の記念式典を厳粛に執り行うことが出来、入所者一同喜びと感謝の意を表します。

多磨全生園は、明治40年制定された法律に基づき、内務省省令に従って、第1区府県立全生病院として、明治42年9月28日発足しております。発足が、年半ばになったのも設立にあたり、

村民の激しい反対運動がおこり、当時の立川村長は、落ち葉の山の中に隠れて、命を繋いだと言われていました。

園の運営は、自給自足・刑務所に一等軽じた形で行われ、大正4年には患者心得に基づいて監房が設置、無断外出や運営に不満を口にするものは、園長の一言によって牢につながれ、食事の制限、治療なども行われませんでした。

また、通い婚と言って、女子寮の独身のところに男性が夜だけ泊まりに行くという制度も設けられました。

大正8年から昭和27年まで園内通用券の発行、大正13年には敷地の第一次拡張が行われ、逃亡防止の穴を患者自らが掘り、その残土を3年かけて積み上げ、10メートルの丘を作りました。その丘に登ると、外部が望め、故郷や肉親に思いを寄せる場所となっていました。誰言うとなく、望郷の丘と名付けられました。

昭和6年にはらい予防法が設置され、国が療養所を作り、昭和19年までの間に13の療養所が全国に作られ、うち4つの公立療養所も昭和16年国立に移管され、全生病院から多磨全生園と園名も変わりました。

無らい県運動や家族の苦痛は、筆舌に尽くしがたいものがありました。

昭和13年には草津の重監房の設置、大東亜戦争に入り、物資の不足、食糧難、防空壕を掘ったり、外部の空襲によって受けた被害のあと片付けなどにも駆り出され、人間の肉以外食べられるものはなんでも食べて命を繋ぎました。

昭和20年、終戦によって新しい時代、夜明けが到来しました。それは治療薬プロミンの出現です。でも国はこの治療に消極的で、多くの方は家族などの借金によって、治療を受けなければなりません。4年が経ち、ようやく昭和24年から全園の入所者にプロミンの治



療が始まり、ハンセン病も治る時代に突入しました。

私たちは、生きるための行動の基盤として昭和26年、全らい患協を組織し、昭和28年には治った人は、外へ出してほしいという、らい予防法の改正運動に立ち上がりました。全生園の入所者は8月1日所沢街道を田無まで、デモ行進を行いました。当時の3園長の証言によって、われわれの思いは実現されませんでした。付帯決議として、ハンセン病研究所と高等学校を岡山につくるにとどまりました。この決定は、外国の関係者から批判を受け、国もようやく外に行きたい人は出て行けということになり、元気な人が出ていき、働きに行くようになりました。

入所者の労働が中心だった園の運営は極度にゆきずまり、職員による園の運営を求めて、盲人や不自由者センターの人たちが立ち上がり、職員看護切替や一切の患者作業の廃止へとつなげていき、昭和44年再建された自治会は、療養所らしい医療機関としての生活環境、年金の導入、将来構想に基づき、園内に木を植えて、感謝のしるしとして森を残そうという運動をおこし、現在の人権の森に繋がっております。

また、われわれの歴史をわれわれがいなくなっても残そうと、高松宮記念ハンセン病資料館を自力で作成し、運営に携わってきました。

平成8年にはらい予防法もようやく廃止させる事もでき、13年にはらい予防法違憲国賠訴訟にも勝利し、世界のハンセン病の人たちとの交流も始まりました。

ハンセン病は医学的には解決させましたが、偏見の除去のために国連でも決議させることもできました。平成22年ハンセン病等基本法が成立し、ひとりになっても面倒をみてくださるというように、法律的には裏付けられましたが、今後の療養所の将来構想が、大きな課題になっています。

100年から110周年の10年間には、うれしいこともかなしいこともたくさんございました。

うれしいことは、基本法の成立、国連での決議、多くの人たちが、ハンセン病を理解するための諸施策の制定、遅れていた最高裁判所を中心とする法曹界の反省と謝罪、全生園では不自由者センターの生活に看護師が配置され、在宅で終焉を迎える体制の方向づけなどです。また明年7月14日オリンピックの聖火が全生園に入ることです。

悲しいことは、昭和47年療養所課長として厚生行政の第一線でハンセン病の療養生活の改善と高松宮記念ハンセン病資料館の設立、らい予防法廃止、らい予防法熊本裁判では、2回にわたって証人台に立たれた大谷藤郎先生が、亡くなられたことです。私自身公私にわたって家族同様のご指導をいただいております。大谷先生との出会いがなかったら、今日の私はないと思っています。日本と世界の公衆衛生の第一人者であり、奥さんご自身もがんと闘いながら、私たちに光と喜びを与えてくださった大谷先生、100周年の時には記念公演をしてくださいました。この場にはいないことを残念に、悲しく思います。また自治会会長を13年間続けられた佐川修氏もなくなりました。また、平成5年から全療協事務局長や会長を



務められ、闘いのなかで戦死した神美知宏さんにも思いを寄せなければなりません。またこの世を去った方すべてに思いを寄せています。

この様に全生園の110年の歴史に思いを寄せながら、今日の日を120周年への新しい出発点として、人間らしく生きていく多磨全生園。俱会一処、相愛互助の理念に基づき、私たちは沈みゆく夕陽のように真っ赤に燃えながら生涯を終わりたいと思います。ご臨席の先生方のこれからの御支援とご健勝をお祈りし、式辞と致します。

## 厚生労働大臣告辞

厚生労働大臣 加藤 勝信

本日、ここに国立療養所多磨全生園創立百十周年記念式典が挙行されるに当たり、一言御挨拶を申し上げます。

国立療養所多磨全生園は、明治四十二年九月二十八日に創設され、本日、百十周年を迎えることとなりました。この百十年の間、幾多の困難を乗り越えられたのは、創設以来の入所者の皆様の御努力、地元の皆様の深い御理解・御協力や歴代の園長をはじめ、関係者の皆様の御努力の賜物であり、心から敬意を表し、感謝申し上げます。



これまで、らい予防法をはじめとする国の隔離施策により、ハンセン病に対する社会の厳しい差別、偏見を生み、ハンセン病の元患者や家族の皆様に筆舌に尽くしがたい苦痛と苦難を与えた事実があります。厚生労働大臣として真摯に反省し、深くお詫びするとともに、多大な苦しみの中で亡くなられた多くの皆様に哀悼の意を捧げます。

二度と繰り返してはならないこの歴史を、後世に確実に伝えていくため、国立ハンセン病資料館が運営されており、これまで45万人以上の方に来館いただいております。元患者の皆様に対する偏見・差別の歴史、その苦難の体験、ハンセン病に関する医学的知識・治療等に関する資料の展示、学芸員や語り部による活動などを通じて、引き続きハンセン病に関する正しい知識の普及啓発に努めます。

また、御家族の差別被害等に対して国に賠償を命じた熊本地裁判決について、政府として控訴しない判断を行い、訴訟に参加されなかった方々も含めた新たな補償のための立法措置を講ずるとともに、御家族の皆様のお話を伺いながら偏見・差別の解消に向けて政府一体として取り組んでいくことをお約束しました。

こうした取組みを通じて、これからも元患者及び御家族の皆様の名誉回復や偏見・差別の根絶に向けた取組を行ってまいります。

また、入所者の皆様が地域社会から孤立することなく、良好かつ平穏な生活を営むための

基盤整備も重要です。多磨全生園の将来構想において、「入所者が最後まで医療、看護、介護を十分に受けられ、安心して生活ができる環境整備」、「ハンセン病の歴史を後世に伝えるため、多磨全生園をハンセン病記念公園として保存する人権の森構想の推進」、「地域との共生」が定められており、その実現に向けて着実に取り組んでいく必要があります。

入所者の皆様の高齢化が進む中、医療・看護・介護体制の確保は大きな課題です。医師をはじめとする職員の確保や処遇の改善を図ってまいります。

さらに、「地域開放の推進」の取組として、平成24年に花さき保育園を誘致し、入所者の皆様と保育園のお子さんや地域住民との交流が深められております。

加えて、地元自治体である東村山市にも参画いただき、多磨全生園、入所者自治会、東村山市による「国立療養所多磨全生園将来構想に係る意見交換会」を開催し、多磨全生園の将来構想をより深めていく話し合いを行っているところです。

来年に迫った2020年東京オリンピック・パラリンピックにおいては、聖火リレーの「セレブレーション会場」として多磨全生園が選ばれております。

このような取組を通じて、社会におけるハンセン病への理解が、より一層促進することを心から願っております。

最後に、「ハンセン病問題の解決の促進に関する法律」が平成21年4月に施行されてから、本年で10年が経過しました。5月に平成から令和へと元号が変わり、新しい時代の幕開けとなりましたが、時代が移り変わる中でも、ハンセン病問題の解決は未だ道半ばです。

引き続き、ハンセン病問題の解決に、全力を挙げて取り組むことをお約束し、そして、本日お集まりの皆様の御健勝を祈念して、私の挨拶といたします。

## 来賓挨拶

東京都 福祉保健局長 内藤 淳

本日は、国立療養所多磨全生園、創立百十周年記念式典にお招きいただき、東京都を代表して厚く御礼申し上げます。

多磨全生園は、明治四十二年、第一区府県立全生病院として開設され、今日までに、およそ九千五百名の方が入所されています。

本日の式典を迎えるにあたっては、入所者及びご家族の皆様、関係者の皆様お一人お一人において、言葉では言い表せない様々な思いがあることと拝察いたします。

平成八年に、「らい予防法」が廃止され、また、平成二十一年には、ハンセン病問題で被害を受けた皆様の福祉の増進、名誉の回復を目的とした「ハンセン病問題の解決の促進に関する法律」が施行となりましたが、入所者の皆様やご家族など多くの方々が強いられてきた、長きにわたる偏見と差別の中でのこれまでの苦難は、察するに余りあるものがあります。

都は、毎年六月の「らい予防法による被害者の名誉回復及び追悼の日」に合わせてハンセン病問題に関する啓発行事を開催し、正しい知識の普及に取り組んでいます。

また、昨年二月には、ハンセン病に対する正しい理解を深めることを通じ、差別や偏見がなく、すべての人が「共に生きる」、より良い社会づくりに貢献することを目的として、多くの都民にご参加をいただき、ハンセン病問題に関するシンポジウムを開催いたしました。

都は、入所者及びご家族の皆様が、いわれなき差別に長きにわたって苦しまれた事実を忘れることなく、これからもハンセン病に対する偏見や差別のない社会の実現を目指して、施策を推進してまいります。

結びに、多磨全生園創立百十周年の節目を迎え、入所者の皆様やご家族の皆様、職員をはじめとする関係者の皆様のご健勝を祈念し、本日のご挨拶とさせていただきます。





## 来賓挨拶

東村山市長 渡部 尚

多磨全生園がここ東村山の地に開園し、110周年を迎えました。手放しでお祝いを申し上げるには、多磨全生園のこの110年の歴史は極めて重く、入所者の皆様にとりましては筆舌に尽くし難い苦しみと悲しみの110年であるとともに、改めてそのような歴史を刻んでこられた入所者の皆様に15万市民を代表し深甚なる敬意を表する次第でございます。



さて、1907年（明治40年）に法律「癩予防ニ関スル件」が制定され、全国を五つのエリアに分け、それぞれに連合府県立療養所が設置されることとなり、関東甲信越における療養所は、当初は私立慰廃園のあった目黒村が候補地として考えられていたものの、地域住民の強い反対により断念され、次に現在の青梅市や町田市、西東京市、清瀬市が候補地に挙がりましたが、これらもことごとく地域住民の反対で頓挫し、最終的に東村山が候補地として決定したのであります。

しかし、当時の東村山村もすんなりと受け入れたわけではなく、激しい反対運動が展開され、立川伊兵衛村長らが襲撃され多数の逮捕者を出すという流血事件、いわゆる「東村山騒擾事件」にまで発展しています。立川村長は九死に一生を得るような大怪我を負い、その後も後遺症に苦しまれたと聞いています。

こうした候補地となった地域の住民の激しい反対運動の背景には、国民の間にハンセン病を忌み嫌い遠ざけようとする意識が強固に存在していたことを物語っています。当時、ハンセン病に対し現在のような科学的な正しい認識はなく、「不治の病」「悪性伝染病」と喧伝されていたとはいえ、国民のハンセン病に対する偏見、差別が根強いものであったことは、後世の私たちも反省の意味を含め、今一度確認しておく必要があると存じます。

その後も、ハンセン病に対する忌避する態度は続きましたが、入所者の皆様の勇気ある闘いと先覚的な心ある市民の努力により、徐々に入所者の皆様と市民の交流は活発となり、少しずつハンセン病に対する正しい理解が進んできているものと感じております。

このような長い歴史の中で、今から10年前の今日、開園100周年を記念し、多磨全生園の豊かな緑と人権の歴史を長く後世に伝えるため、東村山市は「いのちとこころの人権の森宣言」を行って以降、市では、多磨全生園や入所者自治会の関係者の皆様と共に、様々な取り組みを行ってまいりました。平成25年度からは、人権の森構想推進のポスター等グッズ及び

DVD「ひいらぎとくぬぎ」、写真集「いのちの森に暮らす」の作成による普及啓発、「清掃ボランティア」に加え、平成27年度からは「語り部講演会」及び「散策ガイド」を開催したほか、東京都主催の「ヒューマンライツフェスタ東京」に都内の自治体として唯一の参加、そして、平成28年度からは「多磨全生園を学ぶ講座」の開催、平成29年度には、河瀬直美監督・樹木希林主演でハンセン病元患者とその周辺の間人ドラマであり、多磨全生園をはじめ、ほぼ全編、東村山市が舞台となった映画「あん」凱旋上映会の開催など、東村山市内外に向け様々な普及啓発事業に取り組んでまいりました。

このほか、将来構想の取組みといたしまして、平成24年7月に、「花さき保育園」が開設され、我が国のハンセン病の歴史の中で新たな1ページが開かれました。国の誤った強制隔離政策により、子どもを産み育てる権利を奪われた入所者の皆さまが待ちに待った子どもたちの声が聞こえるようになり、入所者の皆さまが平穏に暮らせる環境づくり、そして地域との交流が促進されましたことにつきまして、たいへん感慨深く感じております。また、昨年11月からは、多磨全生園園長、多磨全生園入所者自治会会長、私、東村山市長の3者で意見交換の場を持つことができました。

3者の長が一堂に会して意見交換を行ったことは、将来構想の策定以降、初めてのことであり、それぞれの思いを共有できたことは大きな成果であったものと考えております。

3者による意見交換の場を今後も継続し、市民の財産、国民の共有の財産である多磨全生園の将来構想の実現、人権の森構想の推進に向け、各関係方面と連携を深めるとともに、普及啓発にも引き続き取り組んでまいります。

さて、つい昨日のことではございますが、多磨全生園入所者自治会の平沢保治会長に東村山市民栄誉賞をお贈りさせていただきました。

平沢氏におかれましては、齢90歳を超えても今なお多磨全生園入所者自治会会長として「人権の森」構想推進に情熱を傾けられ、その活動の先頭に立って、ハンセン病への正しい理解の普及啓発のための講演や語り部活動等を全国で行い、命の大切さ、人権の尊さを長きに渡り市内外の数多くの方に伝え続けておられます。

また長年に渡り、市内小・中学校の児童生徒へ限りない愛情を注いで、自分の命も他人の命も大切にし、いじめや差別はいけないことであるという人権教育を直接行っていただき、児童生徒の豊かな心を育成する上で、多大な貢献をいただき、困難を乗り越えながら人間の尊厳と生きることの素晴らしさを発信し続ける平沢氏のこれまでの比類ないご功績を15万市民の皆さまと顕揚するため、東村山市民栄誉賞をお贈りさせていただきました。

さらには、既にご存知の方も多くいらっしゃると思いますが、来年7月14日に東京2020オリンピックの聖火リレーセレブレーションが多磨全生園で開催されることとなりました。人権の大切さと差別のない共生社会の実現を目指す私たちの決意を、多くの市民、入所者の皆さま、そして関係者の皆さまとともに、国内外に発信する極めて重要な機会となるとともに、



未来への大きなレガシーとして、語り継がれていくことになるものと考えております。

聖火リレーセレブレーションとあわせ、ハンセン病療養所の所在する全国12市町で構成され、私が会長を拝命しております、全国ハンセン病療養所所在市町連絡協議会の来年度の総会も多磨全生園で開催することとなり、全国より多くの方が東村山市にお越しいただきますので、万全を期して準備を進め、皆さまをお迎えしたいと考えております。

これまでも桜の開花時や納涼祭、全生園まつりなど多くの市民が園を訪れ交流をさせていただいておりましたが、110周年を迎え、命の輝きそのものとなっている3万本の緑や歴史的建造物をいかに後世へ守り残し、歴史を語り伝えていくか、東村山市としては多磨全生園の皆様とともに課題を解決していく重要な時期であると捉えております。

この令和という新時代を、これまで以上に、園や入所者自治会をはじめとする関係者の皆様や市民の皆様と共に力を合わせ、明るく平和な未来に向け新たな歴史の扉を開くべく、歩んでまいりたいと考えております。

最後になりましたが、これまでに多磨全生園でお亡くなりになった4,226名の方々の御霊の安らからんこと、そしてご高齢となられた入所者の皆様の末長いご健勝とご長寿をお祈りするとともに、石井園長はじめ、歴代の園長や園職員の皆様の献身的な医療、看護、介護ならびに本日ご臨席の関係者の皆様の全生園と入所者の皆様に対するご理解とご支援に敬意と感謝を申し上げまして、挨拶といたします。

## 来賓挨拶

東京都知事 小池 百合子

石井園長、平沢自治会長、皆様、こんにちは。  
東京都知事の小池百合子です。本日は、多磨全生園の創立110周年の記念の集いにお招きいただき、ありがとうございます。

明治42年の創立から110年。元号は大正、昭和、平成、令和へと変わりましたが、この間、この全生園においては延べ1万人の方が、ご家族の元を離れて入所されたと伺っています。共同生活を送るお仲間もいらっしゃったとはいえ、どれだけ寂しい思いをされたことか、想像するに余りあるものがございます。また、お亡くなりになられた後も、引き続きこの地に眠られている方々に対しまして、深い哀悼の意を表します。



ハンセン病をめぐる歴史は、今を生きる私たちすべての者が学び、未来に向けての教訓としなければなりません。改めて申すまでもなく、患者の皆様は、古き時代から偏見と差別の中で苦難を強いられてこられました。それは、昭和28年に制定された「らい予防法」において「隔離政策」として続き、ハンセン病が治療可能となった昭和30年以降、さらには予防法が廃止になった平成8年以降においても、入所された皆様ならびにご家族の皆様は、引き続き耐え難い苦痛を受けてこられました。

私は国会議員時代から、患者や回復者の方々の名誉回復や生活保障などについて、正面から取り組んでまいりました。都知事就任後も平成29年4月にこちらに伺い、入所された皆様の長年の労苦をねぎらわせていただきました。このようなことは繰り返してはならない、そして、偏見・差別を無くしていかなければならないとの思いを改めて強くし、都として様々な啓発事業を推進しているところです。

さて皆様もご存じと思いますが、来年は、昭和39年の前回大会から約半世紀ぶりに東京で再びオリンピック・パラリンピック大会が開かれます。今日は開催まで残りちょうど300日です。

開催に先立ち来年3月からは、五輪発祥の地ギリシャで採火された聖火が、東北地方をスタートし日本全国を駆け巡ります。この「平和・団結・友愛」の精神を体現する聖火は、大震災の苦難からの復興の道を歩む東北の人々を励まし勇気づけるなど、沢山のひとと人の心を繋ぎながらリレーされ、7月14日に、この多磨全生園にもやってきます。

私は、このオリンピック・パラリンピック大会の成功を通じて東京を、年齢や性別、国籍や障害の有無を問わず、すべての人々が社会の一員として尊重され、いきいきと生活できる都市にしていきたいと思っております。そしてそのために、ハンセン病が正しく理解される日が一日も早く訪れるよう、都として今後とも、ハンセン病に関する正しい知識の普及啓発に努めてまいります。

結びに、多磨全生園創立110周年の節目を迎え、入所者の皆様やご家族の皆様、職員をはじめとする関係者の皆様のご健勝とご多幸を祈念し、私のご挨拶とさせていただきます。

皆様、これから寒くなりますが、どうぞご自愛ください。

## 来賓挨拶

法務省人権擁護局長 菊池 浩

ただいま御紹介いただきました法務省人権擁護局長の菊池です。

本日は、国立療養所多磨全生園創立百十周年の記念式典及び記念の集いにお招きいただきありがとうございます。

多磨全生園は、明治42年の創立以来、明治・大正・昭和・平成・令和の5つの時代を跨ぎ、長い歳月を重ねてこられました。

その間、様々な苦しみを受けられたハンセン病の回復者やその御家族の方々に心からお見舞いを申し上げますとともに、亡くなられた方々に謹んでお悔やみを申し上げます。

人権擁護行政を所管する法務省といたしましては、ハンセン病をめぐる偏見や差別をなくすことを強調事項の一つとして掲げ、様々な人権啓発活動を展開してまいりました。

去る8月31日には、静岡市において、「ハンセン病に関する親と子のシンポジウム」を開催し、石井園長にも御登壇いただいたところでございます。

このシンポジウムは、次の世代を担う子どもたちに、ハンセン病に関する人権の歴史を含めた正しい知識をもってもらい、偏見という心の壁を取り除いて、相手を思いやる心を育んでもらうことを目的として、平成17年以降毎年開催しているものです。

また、本年度はさらに、来年2月1日、名古屋市においても、ハンセン病に関するシンポジウムを開催する予定です。

(記念式典における加藤厚生労働大臣のお話の中でも言及がありましたが、) 私ども法務省の人権擁護機関といたしましても、いわゆるハンセン病家族訴訟の判決受入れに当たっての内閣総理大臣談話にのっとり、患者・元患者やその家族がおかれていた境遇を踏まえた人権啓発活動の強化に一層取り組んでまいりたいと思います。

全生園の「全てが生きる」という言葉は、現在、世界中で、官民をあげて取り組んでいる「誰一人取り残さない社会の実現」すなわちSDGsの取組にもつながるものと、私は思います。

この機会に、多磨全生園の百十年の歴史の重みに改めて思いを馳せ、これからも、入所者の方々を始めとする回復者の皆さまやその御家族の方々に寄り添いながら、偏見や差別を解消するための取組を着実に進めていくことをお誓い申し上げます、御挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。







納骨堂にて加藤厚生労働大臣の献花



記念式典 感謝状授与



自治会と加藤厚生労働大臣との会談



アトラクションの吟剣詩舞スーパーチーム



記念の集い 鏡割り



アトラクションのまぐろ解体ショー

### 3. 災害時における国立療養所多磨全生園の施設等の利用に関する協定

平成30年11月から東村山市、入所者自治会、多磨全生園の三者による意見交換会を行い、将来構想の一環として多磨全生園を東村山市の防災拠点として活用することを検討してきました。

東村山市、入所者自治会との協議がまとまり、令和2年2月19日に福祉サービス棟3階研修室で協定式の調印を行いました。

同協定は、東村山市民の生命、身体および財産を災害から保護するため、多磨全生園を避難場所や防災対応の拠点として、入所者さんの生活を妨げない範囲で活用していくことを目的としています。

現在、東村山市の喫緊の課題である新規防災備蓄倉庫の設置等に向けて具体的に協議しています。





## 災害時における国立療養所多磨全生園の施設等の利用に関する協定

東村山市（以下「甲」という。）、国立療養所多磨全生園（以下「乙」という。）及び多磨全生園入所者自治会（以下「丙」という。）は、災害時における国立療養所多磨全生園の施設等の利用に関する協定について、以下のとおり締結する。

### （趣旨）

第1条 甲は、災害時に東村山市民の生命、身体及び財産を災害から保護するため、本協定に基づき、乙の施設等を避難場所や災害対応の拠点等として、乙の入所者の居住を妨げない範囲で利用する。

### （定義）

第2条 本協定における「災害時」とは、災害対策基本法（昭和36年法律第223号）第2条第1号に規定する災害が発生した場合をいう。

2 乙の施設等（以下「施設等」という。）とは、乙内の建築物、設備及び土地をいう。

3 施設等の利用とは、自宅倒壊等の被害を受けた者の避難先、帰宅困難者の一時滞在先、応急仮設住宅、資機材保管場所等として現存する建物及び土地を利用することをいう。

### （施設等の利用）

第3条 甲は、災害時に施設等を利用する場合、その都度、乙及び丙に施設等の利用範囲を確認し、利用するものとする。

2 甲は、東村山市外であっても近隣を含む広域災害時など、その規模によっては、施設等の利用を乙に要請する場合がある。その場合、乙は丙と協議して利用の可否を確認し、甲と具体的な利用内容を協議するものとする。

3 乙及び丙が災害等により緊急対応が必要と判断した場合は、その具体的対応について甲に確認することができる。

### （体制）

第4条 甲、乙及び丙（以下「三者」という。）は、本協定を円滑に遂行できるようにするため、対応マニュアル並びに三者の責任者及び連絡先一覧を作成し、三者間で共有するものとする。対応マニュアルの内容等を変更しようとする場合も、三者間で事前に協議を行うものとする。また、人事異動等により三者の責任者及び連絡先一覧に変更が生じた場合は、三者間でそれぞれ共有するものとする。

### （費用負担）

第5条 本協定の対応により発生する物品購入や役務等の費用については、甲が支払うこととする。

(災害補償)

第6条 本協定の対応により業務に従事した者がその業務中に負傷し、もしくは疾病に罹り、又は死亡した場合、甲の職員については、東京都市町村消防団員等公務災害補償条例（昭和63年組合同令第19号）の規定に準じてこれを補償し、乙の職員については、公務上の災害（負傷、疾病、障害又は死亡）又は通勤による災害と認められる場合は、国家公務員災害補償法（昭和26年法律第91号）の規定に基づいて補償する。

(協定期間)

第7条 この協定の有効期間は協定締結の日から1年間とする。ただし、この協定の有効期間満了日の3か月前までに三者のいずれからも何ら申し出がないときは、さらに1年間の期間を延長することに同意したものとみなす。以後この例による。

(疑義)

第8条 この協定に定めのない事項及びこの協定に関し疑義が生じたときは、三者で協議のうえ、決定する。

この協定を証するため、本協定書を3通作成し、三者はそれぞれ記名押印のうえ、各1通を保有する。

令和2年2月19日

甲 東村山市本町一丁目2番地3

東村山市長 渡部 尚

乙 東村山市青葉町4丁目1番地1

国立療養所多磨全生園

園長 石井 則久

丙 東村山市青葉町4丁目1番地10

多磨全生園入所者自治会

会長 平沢 保治

#### 4. 厚生労働省・法務省等視察状況

来園者	年月日	備考
山本憲幸東京法務局人権擁護部長	2019年5月23日	
菊池浩法務省人権擁護局長	2019年7月23日	
根本匠厚生労働大臣	2019年7月26日	
橋本岳厚生労働副大臣	2019年9月26日	
参議院厚生労働委員会調査室	2019年9月26日	新井次席調査員ほか8名
加藤勝信厚生労働大臣	2019年9月28日	110周年記念式典前に懇談
佐々木さやか文部科学大臣政務官	2019年10月16日	
衆議院厚生労働委員会	2019年11月11日	森山正仁、後藤茂之、新谷正義、富岡勉、長尾敬、平口洋、小川淳也、大西健介、高木美智代、安藤高夫、上野宏史、木村哲也、西村智奈美、宮本徹、藤田文武（敬称略）
参議院厚生労働委員会	2019年11月12日	そのだ修光、石田昌宏、小川克己、足立信也、石橋通宏、山本香苗、藤井基之、本田顕子、川田龍平、田島麻衣子、田村まみ、芳賀道也、福島みずほ、下野六太、平木大作、東徹、梅村聡、倉林明子（敬称略）
小島敏文厚生労働大臣政務官	2019年12月12日	
内田敏之大臣官房会計課監査指導室長	2020年1月7日	
財務省主計局厚生労働第四係 熊谷司主査	2020年1月23日	
クルス国連ハンセン病差別撤廃特別報告者	2020年2月14日	

## 5. 看護学生実習・施設見学・研修等施設利用許可状況

### 1. 実習受け入れ状況

#### 1) 国立ハンセン病療養所附属看護学校

	学校名	実習者数	実習名	受入期間	実習場所
1 学年	国立療養所多磨全生園附属看護学校	4名	基礎看護学実習	令和元年10月21日～11月8日	やすらぎ病棟
2 学年	国立療養所多磨全生園附属看護学校	20名	老年看護学実習	①令和元年9月2日～9月20日 ②令和元年9月24日～10月11日	1 病棟 やすらぎ病棟
		20名	在宅看護学実習	①令和元年9月12日～9月20日 ②令和元年10月3日～10月11日	第1センター 第3西センター

#### 2) その他

	学校名	実習者数	実習名	受入期間	実習場所
1	国立看護大学校	24名	政策医療看護学 感染看護学実習	令和元年7月4日	1 病棟 やすらぎ病棟 第1センター 第3西センター
2	国際医療福祉大学	3名	国際看護学領域 看護統合実践	令和元年8月19日～ 8月30日	やすらぎ病棟 第1センター 第3西センター

### 2. 研修受入状況

#### 1) 国内研修受入状況（講義含む）

	研修名	研修人数	受入期間	施設名
1	ハンセン病医学夏期大学講座	36名	令和元年8月5日～ 8月9日	国立感染症研究所ハンセン病研究センター
2	園内認定創傷ケア看護師養成研修	4名	令和元年10月7日～ 10月8日	駿河療養所

### 3. 研修・見学等、その他施設利用状況

①、申請数	研修・見学等		その他施設利用者	
	件数	人数	件数	人数
4	18	1,195	7	210
5	11	486	4	358
6	22	2,690	5	39
7	14	364	7	388
8	8	264	4	117
9	19	946	11	175
10	24	1,171	8	511
11	20	1,122	6	287
12	13	691	9	536
1	8	286	4	37
2	9	358	5	93
3	11	390	5	118
年間			6	1313
合計	177	9,963	81	4,182

総合計件数	総合計人数
258	14,145

②、申請属性件数	研修・見学等		その他施設利用者	
	属性	件数	人数	件数
NPO	20	270		
保育園	1	68	8	1,655
企業	7	255	2	60
教職員	3	30	3	12
公務員	13	764		
任意団体	27	470	13	987
法曹界	2	75		
宗教団体	8	238		
小学生	41	3,649	2	49
中学生	6	546	4	679
高校生	3	104	1	23
大学生	7	215		
看護系教育機関	7	312		
労働組合	3	45	3	180
報道機関			22	83
一般市民	10	2,124	2	60
人権啓発団体	2	85	1	60
園職員、学芸員等	1	1	7	32
医療機関	2	127	4	59
障害者支援施設			9	243
民政委員	3	62		
教育委員会	3	91		
福祉系教育機関	6	329		
医薬系教育機関	2	73		
合計	177	9,933	81	4,182

3-1) 研修・見学等利用者内訳

◎ 入所者等語り部有り

	日時	利用団体名	属性	人員	場所	目的	資料館
1	4月2日	多摩市第4民生委員協議会	民政委員	20	園内	人権問題学習	×
2	4月4日	JCHO本部	医療機関	117	園内	新人研修	○
3	4月5日	厚生労働省	公務員	100	園内	新人研修	○
4	4月5日	毎日新聞社	企業	70	園内	人権問題学習	○
5	4月7日	東村山市役所	公務員	70	園内	園内散策	○
6	4月10日	青葉小学校	小学生	97	さくら公園	春の自然探し学習	×
7	4月12日	日本女子体育大学附属二階堂高等学校	高校生	30	園内	人権問題学習	○
8	4月14日	日本ロゴセラピスト協会	企業	25	園内	人権問題学習	○
9	4月15日	真宗大谷派(東本願寺)解放運動推進本部	宗教団体	24	福祉会館	解放運動推進要員研修会のため	×
10	4月18日	社会医療法人社団 健生会	医療機関	10	園内	人権問題学習	○
11	4月18日	NPO法人東村山市活き生きまちづくり	NPO	10	園内	樹木・草花の観察及び全生園の歴史探索	×
12	4月19日	東村山市教育委員会	教育委員会	35	園内	教育施設としての見学	○
13	4月23日	足利大学看護学部	看護系教育機関	89	園内	納骨堂お参り	○
14	4月26日	久米川東小学校	小学生	181	旧全生学園跡付近	施設見学	×
15	4月26日	青葉小学校	小学生	82	さくら公園	自然観察	×
16	4月27日	日本社会事業大学	福祉系教育機関	200	園内	人権問題学習	○
17	4月28日	新座の自然とくらしを守る市民の会	任意団体	13	園内	園内散策	○
18	4月28日	まだん(俳句グループ)	任意団体	22	永代神社・納骨堂	吟行	×
19	5月9日	化成小学校	小学生	100	園内	人権教育・ハンセン病の学習	○
20	5月10日	小平市民生委員児童委員協議会	民政委員	22	園内	人権問題学習	○
21	5月11日	関東学院大学社会学部	大学生	20	園内	ハンセン病についてのフォーラム企画・開催のための学習	○
22	5月16日	南台小学校	小学生	72	納骨堂・望郷の丘・旧山吹舎	人権学習	○
23	5月18日	神奈川民医連ソーシャルワーカー一部会	任意団体	20	園内	ハンセン病に対する正しい歴史の理解	○
24	5月19日	東邦大学理学部教職課程	大学生	14	主要な史跡巡り	ハンセン病問題の理解を深めるためのフィールドワーク	○
25	5月21日	公益財団法人東京都人権啓発センター	人権啓発団体	50	園内	人権問題学習	○
26	5月27日	重監房資料館	園職員、学芸員等	1	永代神社	永代神社祭礼の見学・写真撮影	×
27	5月28日	夷隅准看護師学校	看護系教育機関	31	園内	園内散策・入所者の生活の場を知る	○
28	5月28日	北埼玉医師会准看護学校	看護系教育機関	20	園内	入所者の方の生活環境の場を知る	○
29	5月28日	八坂小学校	小学生	136	旧山吹舎・望郷の丘	総合的な学習の時間	○
30	6月1日	早稲田大学	大学生	25	園内	園内散策	○
31	6月4日	東京都人材支援事業団人材育成センター	任意団体	2	研修棟	ハンセン病問題について理解を深める研修の下見	◎
32	6月6日	西東京市立本町小学校	小学生	50	国立ハンセン病資料館から旧山吹舎	ハンセン病と入所者さんに対する理解を深めるため	○
33	6月6日	稲城市高齢福祉部会	公務員	12	園内	歴史スポットを見て学び理解を深める	○
34	6月7日	稲城市立稲城第三小学校	小学生	100	さくら公園・望郷の丘・納骨堂・旧山吹舎など	小学校における人権尊重教育推進のため	○
35	6月8日	グループはばたき	任意団体	8	園内	野鳥・植物観察会	×
36	6月8日	昭和女子大学人間社会学部 初等教育学科	大学生	35	全生園人権の森	人権教育の授業の一環として入所者さんの歴史を学ぶため	○
37	6月9日	テコア聖書集会	宗教団体	7	食堂・教会・敷地内	無教会聖書集会野外見学	×
38	6月11日	東村山市教育委員会	教育委員会	26	園内	人権教育推進委員会におけるフィールドワーク	×
39	6月12日	哲学堂白熱教室	任意団体	15	園内	園内散策	○
40	6月13日	稲城市立若葉台小学校	小学生	129	さくら公園・望郷の丘・納骨堂・旧山吹舎など	人権尊重教育推進のため	○
41	6月16日	NPO法人東村山市活き生きまちづくり	NPO	10	園内	園内 樹木・草花観察	×
42	6月16日	東日本旅客鉄道(株)西国分寺駅	一般市民	1,759	園内	駅からハイキング	◎



	日時	利用団体名	属性	人員	場所	目的	資料館
43	6月18日	公益財団法人横浜勤労者福祉協会	任意団体	40	園内	職員教育研修	○
44	6月20日	東京都人材支援事業団人材育成センター	任意団体	2	研修棟	ハンセン病問題について理解を深める研修の下見	◎
45	6月21日	大野南地区民生委員児童委員協議会	任意団体	65	さくらの森・永代神社・旧山吹舎	園内見学・人権問題と社会との共生を学ぶため	○
46	6月21日	東京都人材支援事業団人材育成センター	任意団体	45	研修棟	ハンセン病問題について理解を深める研修	◎
47	6月22日	日本作文の会ハンセン病を学ぶ会	任意団体	15	園内	園内の散策を通じて全生園の歴史を学ぶ	○
48	6月24日	日本福祉大学	福祉系教育機関	3	自治会応接室	元ハンセン病患者から直接話を聞く	×
49	6月25日	㈱日本旅行東京多摩支店	中学生	203	園内	立教女学院中学校スタディツアーのため	○
50	6月26日	法務省矯正研修所	公務員	113	園内	研修員の人権意識向上を図る	○
51	6月28日	東京ガス㈱コンプライアンス部	企業	26	納骨堂・望郷の丘・旧山吹舎	人権啓発推進リーダー養成中、人権問題を学ぶ一環	○
52	7月1日	NPO法人東村山市活き生きまちづくり	NPO	10	園内	園内 樹木・草花観察	×
53	7月9日	和歌山赤十字看護専門学校	看護系教育機関	37	園内	ハンセン病の歴史・現状を知り、元患者への理解を深める	○
54	7月10日	NPO法人東京ハイキング協会	NPO	40	人権の森・史跡	ハンセン病について見聞を深める	○
55	7月11日	㈱三菱ケミカルアクア・ソリューションズ 水質分析センター	企業	25	園内	ハンセン病の知見を深めるため	○
56	7月13日	グループはばたき	任意団体	8	園内	野鳥・植物観察会	×
57	7月16日	NPO法人東村山市活き生きまちづくり	NPO	10	園内	園内 樹木・草花観察	×
58	7月18日	浄土真宗本願寺派国府教区川東組	宗教団体	10	園内	歴史・現状を把握し「自他ともに心豊かに生きる社会」の実現に努める	×
59	7月23日	東村山市立青葉小学校	小学生	95	さくら公園	夏の自然の様子を観察する	×
60	7月24日	東京都立萩山実務学校	福祉系教育機関	39	園内	歴史的な人権の復権過程を理解させ、命と人権の大切さについて意識化させ、児童の社会参加に向けた支援とする	◎
61	7月31日	東京都立萩山実務学校	福祉系教育機関	22	園内		◎
62	7月25日	国立ハンセン病資料館	一般市民	20	園内史跡	ハンセン病への理解を深める	○
63	7月27日	国立ハンセン病資料館	一般市民	20	園内史跡	イベント「多磨全生園のフォトブックを作ろう」の一環	○
64	7月28日	立志塾	任意団体	15	園内	園内を散策・見学することで学びを深める	○
65	7月31日	茨城県高等学校教育研究会公民部・地理部	教職員等	13	園内	人権・ハンセン病の学習のため	○
66	8月1日	NPO法人東村山市活き生きまちづくり	NPO	10	園内	園内 樹木・草花観察	×
67	8月1日	東村山市立東村山第六中学校美術部	中学生	19	園内	人権の森絵画展出品作品制作(写生)のため	×
68	8月6日	東村山市立東村山第三中学校美術部	中学生	30	園内	史跡をスケッチし、ハンセン病の偏見差別問題を考える	○
69	8月10日	全国一般労働組合東京南部	労働組合	10	園内	差別と優生思想について考えるフィールドワークの一環	○
70	8月16日	NPO法人東村山市活き生きまちづくり	NPO	10	園内	園内 樹木・草花観察	×
71	8月28日	東村山市立青葉小学校	小学生	95	さくら公園	夏の自然の様子を観察する	×
72	8月30日	東京農工大学教職課程	大学生	73	園内	授業における人権意識の涵養及び人権教育への理解促進	○
73	8月30日	荒川区立第六瑞光小学校	教職員等	17	旧山吹舎	人権研修のため	○
74	9月1日	NPO法人東村山市活き生きまちづくり	NPO	10	園内	園内 樹木・草花観察	×
75	9月3日	東村山市立回田小学校	小学生	86	旧山吹舎・望郷の丘・宗教地区・全生学園跡・納骨堂・梅林等	総合的な学習で学んだハンセン病の知識を見学を通して身に付ける	○
76	9月5日	東村山市立化成小学校	小学生	100	園内・旧山吹舎	人権教育を目的としたハンセン病の学習	○
77	9月6日	サレジオ中学校	中学生	25	園内	ハンセン病について学ぶため	○
78	9月11日	新座市役所福祉政策課	公務員	35	園内	新座市民生委員・児童委員協議会の男女共同参画部会研修	×
79	9月11日	東村山市立青葉小学校	小学生	95	園内	園内の建物や施設を調べ全生園の地図を作るため	○

	日時	利用団体名	属性	人員	場所	目的	資料館
80	9月11日	曹洞宗宗務庁伝道部詠道課	宗教団体	72	納骨堂前・中央集会所	第23期梅花流師範養成所の人権学習の一環	×
81	9月11日	朝日生命保険相互会社	企業	65	園内	新入職員対象の人権研修の一環	○
82	9月12日	東村山市立青葉小学校	小学生	79	さくら公園	夏の虫や植物の観察	×
83	9月14日	グループはばたき	任意団体	10	園内	野鳥・植物観察	×
84	9月16日	NPO法人東村山市活き生きまちづくり	NPO	10	園内	園内 樹木・草花観察	×
85	9月19日	栃木県立烏山高等学校	高校生	24	園内	地域課題解決型キャリア教育「烏山学+」の一環	○
86	9月19日	所沢市民大學	一般市民	70	園内	見学	○
87	9月20日	東村山市立青葉小学校	小学生	99	中央集会所	多磨全生園入所者自治会会長平沢保治様講演のため	×
88	9月23日	自治労かながわ県職員労働組合	労働組合	10	人権の森・史跡	ハンセン病の名誉回復を図り、人権尊重の精神を確立するため	○
89	9月24日	立正佼成会東村山教会	宗教団体	30	納骨堂	開園以来亡くなられた4,226名の方々への慰霊供養	×
90	9月27日	聖学院大学ボランティア活動支援センター	大学生	23	納骨堂・中央通り	ハンセン病への理解を深めるため	○
91	9月27日	八王子市立山田小学校	小学生	93	さくら公園 他	人権学習のため	○
92	9月27日	日本吟剣詩舞振興会	任意団体	10	園内	創立110周年記念式典出席のため	○
93	10月1日	NPO法人東村山市活き生きまちづくり	NPO	10	園内	園内 樹木・草花観察	×
94	10月4日	東久留米市立下里小学校	小学生	28	望郷の丘等	ハンセン病について理解するため・ハンセン病回復者の方々の思いを感じるため	○
95	10月5日	国立ハンセン病資料館	一般市民	60	園内	2019年度秋季企画展「盲人が遺した多磨全生園の歴史—史跡巡り」	○
96	10月9日	松戸市役所 総務部行政経営課	公務員	75	園内	人権研修のため	○
97	10月9日	浄土真宗本願寺派 埼玉組	宗教団体	15	園内	人権啓発研修会開催にあたり、ハンセン病に関し学びを深める	○
98	10月10日	清瀬市立清明小学校	小学生	67	園内	ハンセン病への偏見や差別について理解を深めるため	○
99	10月12日	グループはばたき	任意団体	10	園内	野鳥・野草観察	×
100	10月12日	日本福祉大学東京地域同窓会	福祉系教育機関	30	園内	ハンセン病の歴史が現代に問うものを学ぶ	×
101	10月16日	松戸市役所 総務部行政経営課	公務員	75	園内	人権研修のため	○
102	10月16日	NPO法人東村山市活き生きまちづくり	NPO	10	園内	園内 樹木・草花観察	×
103	10月17日	わくわく保育園	保育園	68	園内	秋の自然に触れ、ハンセン病についての理解を深める	×
104	10月17日	東京都退職校長会北多摩北部支部	教職員等	30	宗教地区等の散策	全生園の歴史とハンセン病元患者の方々の苦難の歴史を知る	○
105	10月18日	新宿区子ども家庭部男女共同参画課	公務員	40	園内	新宿女性団体会議日帰り研修	○
106	10月19日	東村山市役所	小学生	50	園内	多磨全生園創立110周年記念事業「親子で遊ぶ多磨全生園」	○
107	10月19日	鶴見区聴覚障害者協会	任意団体	25	園内	社会見学	○
108	10月24日	第二東京弁護士会	法曹界	50	園内	司法修習生向けの研修としての園内見学	○
109	10月24日	長野県民文化部人権・男女共同参画課	公務員	45	園内	ハンセン病問題の正しい理解を深め、偏見差別の解消を図る	○
110	10月25日	東村山市立大岱小学校	小学生	96	園内	ハンセン病に関わる啓発教育及び人権教育活動の一環	○
111	10月25日	横浜地方裁判所総務課庶務第二係	法曹界	25	園内	第72期司法修習生の人権問題への意識醸成のため	○
112	10月29日	東村山市立青葉小学校	小学生	103	園内	ハンセン病の人権学習のため	○
113	10月29日	NPO法人多民族共生人権教育センター	NPO	45	最初の火葬場跡・納骨堂・尊厳回復の碑	ハンセン病回復者に関わる理解を深める	○
114	10月30日	東村山市立青葉小学校	小学生	79	さくら公園	秋の虫や植物の観察のため	×
115	10月30日	JCHO 東京新宿メディカルセンター附属看護専門学校	看護系教育機関	41	園内	ハンセン病を取り巻く社会の変遷・歴史を知りハンセン病問題を通して人権を考える	○
116	10月31日	矯正研修所	公務員	94	園内	研修員の人権意識向上を図る	○
117	11月1日	NPO法人東村山市活き生きまちづくり	NPO	10	園内	園内 樹木・草花観察	×
118	11月1日	東村山市立青葉小学校	小学生	94	さくら公園	秋の自然の様子を観察する	×

	日時	利用団体名	属性	人員	場所	目的	資料館
119	11月6日	清瀬市立清瀬第六小学校	小学生	77	さくら公園	生活科の学習で季節の自然探しをする	×
120	11月8日	松戸市小金北部民生委員・児童委員協議会	民政委員	20	園内	施設視察・研修実施のため	○
121	11月9日	グループはばたき	任意団体	10	園内	野鳥・野草調査観察	×
122	11月12日	第一生命保険株式会社	企業	30	園内	ハンセン病について知ることを通じ、人権を自らの心に問いかけ何かを感じ、行動する	○
123	11月15日	東村山市立富士見小学校	小学生	52	園内	全生園の歴史を学びをきっかけに人権に関する意識・考えを深める	○
124	11月15日	東村山市立秋津東小学校	小学生	73	野球場周辺	秋の自然の様子を見学し、落ち葉や木の実等を拾い、観察する	○
125	11月16日	NPO法人東村山市活き生きまちづくり	NPO	10	園内	園内 樹木・草花観察	×
126	11月19日	東村山市立青葉小学校	小学生	104	中央集会所	平沢保治さま講演の聴講のため	×
127	11月20日	東村山市立青葉小学校	小学生	85	さくら公園・野球場等	生活科「すてきな町 大はっけん」の校外学習	×
128	11月21日	曹洞宗神奈川第二宗務所	宗教団体	50	納骨堂他	人権学習・慰霊法要	○
129	11月22日	東村山市立化成小学校	小学生	100	旧山吹舎周辺	記念植樹式・人権授業のため	○
130	11月22日	東松山人権擁護委員協議会	人権啓発団体	35	園内	人権擁護委員事務研修会のため	○
131	11月22日	東村山市立秋津東小学校	小学生	80	さくら公園	生活科見学「秋さがし」、全生園と回復者の方々を身近に感じ今後の交流の礎とする	×
132	11月24日	国立ハンセン病資料館	一般市民	60	園内	2019年度秋季企画展「望郷の丘」―盲人が遺した多磨全生園の歴史―史跡巡り	○
133	11月26日	土浦市医師会附属准看護学院	看護系教育機関	52	園内	生活環境を知り、ハンセン病についての正しい認識と知識を養う	○
134	11月27日	立川市教育委員会教育部	教育委員会	30	人権の森	深遠なる歴史を学び、人権の大切さを改めて考える場とする	○
135	11月29日	東村山市立久米川小学校	小学生	100	納骨堂・旧山吹舎・望郷の丘・教会等	全生園とハンセン病を知ることで自らの生き方に活かす	○
136	11月30日	東村山市役所	公務員	50	園内	多磨全生園の歴史や自然、ハンセン病を学ぶ	○
137	12月5日	東村山市立秋津東小学校	小学生	65	旧山吹舎	実際に園内を見学し正しい知識を深め人権尊重の心を養う	○
138	12月5日	清瀬市立清瀬第六小学校	小学生	87	園内	全生園の学習	×
139	12月10日	東村山市立北山小学校	小学生	65	納骨堂・望郷の丘・旧山吹舎・中央集会所	全生園史跡見学のため	○
140	12月14日	国立ハンセン病資料館	一般市民	60	園内	2019年度秋季企画展「望郷の丘」―盲人が遺した多磨全生園の歴史―史跡巡り	○
141	12月14日	グループはばたき	任意団体	10	園内	野鳥・野草調査観察	×
142	12月14日	NPO法人華齢なるケアマネたち	NPO	15	園庭	ハンセン病の歴史を正しく知り、偏見について学ぶ	○
143	12月15日	国立ハンセン病資料館	一般市民	15	園内	「家族からみたもうひとつのハンセン病史」参加の各国の園内見学	○
144	12月17日	八王子市立看護専門学校	看護系教育機関	42	納骨堂・望郷の丘・正門	資料館で学んだ後の見学	○
145	12月17日	千葉県青少年赤十字西部地区指導者協議会	高校生	50	人権の森と史跡	ハンセン病に関する理解を深める	○
146	12月18日	東村山市立久米川東小学校	小学生	103	園内	社会科見学	○
147	12月20日	東村山市立野火止小学校	小学生	99	全生園 南側	ハンセン病への理解を深めるため	○
148	12月22日	早稲田大学文化構想学部	大学生	25	資料館から正門までのルート	ハンセン病回復者の方々の抱える問題について思いをはせる	○
149	12月24日	学校法人 日本教育財団首都医校	医薬系教育機関	55	園内	人権教育のため	○
150	1月4日	国立ハンセン病資料館	一般市民	30	園内	史跡ガイドツアー	○
151	1月9日	東村山市立萩山小学校	小学生	82	納骨堂・旧山吹舎・望郷の丘等	園内散策を通じ、人権意識をさらに深める	○
152	1月9日	横浜市 神奈川区役所	公務員	20	園内	人権研修のため	○
153	1月11日	グループはばたき	任意団体	10	園内	野鳥・植物の観察会	×
154	1月15日	曹洞宗神奈川第二宗務所青年同志会	宗教団体	30	納骨堂	供養のため	○
155	1月16日	NPO法人東村山市活き生きまちづくり	NPO	10	園内	園内 樹木・草花観察	×
156	1月17日	多磨の歴史を散策する会	任意団体	10	園内史跡	歴史的建造物の見学を通してハンセン病への理解を深める	×
157	1月29日	東村山市立青葉小学校	小学生	94	さくら公園	冬の自然の様子を観察する	×

	日時	利用団体名	属性	人員	場所	目的	資料館
158	2月1日	NPO法人東村山市活き生きまちづくり	NPO	10	園内	園内 樹木・草花観察	×
159	2月6日	東大和市立上北台公民館	任意団体	30	園庭	講座の見学のため	○
160	2月8日	グループはばたき	任意団体	10	園内	野鳥・野草の観察会	×
161	2月16日	NPO法人東村山市活き生きまちづくり	NPO	10	園内	園内 樹木・草花観察	×
162	2月14日	東村山市立東村山第四中学校	中学生	140	園内	ハンセン病について正しい知識と理解を深め、差別や偏見をなくす態度を養う	○
163	2月14日	古河市立古河第二小学校	小学生	78	園内	ハンセン病への理解を深めるとともに、人としての生き方や人権について考える	○
164	2月15日	水道労働組合 関東地本青年女性部	労働組合	25	園内	「差別について考える」をテーマに学習会を開催する	○
165	2月16日	多摩市くらしと文化部平和・人権課	公務員	35	園内	ハンセン病についての正しい理解と知識を深め、偏見や差別の解消を図る	○
166	2月22日	東京東村山ロータリークラブ	任意団体	20	園内	園内散策	×
167	3月1日	NPO法人東村山市活き生きまちづくり	NPO	10	園内	園内 樹木・草花観察	×
168	3月6日	味の素AGF株式会社	企業	14	園内	人権啓発研修	×
169	3月11日	杏林大学保健学部作業療法学科	医薬系教育機関	18	園内	日本の健康・保健・福祉制度の知識を広げ国際的視点で考える	×
170	3月12日	読売理工医療福祉専門学校	福祉系教育機関	35	園内	日本の医療・福祉と人権に係る歴史の理解を深めるため	×
171	3月13日	立川市立立川第六中学校	中学生	129	園内	ハンセン病についての校外学習	×
172	3月14日	グループはばたき	任意団体	10	園内	野鳥・野草の観察会	×
173	3月16日	NPO法人東村山市活き生きまちづくり	NPO	10	園内	園内 樹木・草花観察	×
174	3月18日	東村山市立野火止小学校	小学生	99	旧山吹舎	重要な人権教育のため	×
175	3月27日	JA東京みらい助け合い組織みらいの会	任意団体	20	さくら公園	ハンセン病に関する勉強のため	×
176	3月28日	国立ハンセン病資料館	一般市民	30	園内の史跡	「多磨全生園の隠された史跡を歩く」の現地案内	×
177	3月31日	ノンノ・アレグロ	任意団体	15	園内	全生園の歴史を認識し理解を深める	×



3-2) その他施設利用者内訳

	日時	利用団体名	属性	人員	場所	目的
1	年間	東村山パワーズ	中学生	600	野球場	少年軟式野球練習のため(木～日)
2	年間	北都還暦野球チーム	任意団体	240	野球場	軟式野球練習のため(火、金)
3	年間	青葉町近隣自治会・老人会	任意団体	130	野球場裏の林の中 広場	青葉町早朝ラジオ体操(毎週土・日)
4	年間	幼児室ポッポ	保育園	240	野球場周辺	豊かな自然の中でのびのびと遊ぶ
5	年間	東村山市軟式野球連盟	任意団体	100	野球場	軟式野球大会のため (不定期)
6	年間	社会福祉法人 いずみあゆみの家 成人部	福祉施設	3	正門 ロータリー 付近	車イス利用者乗降のため
7	4月2日	㈱ReVision	園職員、学芸員等	2	園内全域・国立ハン セン病資料館	ドローンによる航空撮影のため
8	4月2日	仙台放送 報道部	報道機関	3	園内	人権問題取材
9	4月3日	清瀬市シニアクラブ連合会	任意団体	80	園内	ウォーキング
10	4月6日	ラジオ体操世話人会	任意団体	30	野球場裏の林の中 広場	「早朝ラジオ体操の会」(毎週土・日)
11	4月6日	(公財)人権教育啓発推進センター	人権啓発団体	60	福祉会館	昼食会場
12	4月11日	青葉ゴルフ会	任意団体	15	全生園入口 ロータリー	大型バスの乗り降り
13	4月18日	第41回ハンセン病医学夏期大学講座 実行委員会	園職員、学芸員等	20	福祉サービス棟3 階研修室	第41回ハンセン病夏期大学講座第1回実行委員会開催のため
14	5月9日	みすゞ設計事務所	企業	3	ハンセン氏病図書 館・旧山吹舎・宗教 地区	週刊ポスト「ふらっと歴史建物探訪」取材
15	5月13日	東村山市子育て総合支援センター こころの森	福祉施設	27	花さき保育園前広 場	自由に親子でお友達と外遊び
16	5月15日	東星学園	教職員	1	竹林	生徒が梅落として使う竹5本を切らせていただく
17	5月18日	社会福祉法人 土の根会花さき保育園	保育園	327	学園跡地・さくら公 園・村上梅林・野球場	花さきふれあい会(親子レクリエーション)
18	6月10日	東京聴覚障害者福祉事業協会 たま しろの郷	福祉施設	15	正門駐車場周辺	どくだみ採取のため
19	6月13日	東村山市立東村山第六中学校PTA	教職員	5	竹やぶ	七夕用の竹をいただきたいため
20	6月13日	NHK大阪拠点放送局	報道機関	3	平沢保治氏居室・宗 教地区・野球場など	福祉番組「バリバラ」の取材・撮影のため
21	6月25日	東村山市立青葉小学校	教職員	6	竹林	竹を取りに行くため
22	6月28日	東村山市役所子ども家庭部児童課	福祉施設	10	花さき保育園横の 竹林	竹の伐採
23	7月2日	医療法人社団雄心会山崎病院	医療機関	3	花さき保育園横の 竹林	竹の伐採
24	7月4日	医療法人社団恵友会三恵病院	医療機関	3	花さき保育園横の 竹林	竹の伐採(七夕の笹飾り)
25	7月6日	お食事処 なごみ	任意団体	100	お食事処 なごみ	「まちジャムin全生園」(音楽イベント)開催のため
26	7月22日	2019年原水爆禁止国民平和大行進 東村山実行委員会	労働組合	50	全医労全生園支部 組合事務所前	国民平和大行進休憩・解散地として
27	7月22日	全医労多磨全生園支部	労働組合	100	正門から組合事務 所前	平和行進の休憩所・休憩のため
28	7月24日	フジテレビジョン	報道機関	2	第1センター15寮	ハンセン病の取材のため
29	7～8月	青葉町近隣自治会・老人会	任意団体	130	野球場裏の林の中 広場	夏休み子供ラジオ体操(毎週土・日)
30	7～8月	ラジオ体操世話人会	任意団体	100	野球場裏の林の中 広場	「夏休み子どもラジオ体操の会」
31	8月9日	社会福祉法人 白十字会白十字ホー ム	福祉施設	3	竹林	施設のイベントで使用する竹の採集をさせていただきたい
32	8月16日	㈱ジェイコム東京	報道機関	12	納骨堂・自治会・な ごみ	東村山市の渡部市長の全生園紹介番組撮影のため
33	8月27日	ハースト婦人画報社	報道機関	2	なごみ	樹木希林さん特集のゆかりの場所として取材するため
34	9月2日	四季の折り紙の会	任意団体	4	第1会議室	折り紙
35	9月11日	東村山市子育て総合支援センター こころの森	福祉施設	24	全生学園の跡・梅林 周辺等	地域での仲間づくり・育児グループ支援
36	9月19日	社会福祉法人 土の根会花さき保育園	保育園	88	コミュニティセンター	運動会リハーサル
37	9月20日	東青葉自治会	任意団体	30	正門ロータリー付近	親睦研修旅行の集合出発乗車・下車
38	9月26日	NHK制作局 第2ユニット(文化)	報道機関	4	住居・宗教地区・望 郷の丘	山内きみ江氏の取材・撮影



	日時	利用団体名	属性	人員	場所	目的
39	9月27日	国立ハンセン病資料館	園職員、学芸員等	2	病棟	自助具・補装具制作に関するインタビューのため
40	9月27日	NHK 制作局第2ユニット(文化)	報道機関	4	住居・宗教地区・望郷の丘	山内きみ江氏の取材・撮影
41	9月28日	NHK 制作局 第2ユニット(文化)	報道機関	4	コミュニティセンター	創立110周年記念式典出席撮影のため
42	9月28日	公益財団法人日本吟剣詩舞振興会	任意団体	13	コミュニティセンター	「多磨全生園創立110周年記念式典」出席のため
43	9月28日	日本レジャーチャンネル	報道機関	1	コミュニティセンター	「多磨全生園創立110周年記念式典」出席のため
44	9月28日	写真家	報道機関	1	住居・コミュニティセンター	「創立110周年記念式典」での山内きみ江様撮影のため
45	10月4日	国立ハンセン病資料館	園職員、学芸員等	2	第3西センター	自助具・補装具制作に関するインタビュー取材のため
46	10月4日	NHK 制作局 第2ユニット(文化)	報道機関	4	住居・宗教地区・望郷の丘	山内きみ江氏の取材・撮影
47	10月5日	社会福祉法人 土の根会花さき保育園	保育園	470	全生学園の跡	運動会
48	10月9日	国立ハンセン病資料館	園職員、学芸員等	2	第1センター	自助具・補装具制作に関するインタビューのため
49	10月10日	国立ハンセン病資料館	園職員、学芸員等	2	一般夫婦寮	自助具・補装具制作に関するインタビューのため
50	10月15日	NHK 制作局 第2ユニット(文化)	報道機関	4	住居・宗教地区・望郷の丘	山内きみ江氏の取材・撮影
51	10月25日	東村山市子育て総合支援センター こころの森	福祉施設	23	全生学園跡・恩賜公園	名所での外遊びを親子で楽しむ
52	10月29日	NHK 制作局 第2ユニット(文化)	報道機関	4	住居・宗教地区・望郷の丘	山内きみ江氏の取材・撮影
53	11月4日	株式会社 ジブリ美術館	企業	57	お食事処 なごみ	昼食のため
54	11月8日	社会福祉法人 東京コロニートーコ コ青葉ワークセンター	福祉施設	115	事務本館前 駐車場	日帰り旅行・バス3台駐車のため
55	11月17日	東村山パワーズ	中学生	20	職員駐車場	野球の試合のためマイクロバスの駐車
56	11月18日	社会福祉法人下里しおん保育園	保育園	68	全生園外周の生垣	クリスマス整飾用ヒイラギ採取
57	11月24日	東村山パワーズ	中学生	25	職員駐車場	野球の試合のためマイクロバスの駐車
58	11月27日	国立ハンセン病資料館	園職員、学芸員等	2	第1センター	自助具・補装具制作に関するインタビュー
59	12月3日	社会福祉法人 土の根会花さき保育園	保育園	117	コミュニティセンター	お楽しみ会リハーサルのため
60	12月5日	社会福祉法人 土の根会花さき保育園	保育園	8	コミュニティセンター	お楽しみ会会場準備
61	12月6日	台東区立石浜小学校	小学生	29	中央集会所	昼食
62	12月7日	社会福祉法人 土の根会花さき保育園	保育園	337	コミュニティセンター	お楽しみ会
63	12月8日	株式会社 ジェイコム東京	報道機関	5	園内	東村山市長の新年あいさつ番組撮影のため
64	12月14日	三重テレビ放送	報道機関	1	中央通り・旧山吹舎・望郷の丘・納骨堂・正門・一般寮他	ハンセン病啓発番組制作のため
65	12月17日	NHK	報道機関	4	セレブレーション 予定地	東京五輪聖火リレールート撮影のため
66	12月20日	全医労多磨全生園支部	労働組合	30	福祉サービス棟3階 研修室・学生控室	全医労全生園支部定期大会
67	12月24日	株式会社 えふぶんの壱	報道機関	5	施設外観	NHK BS1「聖火ロード5min.」映像の撮影
68	1月4日	国立ハンセン病資料館	一般市民	30	一般寮跡地	凧あげイベントの実施
69	1月7日	日本経済新聞社	報道機関	1	園内	夕刊コラム「ひと・まち探訪」取材
70	1月9日	北海道新聞東京支社	報道機関	1	納骨堂・旧山吹舎・望郷の丘等	平沢保治氏の講演や東村山市の「差別をなくす教育の取り組み」をコラムで紹介するため
71	1月24日	Little Strange Films	報道機関	5	人権の森・納骨堂付近	石山春平さんのドキュメンタリー制作のため
72	2月11日	社会福祉法人 緑風会緑風荘病院	医療機関	3	職員駐車場	送迎車への乗降
73	2月16日	創価高等学校	高校生	23	園内	園内散策等を記録撮影
74	2月27日	都立清瀬特別支援学校	中学生	34	あずまや	水分摂取のため
75	2月29日	㈱日本ケーブルテレビジョン 「AbemaPrime」(テレビ朝日制作)	報道機関	3	園内	石井正則写真展様子を撮影
76	2月29日	国立ハンセン病資料館	一般市民	30	園内	フィールドワーク
77	3月5日	東村山市立久米川東小学校	小学生	20	自治会	お礼のお花を渡すため
78	3月23日	㈱ジェイコム東京	報道機関	10	さくら公園・「あん」の碑周辺	東村山市の渡部市長出演の「長々と散歩」で全生園紹介
79	3月27日	救世軍自省館	医療機関	50	さくら公園	花見
80	3月28日	風景スケッチ会	任意団体	15	さくら公園	スケッチ(水彩画)
81	3月31日	東村山市子育て総合支援センター こころの森	福祉施設	23	全生学園の跡・東梅林・さくら公園	外遊びを親子で楽しむ

## 6. ボランティア受入状況等

	実施日時等	項目（名称）	団体名	人数	主な内容
1	年10回	入所者のお話の傾聴、朗読等	ともしび会	4名	朗読、合唱、会話
2	月2～3回 (15:00～16:00)	音楽療法	平野恵子	1名	歌唱 音楽鑑賞援助、打楽器での演奏
3	月2回 不定期	ボランティア協会	羽深めぐみ	2名	青葉小学校通学路の清掃
4	年間を通し、毎週	生け花	伊藤静子	1名	治療棟の活花
5	年間を通し適宜	人権の森構想の進展等	NPO東村山 活き生きまちづくり	5～20名	花壇作業、山吹舎清掃、園内散策案内等
6	4月23日	移動水族館	東京都葛西臨 海水族館	4名	専用トラックによる移動式水族館
7	4月26日	落語	柳家さん橋	1名	落語会開催
8	4月29日	園内環境整備	天理教むさしの支部	400名	除草、清掃
9	5月10日	東村山市清掃ボランティア	東村山市民の皆さん	100名程度	納骨堂、山吹舎等周辺的环境清掃
10	5,7,9,11月	園内環境整備	天理教むさしの支部	10名程度	植木の剪定、除草、清掃
11	6月17日	オペラ	柏田ほづみ	2名	オペラコンサート
12	7月18日	ゆめ水族館	セイコーエプソン（株）	5名	プロジェクションマッピング
13	10月10日	ハワイアン・フラダンスショー	フラ・ハーラウ・リコ	4名	フラダンスショー

## 7. 研究活動、研修参加、倫理審査委員会状況

### 1. 学会発表

藤田周作, 川上佳夫, 山崎 悠, 三宅智子, 杉原 悟, 森実 真, 宮本友司, 深野華子, 星野仁彦, 浜重純平, 石井則久: *Mycobacterium shinshuense* と *M. avium* が同時に検出されたブルーリ潰瘍の1例.

第279回日本皮膚科学会岡山地方会 (岡山), 2020年1月.

村瀬千晶, 四津里英, 三上万理子, 宮本友司, 鈴木幸一, 秋山真志, 石井則久: 日本におけるブルーリ潰瘍の疫学.

第118回日本皮膚科学会総会 (名古屋), 2019年6月.

高澤摩耶, 松本崇直, 竹下雅子, 梅本尚可, 山田朋子, 川瀬正昭, 出光俊郎, 石井則久: 頸部と前胸部に多発し抗酸菌培養で診断がついた皮膚腺病の1例.

第118回日本皮膚科学会総会 (名古屋), 2019年6月.

山城奈々, 伊藤友章, 斎藤万寿吉, 川上 洋, 桐山徳子, 石井則久, 坪井良治: 著名な白血球減少とリンパ節腫脹を伴ったハンセン病の1例.

日本皮膚科学会第885回東京地方会 (東京), 2019年7月.

Murase C, Kono M, Ishii N, Akiyama M: A case of Buruli ulcer successfully treated with negative pressure wound therapy. Promoting cooperation on infectious disease research between Africa and Japan for Science, Technology and Innovation (STI), Tokyo, Japan, 2019 July.

Sugawara-Mikami M, Mikita K, Murase C, Yotsu RR, Suzuki K, Ishii N, Aihara M: Skin NTDs in Japan. Promoting cooperation on infectious disease research between Africa and Japan for Science, Technology and Innovation (STI), Tokyo, Japan, 2019 July.

Sugawara-Mikami M, Yamaguchi S, Murase C, Yotsu RR, Suzuki K, Ishii N, Aihara M :Analysis of leprosy and other skin NTDs in Japan.The 20th International Leprosy Cngress, Manila, Phillipines, 2019 Sept.

三上万理子, 村瀬千晶, 四津里英, 鈴木幸一, 石井則久, 相原道子:日本における皮膚関連の顧みられない熱帯病 (皮膚NTDs) について.

第83回日本皮膚科学会 東京・東部支部合同学術大会 (東京), 2019年11月.

大伴直央, 黄 郁代, 武田和樹, 小倉洋二, 高橋洋平, 南 昌平, 宇野耕吉, 川上紀明, 伊東 学, 米澤郁穂, 渡辺 慶, 海渡貴司, 柳田晴久, 種市 洋, 播広谷勝三, 谷口優樹, 重松英樹, 飯田尚裕, 出村 論, 菅原 亮, 藤田順之, 八木 満, 岡田英次朗, 細金直文, 河野克己, 千葉一裕, 小谷俊明, 佐久間毅, 赤澤 努, 鈴木哲平, 西田康太郎, 角谷賢一朗, 辻 太一, 須藤英毅, 岩田 玲, 佐藤達哉, 稲見 聡, 寺尾知可史, 中村雅也, 松本守雄, 渡邊航太, 池川志郎: 思春期特発性側弯症の遺伝子研究. 第34回日本整形外科学会基礎学術集会. (2019年10月17-18日 横浜)

大伴直央, 武田和樹, 川井俊介, 小倉洋二, 川上紀明, 小谷俊明, 須藤英毅, 米澤郁穂, 宇野耕吉, 種市 洋, 渡辺 慶, 三宅紀子, 南 昌平, 重松英樹, 菅原 亮, 谷口優樹, 中村雅也, 松本守雄, 戸口田淳也, 渡辺航太, 千葉一裕, 池川志郎: 先天性側弯症および脊椎肋骨異形成症におけるTBX6ミスセンス変異の病因性の検討および患者のiPS細胞を用いた検証. 第48回日本脊椎脊髄病学会 (2019年4月18日-20日 横浜)

大伴直央, 武田和樹, 川井俊介, 小倉洋二, 川上紀明, 小谷俊明, 須藤英毅, 米澤郁穂, 宇野耕吉, 種市 洋, 渡

辺 慶, 三宅紀子, 南 昌平, 重松英樹, 菅原 亮, 谷口優樹, 中村雅也, 松本守雄, 戸口田淳也, 渡邊航太, 千葉一裕, 池川志郎: TBX6ミスセンス変異はTBX6蛋白質の細胞内局在異常を来し, 先天性側弯症 および脊椎肋骨異形成症を引き起こす. 第92回日本整形外科学会学術総会 (2019年 5月 9日-12日 横浜)

大伴直央, 武田和樹, 小倉洋二, 高橋洋平, 南 昌平, 宇野耕吉, 川上紀明, 伊藤 学, 米澤郁穂, 渡邊 慶, 海渡貴司, 柳田晴久, 種市 洋, 播広谷勝三, 谷口優樹, 重松英樹, 飯田尚裕, 出村 論, 菅原 亮, 藤田順之, 八木 満, 岡田英次郎, 細金直文, 河野克己, 千葉一裕, 小谷俊明, 佐久間毅, 赤澤 努, 鈴木哲平, 西田康太郎, 角谷賢一朗, 辻 太一, 須藤英毅, 岩田 玲, 佐藤達哉, 稲見 聡, 寺尾知可史, 中村雅也, 松本守雄, 渡邊航太, 池川志郎: 思春期特発性側弯症の拡大ゲノムワイド関連解析. 第53回日本側弯症学会 (2019年11月 8- 9日 群馬)

大伴直央, 武田和樹, 小倉洋二, 高橋洋平, 南 昌平, 宇野耕吉, 川上紀明, 伊藤 学, 佐藤達哉, 海渡貴司, 柳田晴久, 種市 洋, 播広谷勝三, 谷口優樹, 重松英樹, 飯田尚裕, 出村 論, 菅原 亮, 藤田順之, 八木 満, 岡田英次郎, 細金直文, 河野克己, 千葉一裕, 小谷俊明, 佐久間毅, 赤澤 努, 鈴木哲平, 西田康太郎, 角谷賢一朗, 辻 太一, 須藤英毅, 岩田 玲, 稲見 聡, 寺尾知可史, 中村雅也, 松本守雄, 池川志郎, 渡邊航太: 遺伝子情報を用いた思春期特発性側弯症の発症予測モデル. 第53回日本側弯症学会 (2019年11月 8- 9日 群馬)

Otomo Nao. A large-scale genome wide association study to identify 20 loci associated with adolescent idiopathic scoliosis in the Japanese. 16th International Phillip Zorab Symposium (Dublin, June 20-21 ,2019)

Otomo Nao. Biallelic loss of function mutations in TBX6 and LFNG in a spectrum of spinal disorders including congenital scoliosis and spondylocostal dysostosis. 16th International Phillip Zorab Symposium (Dublin, June 20-21, 2019)

Otomo Nao. Extended genome-wide association study to identify loci associated with adolescent idiopathic scoliosis in the Japanese. International consortium dor spinal genetics development and disease. (Stockholm, September 5-7, 2019)

Otomo Nao. Biallelic loss of function mutations in TBX6 in a spectrum of spinal disorders including congenital scoliosis and spondylocostal dysostosis (Stockholm, September 5-7, 2019)

The Amelioration of Pain-related Behavior in Chronic Spinal Cord Injury Model Mice Treated with Neural Stem/Progenitor Cell Transplantation Combined with Treadmill Training

Syoichi Tashiro, Soraya Nishimura, Munehisa Shinozaki, Meigen Liu, Hideyuki Okano and Masaya Nakamura ISPRM2019 2019/6/9-13 Kobe, Japan

Hybrid assistive neuromuscular dynamic stimulation (HANDS) therapy induces sensory cortical plasticity in patients with chronic stroke exhibiting severe hemiparesis Syoichi Tashiro, Katsuhiko Mizuno, Michiyuki Kawakami, Mabu Suda, Osamu Takahashi and Meigen Liu ISPRM2019 2019/6/9-13 Kobe, Japan

Adaptability of the Emergency Foods for Community-Dwelling Elderly Who Are in Need of Care: a Preliminary Cross-sectional Survey

Syoichi Tashiro, Michiyuki Kawakami, Fujio Hagai, Shirou Yamamoto, Masato Yazawa and Meigen Liu ISPRM2019 2019/6/9-13 Kobe, Japan

The Capacity of Transcranial Alternating Current Stimulation (tACS) to Modulate Corticospinal Excitability via

Radially-Oriented Focal Stimulation Montage; Comparison of Various Frequencies with and without Amplitude-Modulation Syoichi Tashiro, Leo Tomasevic, Mitsuaki Takemi and Hartwig R Siebner7 "ISPRM2019 13th Intional Society of Physical and Rehabilitation Medice World Congress" 2019/6/9-13 Kobe, Japan

A hybrid electrode for evaluating brain activity directly after transcranial electrical stimulation  
Syoichi Tashiro, Hartwig R. Siebner, Angeliki Charalampaki, Guilherme Bicalho Saturnino Axel Thielscher, Leo Tomasevic Organization for Human Brain Mapping annual meeting 2019/6/9-13 Rome, Italy

The Combination Therapy with Neural Stem/Progenitor Cell Transplantation and Treadmill Training Ameliorates Pain-related Behavior in Chronic Spinal Cord Injury Mice Model  
Syoichi Tashiro, Soraya Nishimura, Munehisa Shinozaki, Meigen Liu, Hideyuki Okano and Masaya Nakamura ISCoS(International Spinal Cord Society) 58th ISCoS (International Spinal Cord Society) Annual Scientific Meeting 2019/11/5-7 Nice, France

Impact of cachexia on palliative rehabilitation in patients with advanced cancer.  
Miyata C, Tsuji T, Yamamoto A, Murota C, Sugawara R, Furuno K, Kudo H, Maeda Y, Shinfuku M, Takeda J, Meigen L. 13th International Society of Physical and Rehabilitation Medicine World Congress Kobe, Japan, 2019.06.

Role of prosthetics and orthotics in Hansen's disease.  
Miyata C, Sugano T, Goto N, Tsuji T, Meigen L. 13th International Society of Physical and Rehabilitation Medicine World Congress Kobe, Japan, 2019.06.

進行がん患者に対するリハビリテーション治療, 「地域・外来がんリハビリテーション診療, エビデンス&プラクティス」  
宮田知恵子 第56回日本リハビリテーション医学会学術集会, 神戸, 2019.06.

Incidence and risk factors of postoperative dysphagia in severe aortic stenosis  
Takuya Nakamura, Michiyuki Kawakami, Sho Takeuchi, Fumio Liu, Shogo Fukui, Shinji Kawaguchi, Kentaro Hayashida, Hideyuki Shimizu, Keiichi Fukuda, Meigen Liu  
ISPRM2019 2019/6/9-13 Kobe, Japan  
日常生活内で健側上肢を段階的に抑制するC I療法変法

中村拓也, 田代祥一, 川上途行, 須田万豊, 都築圭太, 土方奈奈子, 奥山航平, 里宇明元  
第3回日本リハビリテーション医学会 秋季学術集会, 静岡, 2019.11

白石綾子, 山川正子 (第1センター): センターで終末期を迎えたA氏の看護を振り返る  
ハンセン病コ・メディカル学術集会 (宮古), 令和元年10月18日

内田裕美, 松村蔵人 (1病棟): 退院支援に対する看護師の意識調査  
ハンセン病コ・メディカル学術集会 (宮古), 令和元年10月18日

石田正子, (新センター): ハンセン病療養所に勤務する看護師の倫理的感受性の実態  
国立病院看護研究学会学術集会 (神奈川), 令和元年12月14日

松岡宣代, (看護部長): キャリアラダーレベル別にみたA病院看護師の看護問題対応行動の現状～看護問題対応行動自己評価尺度を用いて～



国立病院看護研究学会学術集会（神奈川），令和元年12月14日

星野扶美子，山谷なぎさ：看護学生の共感性に関する研究の動向と課題，  
第17回国立病院看護研究学会学術集会 令和元年12月14日

菅野太洋：ハンセン病療養所における義肢装具士の取り組み，  
日本糖尿病リウマチ靴技術研究会 第9回研修会および症例報告会（東京） 令和元年8月18日

## 2. 論文

石井則久：疥癬. 皮膚疾患最新の治療2019-2020（古川福実，佐伯秀久編），p205, 南江堂（東京），2019.

石井則久：ハンセン病. 今日の治療指針2019（福井次矢，高木 誠，小室一成総編集），p1279-1280, 医学書院（東京），2019年.

Kitaoka N, Fukano H, Yoshida M, Miyamoto Y, Mori S, Ishii N, Ato M,  
Ohara N, Hoshino Y: Discrimination of *Mycobacterium leprae* and *Mycobacterium haemophilum* in clinical isolates/specimens by multiple PCR assay and prediction of drug susceptibility. J Clin Microbiol 2019; 57: 10.1128/JCM.01760-18.

Suzuki K, Luo Y, Miyamoto Y, Murase C, Mikami-Sugawara M, Yotsu RR, Ishii N:  
Buruli ulcer in Japan. Buruli ulcer (ed. Pluschke G, RoeltgenK), Springer(Switzerland), pp87-105, 2019.

石井則久，三上万理子，村瀬千晶：疥癬対策.日医雑誌 148：672-675，2019.

加藤友久美，村瀬千晶，石井則久：梅毒の多彩な臨床と治療. MB Derma 285: 16-22, 2019.

石井則久，三上万理子：疥癬診療ガイドラインと情報共有について. Visual Dermatology 18: 816-817, 2019.

石井則久：Hansen病. 内科学書vol 2（改訂第9版）（南学正臣総編集），p95-96, 中山書店（東京），2019年.

石井則久：ハンセン病の現状. 臨床皮膚科 73: 660-661, 2019.

石井則久，三上万理子，村瀬千晶：非結核性抗酸菌症による皮膚・軟部組織感染症. 臨床検査 63: 1052-1061, 2019.

梶村有里子，花村拓哉，牧 優貴，浅井理玲，笹田佳江，満間照之，宮本友司，石井則久  
： *Mycobacterium mageritense*が検出された非結核性抗酸菌症の1例.  
皮膚科の臨床 61: 1575-1578, 2019.

野村 彩，野口絵麻，染谷真志，小暮麻子，栗野嘉弘，田頭 周，石井則久，青笹尚彦  
：再生検にて治癒を確認した *Mycobacterium chelonae* による非結核性抗酸菌症の1例.  
皮膚科の臨床 61: 1713-1716, 2019.

石井則久：我が歩みし道. 一顧みられない熱帯病（NTDs）に魅せられて一. 皮膚病臨床 41: 1080-1083, 2019.

石井則久：ハンセン病をもっと知りましょう。人権のひろば No 130: 18-20, 2019.

石井則久：ハンセン病と皮膚科医。西日本皮膚科 81: 461-464, 2019.

Otomo N, Takeda K, Kawai S, et al

Bi-allelic loss of function variants of TBX6 causes a spectrum of malformation of spine and rib including congenital scoliosis and spondylocostal dysostosis Journal of Medical Genetics 2019;56:622-628.

Kou, I., Otomo, N.(Double 1st), Takeda, K. et al. Genome-wide association study identifies 14 previously unreported susceptibility loci for adolescent idiopathic scoliosis in Japanese. Nat Commun 10, 3685 (2019).

Tashiro S, Mizuno M, Kawakami M, Nakamura T, Suda M, Otaka Y, Haruyama K, Tsuji T, Liu M. Neuromuscular electrical stimulation-enhanced rehabilitation is associated with not only motor but also somatosensory cortical plasticity in chronic stroke patients – an interventional study., Ther Adv Chronic Dis. 2019;10: 1-13.

Tashiro S, Oku Y, Gotou N, Sugano T, Kikuhara K, Nakamura T, Suzuki H, Endo E, Miyata C, Mizuno K, Ishii N, Asato Y. Orthotic treatment for refractory plantar ulcers using distribution assessments of sensory disturbance and dynamic plantar pressure in patients with Hansen's disease: A case series. J Dermatol. 2019;46(7):e248-e250.

Tashiro S, Kawakami M, Oka A, Liu F, Nishimura A, Ogawa C, Hagai F, Yamamoto S, Yazawa M, Liu M. Estimating nutrition intake status of community-dwelling elderly people requiring care in disaster settings: A preliminary cross-sectional survey. J Rehabil Med. 2019;51(4):312-316.

重安千花, 中島貴友, 慶野博, 池田佳介, 山根みお, 堀江大介, 朝戸裕, 山田昌和：Hansen病における眼後遺症と視機能障害の現状

日本眼科学会雑誌 (0029-0203) 123巻1号 Page 51-57 (2019.01)

## 著書

宮田知恵子, 辻哲也. 終末期のリハビリテーション治療. 【高齢終末期に向かう医療】終末期医療に必要な周辺医療, 診断と治療, 診断と治療社 107(10), p1253-1258, 2019.

宮田知恵子, 運動器に関する緩和ケア, 【がんロコモの展望】, 整形・災害外科 62(7), p875-882, 2019.

宮田知恵子, リハビリテーション医療 (リンパ浮腫, 専門医をめざす人のための緩和医療学改訂第2版, p245-253, 日本緩和医療学会監修, 南江堂, 2019.06.

## 講演

宮田知恵子, 高齢・認知症がん患者に対する緩和ケア～急性期病院の課題～. 第53回多施設緩和ケア研究会, 東京, 2019.04

### 3. 研修参加状況

#### 1) 看護部施設内参加状況（看護研究会・病院主催等）

研修会名	研修内容（目的）	研修期間	職種	参加人員（伝達講習含） （）内看護部
AED・エアストレッチャー研修	AEDの取り扱い実技・点検方法エアストレッチャー使用方法、実技	令和元年11月6日	全職員	*361名 (*236名)
Eコール訓練（AED使用）	救急時のコール対応訓練	令和元年11月7日	全職員	336名 (*236名)
「医療安全取り組み」活動発表	各部署の5S活動等の取り組みを行い成果を発表、共有する	令和2年1月20日～1月31日	全職種	
医療安全標語の作成と発表	各部署での医療安全標語を作成し実施する	平成30年11月医療安全週間中	全職員	
薬剤耐性AMR問題と抗菌薬適正使用	薬剤耐性AMR問題と抗菌薬適正使用について学ぶ	令和元年6月13日 令和元年7月11日 同内容を2回開催	全職員	379名 (*246名)
Q&Aでやさしくわかる身近で効果的な感染対策	Q&Aでやさしくわかる身近で効果的な感染対策を学ぶ	令和元年11月15日（2回開催） 令和元年12月9日	全職種	406名 (*249名)

#### 2) 看護部施設外参加状況

##### (1) 厚生労働省・厚生局・NHO・NC関係

研修会名	研修内容（目標）	主催	職種	研修期間	参加人数
労務管理担当者研修	労務管理に関する専門的知識・技術を向上させ、国立ハンセン療養所における労務管理対策の充実を図る	厚生労働省 医政局 医療経営支援課	副看護部長	平成31年4月22日～4月23日	1名
関東地区幹部・管理者職員ハラスメント防止研修	職員の模範となるべき幹部・管理職員に、ハラスメント防止に向けて求められる役割や行動様式等について再認識させる	人事院関東事務局	看護師長	令和元年9月10日	1名
国立ハンセン病療養所認知症高齢者の看護研修	・ 認知症看護を実践するために、必要な最新の知識と技術を習得する ・ ハンセン病療養所に入所している認知症高齢者の持つ問題点を理解する ・ 自己の課題を具体的なケアの実践から振り返り、今後の実践に生かすことができる	厚生労働省 医政局 医療経営支援課	看護師長	令和元年10月28日～10月30日	1名
国立ハンセン病療養所介護員研修	国立ハンセン病療養所に勤務する介護員の役割と責任を再認識するとともに、業務遂行上必要な知識・技術・態度の向上を図る	厚生労働省 医政局 医療経営支援課	介護員	令和元年12月11日～12月13日	2名
院内感染対策講習会	最新の科学的知見に基づいた適切な知識を普及・啓発することで、わが国における院内感染対策をより一層推進する	厚生労働省 医政局 医療経営支援課	看護師	1名	1名
看護師長等新任研修	中間管理者としての役割と責任を認識し、職務遂行に必要な知識・技術・態度を習得するとともに、管理能力の向上を図る	NHO 関東信越グループ	看護師長	令和元年7月1日～3日	1名
医療安全対策研修	病院における医療安全管理に携わる者として、医療安全対策に関する専門的知識・技術を身につけ、各施設における医療安全対策の推進と充実を図る	NHO 関東信越グループ	看護師長	令和元年7月24日～26日 令和元年11月13日～14日 5日間	1名

研修会名	研修内容（目標）	主催	職種	研修期間	参加人数
看護師等実習指導者講習会	看護教育における実習の意義及び実習指導者としての役割を理解し、効果的な実習指導ができるよう必要な知識・技術を習得するとともに、政策医療に関する実習指導の在り方について理解を深める。	NHO 関東信越グループ	看護師長	①令和元年9月9日～10月25日 ②令和元年11月18日～11月29日	1名
看護職員教育担当者研修	看護職員教育担当者としての役割を認識し、看護職のキャリアパス制度推進の基盤となる「看護職員開発プログラム」に基づく人材育成に必要な能力を養うことにより、病院における看護教育体制の一層の充実を図る	NHO 関東信越グループ	教育担当 看護師長	令和元年10月31日～11月1日	1名
看護教員インターンシップ研修	①看護学校で行っている看護基礎教育に興味関心を持つ機会とする ②看護教員の教育活動の実際を知る機会とする	NHO 関東信越グループ	看護師	令和元年11月22日	1名
災害看護研修(院内対応編)	災害基礎事項を習得し、病院での災害対応を理解する	国立病院機構 災害医療センター	看護師	令和元年6月17日	2名
呼吸器疾患看護研修会	呼吸器疾患高度専門医療および看護に関する専門的知識・技術を学ぶと併に、患者の今後の治療や生活に対する意思決定支援に必要なコミュニケーションスキルを習得し呼吸器疾患看護に従事する看護師のスキルアップを図る	国立病院機構 東京病院	看護師	令和元年10月3日～4日	3名
保健師助産師看護師実習指導者講習会	看護教育における実習の意義及び実習指導者としての役割を理解し、効果的な実習指導ができるよう必要な知識・技術を習得するとともに、政策医療に関する実習指導の在り方について理解を深める。	国立看護大学校	看護師	①令和元年11月13日～12月20日 ②令和2年1月8日～1月24日	1名
フィジカルアセスメント研修	フィジカルアセスメントの基本的な手技である「視診・触診・打診・聴診」を活用し、全身を系統的に評価する方法を学ぶ	国立看護大学校 (短期研修)	看護師	令和元年9月3日～4日	10名
看護における倫理的課題と解決の方法	看護における倫理的課題の背景と看護倫理に関する概念・理論を理解し、倫理的課題の解決方法を学ぶ	国立看護大学校 (短期研修)	看護師	令和元年9月19日～20日	1名
精神状態の理解とアセスメントMSE	臨床場面において患者の精神状態を適正にアセスメントするため方法を理解する	国立看護大学校 (短期研修)	看護師	令和2年2月20日～21日	1名

## (2) 日本看護協会関係

研修会名	主催	研修期間	参加人員
退院支援	東京都看護協会 北多摩地区支部	令和1年6月1日	1名
在宅看護	東京都看護協会 北多摩地区支部	令和元年9月7日	1名
高齢者のフィジカルアセスメント —高齢者に多い症状や疾患に対するケア—	東京都看護協会	令和2年1月14日	1名
認知症看護	東京都看護協会 北多摩地区支部	令和1年12月7日	1名
新人教育	東京都看護協会 北多摩地区支部	令和2年2月1日	3名

## (3) 座長・講師等

研修会名	氏名（職責）	座長・講師	研修日
心とからだの健康 (アロマセラピー)	山上由美 (2・3治療棟看護師)	講師	令和元年5月8日～ 5月29日
明日から即実践！認知症高齢者の対応	加瀬田朗子 (認知症看護認定看護師)	講師	令和元年7月5日
ハンセン病夏期大学 (多磨全生園看護部概況)	松岡宣代 (看護部長)	講師	令和元年8月7日
ハンセン病夏期大学 (ハンセン病の看護)	中原孝子 (第1治療棟看護師長)	講師	令和元年8月7日
ハンセン病夏期大学 (フットケアの実際)	大原ひとみ (第1センター副看護師長)	講師	令和元年8月7日
ハンセン病夏期大学 (ハンセン病療養所の介護)	岩崎哲也 (第3西センター介護長)	講師	令和元年8月7日
アロマセラピーについて	山上由美 (2・3治療棟 看護師)	講師	令和元年12月14日
ハンセン病コ・メディカル学会学術集会	松岡宣代 (看護部長)	座長 (ハンセン病の歴史)	令和元年10月19日
第23回市民公開講座	関由貴子 (感染管理認定看護師)	講師	平成31年4月13日
第24回市民公開講座	山川正子 (第1センター看護師)	講師	令和元年11月16日

## (4) その他

研修会名	主催	研修期間	参加人員
高齢者の皮膚のスキン-ケア	公立昭和病院	令和元年5月20日	2名
ガン性疼痛マネジメント ～痛み基礎知識とケアを考えよう～	公立昭和病院	令和元年7月12日	1名
この人についていきたいと思われるリーダー	第12医療圏 看護管理者連絡会	令和元年11月9日	6名
若年性認知症の医療とケアの実際と社会 参加について ～大切なことはいつも本人が決める～	北多摩北部保健医療圏 山田病院 認知症疾患 医療センター	令和2年2月1日	2名



### 3) 看護学校研修参加状況

#### (1) 国立病院機構、国立看護大学校主催研修参加状況>

- ・平成31年度附属看護学校新人教員研修（平成31年4月22日, 11月12日, 令和2年3月17日）：山谷なぎさ
- ・平成31年度国立病院機構附属看護学校副学校長・教育主事・教員夏期研修会（令和元年8月1日）：小林愛子, 疋田理津子, 大家枝利, 星野扶美子, 宮崎英子, 軽部太一, 山谷なぎさ
- ・令和元年度附属看護学校中堅看護教員研修（令和元年8月2日）：疋田理津子
- ・2019年度国立看護大学校短期研修  
「援助技法としてのプロセスレコード」（令和元年8月28日～8月29日）：軽部太一  
「フィジカルアセスメント」（令和元年9月3日～9月4日）：軽部太一
- ・2019年度看護師等実習指導者講習会  
「キャリア教育」（令和元年11月18日）：小林愛子

#### (2) その他の研修参加状況（自費）>

- ・学研主催研修  
「看護師国家試験分析レポート&受験指導対策セミナー 2019・春【分析編】」（平成31年4月6日）：軽部太一  
「第109回看護師国家試験対策 9月からの学生指導法 -得点が伸びない学生の指導法-」（令和元年8月4日）：軽部太一  
「ヒューマンケアリングの実践と教育」（令和元年9月16日）：軽部太一
- ・さわ研究所主催研修  
「2019年度看護国家試験対策春期教員セミナー」（平成31年4月14日）：軽部太一  
「2019 秋期教員セミナー」（令和元年10月19日）：軽部太一
- ・照林社主催研修  
「新カリキュラム対策講座 今からはじめる新カリに反映させたい教育」（令和元年7月7日）：軽部太一
- ・第41回 ハンセン病医学夏期大学  
「ハンセン病の末梢神経障害」（令和元年8月6日）：大家枝利  
「ハンセン病のまとめと基礎研究からの知見」（令和元年8月8日）：小林愛子
- ・平成31年度 都立看護専門学校職場内研修  
「実習における教員の役割」（令和元年8月23日）：星野扶美子, 軽部太一, 山谷なぎさ  
「仕事のやり方が変わる。学生の持てる力を引き出すかわり」（令和元年8月26日）：宮崎英子
- ・京都科学主催研修  
「教員のための「呼吸音聴診」セミナー」（令和元年8月27日）：軽部太一
- ・照林社主催研修  
「看護過程実践セミナー -看護師がチーム医療のキーパーソンになるために-」（令和元年9月1日）：軽部太一
- ・メディカ出版主催研修  
「精神看護学の講義の構築と実習への展開」（令和元年9月14日）：軽部太一
- ・日総研主催研修  
「学びとる力を育てる授業設計と教材の作り方」（令和元年9月21日）：軽部太一

- ・医学書院主催研修  
「カリキュラム改正のポイントとその対応」(令和元年11月2日)：軽部太一
- ・メディカ出版主催研修  
「「臨床判断能力」を養うために必要な「知」とは 臨床判断モデルを踏まえて看護教員の担う大きな役割を考える」(令和元年11月24日)：軽部太一
- ・看護ラボラトリー主催研修  
「看護診断セミナー初級コース「基本から見直そう」」(令和2年3月7日)：軽部太一, 大家枝利, 山谷なぎさ  
「看護診断セミナー中級コース「アセスメント力をアップしよう」」(令和2年3月8日)：軽部太一  
「看護診断セミナー上級コース「疑問の解決方法を学ぼう」」(令和2年3月21日)：軽部太一

(3) 研究授業等参加状況>

- ・軽部太一：令和元年6月27日 フィジカルアセスメント (千葉医療センター附属千葉看護学校)
- ・星野扶美子：令和元年7月17日 臨床看護技術演習 (水戸医療センター附属桜の郷看護学校)
- ・山谷なぎさ：令和2年1月23日 成人看護学実習 (西埼玉中央病院附属看護学校)

(4) 学術集会等への参加>

- ・小林愛子、星野扶美子、山谷なぎさ：第17回国立病院看護研究学会学術集会 (令和元年12月14日)
- ・小林愛子：第73回国立病院総合医学会 (令和元年11月8～9日)

(5) 看護教員インターンシップ実施状況>

- ・令和元年9月18日・19日 2日間 東京病院より1名

4) 研究検査科研修会参加状況

(1) 院内研修会参加状況

学会・研修会名	開催日時	開催場所	主催	部門	参加者
輸血検査機器操作研修	2019.04.24	検査科検体検査室	研究検査科	輸血	渡邊孝浩 工藤元記 阿部浩 望月規央 岡野行宏 川畑詠子 久高果市 渡邊潮之
令和元年度日臨床精度管理調査フォトサーベイ	2019.06.17	検査科カンファレンス室	研究検査科	検査全般	渡邊孝浩 工藤元記 和田聡 望月規央 岡野行宏 川畑詠子 久高果市 渡邊潮之 岩崎順子
園内感染対策研修「薬剤耐性AMR問題と抗菌薬適正使用」	2019.06.13	福祉サービスク3階	感染防止対策チーム (ICT)	感染対策	渡邊孝浩 工藤元記 和田聡 望月規央 川畑詠子 久高果市 渡邊潮之
園内感染対策研修「薬剤耐性AMR問題と抗菌薬適正使用」	2019.07.11	福祉サービスク3階	感染防止対策チーム (ICT)	感染対策	岡野行宏 岩崎順子
認知症ケア研修「高齢者看護・介護-認知症について I-」	2019.07.17	福祉サービスク3階	看護部教育委員会	看護	渡邊孝浩 工藤元記 川畑詠子 岩崎順子
医療安全研修会「Eコール+AED」	2019.07.30	一般夫婦寮2号棟玄関ホール及び2病棟	医療安全推進部会	医療安全	渡邊孝浩 工藤元記 和田聡 望月規央 岡野行宏 川畑詠子 久高果市 渡邊潮之 岩崎順子
第41回ハンセン病医学夏期大学講座	2019.08.06~08	福祉サービスク3階	ハンセン病医学夏期大学講座実行委員会	全般	渡邊孝浩 工藤元記 望月規央
第41回ハンセン病医学夏期大学講座	2019.08.08	ハンセン病研究センター	ハンセン病医学夏期大学講座実行委員会	細菌	望月規央
認知症ケア研修「高齢者看護・介護-認知症について II-」	2019.09.17	福祉サービスク3階	看護部教育委員会	看護	渡邊孝浩 工藤元記 川畑詠子 岩崎順子
認知症ケア研修「高齢者看護・介護-認知症について III-」	2019.10.23	福祉サービスク3階	看護部教育委員会	看護	渡邊孝浩 岩崎順子
医療安全研修会「AED、エアストレッチャー」	2019.11.06	福祉サービスク3階	医療安全推進部会	医療安全	渡邊孝浩 工藤元記 和田聡 望月規央 岡野行宏 久高果市 渡邊潮之 岩崎順子
臨床検査における精度管理の基礎	2019.11.13	検査科検体検査室	研究検査科	精度管理	望月規央 岡野行宏
園内感染対策研修「Q&Aでやさしくわかる身近で効果的な感染対策」	2019.11.15	福祉サービスク3階	感染防止対策チーム (ICT)	感染対策	岡野行宏 久高果市
園内感染対策研修「Q&Aでやさしくわかる身近で効果的な感染対策」	2019.12.09	福祉サービスク3階	感染防止対策チーム (ICT)	感染対策	渡邊孝浩 工藤元記 和田聡 望月規央 渡邊潮之 岩崎順子
酵素活性測定の変遷と今後ALP・LDのIFCC法への切り替えに向けて	2020.02.14	検査科カンファレンス室	研究検査科	生化学	渡邊孝浩 工藤元記 和田聡 岡野行宏 久高果市 渡邊潮之 岩崎順子

(2) 院外研修会参加状況

学会・研修会名	開催日時	開催場所	主催	部門	参加者
第1回国臨協関信支部主催研修会 女性の健康セミナー	2019.04.20	国立国際医療研究センター	国臨協関信支部	全般	工藤元記
第92回日本超音波医学会学術集会	2019.05.24	グランドプリンスホテル新高輪	日本超音波検査学会	生理	渡邊孝浩
国立病院臨床検査技師長協議会 関信支部総会・研修会	2019.05.25	NHO東京医療センター	臨床検査技師長協議会 関信支部	全般	渡邊孝浩 工藤元記
令和元年度中間管理職新任研修	2019.07.01～3	国立病院機構本部 1階講堂・研修センター	国立病院機構本部	管理	渡邊孝浩
第2回国臨協関信支部主催研修会 東京2020に向けたグローバル時代の感染症対策	2019.07.27	国立国際医療研究センター	国臨協関信支部	微生物	渡邊孝浩 工藤元記
シスメックス免疫セミナー in 立川 2019	2019.08.28	パレスホテル立川	シスメックス株式会社	免疫	渡邊孝浩 工藤元記 望月規央
第46回国臨協関信支部学会 「変革～新しい時代に向かって～」	2019.09.07	国立国際医療研究センター 病院	国臨協関信支部	全般	工藤元記
臨床検査の精度確保および 品質マネジメントシステム研修	2019.10.18～19	国立病院機構本部	国立病院機構	全般	工藤元記
国臨協関信支部東京地区会 研修会・総会	2019.10.26	国立がん研究センター 中央病院	国臨協関信支部東京地区会	全般	渡邊孝浩 工藤元記 和田聡
日本認知症予防学会学術集会	2019.11.18～20	名古屋国際展示場	日本認知症予防学会	全般	岩崎順子
ALP・LD測定のIFCC処方とは 「JSCCとIFCC反応性の違い」	2019.11.22	三多摩勤労会館	富士フィルム和光純薬 株式会社	生化	岡野行宏
2019年度日臨技精度管理調査報告会	2019.11.30	東京ビックサイト	日本臨床衛生検査技師会	管理	岡野行宏
第26回北多磨北部感染症対策研究会 「感染症から未来を守る～今求められる薬剤耐性対策」	2019.12.03	NHO東京病院	北多磨北部感染症対策 研究会	細菌	渡邊孝浩 工藤元記 和田聡 望月規央
第3回国臨協関信支部主催研修会 遺伝子検査の基礎と遺伝子検査の現状	2019.12.07	国立国際医療研究センター 病院	国臨協関信支部	遺伝子	渡邊孝浩
第31回日本臨床微生物学会総会・学術集会	2020.01.31	石川県立音楽堂	日本臨床微生物学会	細菌	望月規央

#### 4. 国立療養所多磨全生園ヒトを対象とする医学研究倫理審査委員会状況

承認番号	課題名	審査結果	実施期間	代表者
01-01	ハンセン病患者の疫学調査	迅速審査「承認」	令和2年1月1日～令和7年3月31日	石井 則久
01-02	A病棟のデスカンファレンスの現状	迅速審査「承認」	令和元年7月1日～令和2年7月31日	石森 啓美
01-03	国立ハンセン病療養所における副看護師長育成プログラムの検討	迅速審査「承認」	平成31年4月1日～平成33年3月31日	松岡 宣代

国立療養所多磨全生園ヒトを対象とする医学研究倫理審査委員会 委員名簿 (元,11,1)			
職 名	氏 名	備 考	
国立療養所多磨全生園 副院長	三宅 智	委員長	
国立療養所多磨全生園 事務部長	水谷 義彦		
国立療養所多磨全生園 看護部長	松岡 宣代		
国立療養所多磨全生園 医療職(一) 代表	村上 龍司		
国立療養所多磨全生園 医療職(二) 代表	相良 真一		
国立療養所多磨全生園 医療職(三) 代表	出牛 恭子		
国立療養所多磨全生園 行政職(一) 代表	久米 俊		
国立感染症研究所ハンセン病研究センター	阿戸 学		
法務省人権擁護委員	江藤 佳子	規程第4条第1項(1),(2),(3)委員	
上智大学法学部	岩田 太		
国立療養所多磨全生園 庶務課長	岩垂 朋昭	事務局	



## 8. 規程の改訂状況（令和元年度）

規程名	年月日	備考（理由等）
人生サポート委員会規程	2019年4月1日	下部組織を追加、委員会の開催を年3回程度に変更
職員服務規程	2019年4月1日	勤務時間管理員に副看護部長を追加、押印確認→サイン可
買い物用金銭取扱規程	2019年5月1日	監査員を福祉室長・係長から会計課長・庶務課長へ変更等
輸血療法委員会	2019年5月28日	構成、委員会の開催等について改訂
賛助会規約	2019年6月1日	会長を庶務課長から園長等
セクシャル・ハラスメントの防止等に関する規程	2019年6月1日	第6条研修等の実施について対象者の追加
ICカード乗車券運用規程	2019年7月1日	公務の利便性及び旅費請求事務軽減と効率性を図るため制定
薬剤委員会規程	2019年8月1日	薬事委員会とされていた委員会名の変更等
人権擁護委員会規程	2019年9月30日	委員長を役職指定から互選へ
受託実習生受入に伴う取扱規程	2019年10月1日	消費税10%に伴う単価の変更
宿日直規程	2019年10月1日	看護師長当直を新設等
中央材料室運営委員会	2020年2月14日	委員会の構成を役職等明確に指定
売店等の設置運営委員会規程	2020年2月21日	委員構成員について法令・利益相反の観点から改訂
文書管理規程	2020年3月1日	一元的文書管理システムを本格利用するための改正
臨床検査委員会	2020年3月12日	副委員長等第3条関係組織について等改訂
防災マニュアル	2020年3月18日	自施設の保護と業務の早期回復等基本姿勢に全面改訂
ICカード乗車券運用規程	2020年3月18日	「立て替え払いも可」の削除
認知症対策部会	2020年3月31日	チームの再編と部会開催時期の改正
医療安全管理規定	2020年3月31日	医療放射線安全管理責任者配置に伴う改訂



### Ⅲ 統計資料



## 1. 職員定数・現員、永年勤続授賞者等

### (1) 定員内職員

各年度4月1日現在

	26年度		27年度		28年度		29年度		30年度		元年度	
	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員
指定	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
行(一)	18	18	18	18	18	19	18	17	18	18	18	18
行(二)	105	105	105	105	105	105	104	102	104	100	102	101
医(一)	23	18	23	17	23	15	23	14	23	11	23	15
医(二)	28	24	28	28	28	28	29	26	30	28	30	27
医(三)	153	141	153	145	153	149	153	148	153	151	153	144
福祉	3	2	3	3	3	3	4	3	5	3	5	3
教(二)	7	7	7	6	7	7	7	7	7	7	7	7
計	338	316	338	323	338	327	339	318	341	319	339	316

### (2) 賃金職員等

	26年度		27年度		28年度		29年度		30年度		元年度	
	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員
行(一)		1		1		1			2	2	7	7
行(二)	75	57	75	51	75	52	75	41	73	32	68	29
医(一)												
医(二)												
医(三)												
福祉	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
計	79	62	79	56	79	57	79	45	79	38	79	40



(3) 令和元年度永年勤続表彰者

30年表彰		20年表彰	
職 名	氏 名	職 名	氏 名
電気士長	岩崎 克弥	看護助手	北川 宏司
薬剤師	岡野 由美子	看護助手	奈良 靖子
栄養管理室長	山田 直子	看護師	青木 理沙
看護師長	吉田 輝子		
看護師	野本 美砂子		



(4) 職員の健康管理

令和元年度末 現在職員数	331人	うち 40歳以上 36歳以上～39歳 35歳	283人 22人 5人
-----------------	------	------------------------------	-------------------

① 一般の健康診断

項目	健康診断の受診人員、所要経費等				指導区分及び事後措置									
	対象者数 人	受診 実人員 人	精密検査 対象者数 人	精密検査 実施数 人	経過観察 実施数 人	指導区分 (医療の面)		勤務上の措置		就業 禁止 人				
						要医療 人	要観察 人	休暇又は休職 人	時間外勤務等の 制限 人					
肺	40歳以上 エックス線検査	283 (48)	166 (35)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	39歳以下希望者数													
	全職員数	331	201	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	40歳以上、医師が必要ない と認められる者除く 39歳以下、医師が必要ない と認められる者除く	9 (0)	7 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	全職員数	331	238	6	0	0	6	6	0	0	0	0	0	0
	35歳、40歳以上 上記以外希望者数	288 (43)	206 (29)	10 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	10 (0)	1 (0)	0	0	0	0	0
	全職員数	331	236	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
	全職員数	331	236	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	35歳、40歳以上 上記以外希望者数	288 (0)	170 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	全職員数	331	206 (29)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1	0	18	0	0	0	0	0
循環器	35歳、40歳以上 L コlesteroール検査	288 (43)	206 (29)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	35歳、40歳以上 上記以外希望者数	288 (43)	206 (29)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	35歳、40歳以上 上記以外希望者数	288 (43)	206 (29)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	35歳、40歳以上 上記以外希望者数	288 (43)	206 (29)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	35歳、40歳以上 上記以外希望者数	288 (43)	206 (29)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	35歳、40歳以上 上記以外希望者数	288 (43)	206 (29)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	35歳、40歳以上 上記以外希望者数	288 (43)	206 (29)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	35歳、40歳以上 上記以外希望者数	288 (43)	206 (29)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	40歳以上 胃部エックス線 検査	283 (0)	21 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	39歳以下希望者数													
胃	40歳以上 胃内視鏡検査	283 (0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	
	39歳以下希望者数													
肝臓	35歳、40歳以上 肝機能検査	288 (43)	206 (29)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	上記以外希望者数													
大腸	40歳以上 便潜血反 査	283 (1)	81 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	39歳以下希望者数													

がん  
潰瘍  
その他  
がん  
潰瘍  
その他

② 臨時の健康診断

項目	健康診断の受診人員、所要経費等				指導区分及び事後措置												
	対象者数 人	受診 実人員 人	精密検査 対象者数 人	精密検査 実施数 人	経過観察 実施数 人	所要経費			指導区分(医療の面)			勤務上の措置			就業 禁止 人		
						職員厚生 経費 円	共済・その他 経費 円	個人負担 経費 円	要医療 人	要観察 人	休暇又は休職 人	勤務の軽減かつ時 間外勤務等の制限 人	時間外勤務 等の制限 人	総合的な 健康診断 人		総合的な 健康診断 人	総合的な 健康診断 人
第21条関係(1)~(8)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
子宮頸がん検診	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
乳がん検診	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
情報機器健診	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
超過勤務検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B,C型肝炎検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
風しん抗体検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
HBS抗原、抗体検査	176	118	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
HCV抗体検査	176	118	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
採用時の健康診断	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
非常勤職員(一般定期健康診断 以外)の非常勤	52	51	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(2)	(2)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	1	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
総合的な健康診断	310	115	14	0	0	0	3,192,854	1,594,122									
	(48)	(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(29,484)	(12,636)									
心理的な負担の程度を把握するための検査	331	266	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(52)	(51)	(0)	(0)	△	(0)	(0)	(0)	(0)	0	0	0	0	0	0	0	0

総合的な健康診断の受診状況(常勤職員)

	受診者数	重複受診者数
40歳以上	105人	0
36歳以上40歳未満	8人	0
35歳	2人	0
35歳未満	0人	0

保健指導の実施状況

4項目有所見者数	0人
精密検査実施数	
保健指導実施数	

③ 特別の健康診断

項目	業務別健康診断の受診人員、所要経費等						指導区分及び事後措置								
	対象者数	受診 実人員	受診 延人員	精密検査 対象者数	精密検査 実施数	経過観察 実施数	指導区分 (医療の面)		勤務上の措置		就業 禁止				
							要医療 人	要観察 人	休暇又は休職 人	勤務の軽減かつ時 間外勤務等の制限 人	時間外勤務 等の制限 人	健康診断 人	総合的な 健康診断 人	総合的な 健康診断 人	
第1号	8	8	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第2号	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第3号	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第4号	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第5号	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第6号	17	17	34	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第7号	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第8号	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第10号	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第12号	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第2号	4	4	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第3号	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第4号	6	6	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第5号	208	206	411	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第6号	144	142	283	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第7号	19	19	37	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第8号	84	83	1,286	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第9号	80	80	157	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計器監視	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
上記特別定期健康診断を必要とする 業務への配置前の健康診断	7	7	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
非常勤職員の特別定期健康診断	34	34	68	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

## 2. 経理関係

### (1) 歳入・歳出決算額

歳入科目	単位：千円
雑収入	19,392
国有財産収入	3,681
諸収入	15,711
歳出科目	単位：千円
国立ハンセン療養所	3,571,636
職員基本給	1,381,953
職員諸手当	639,155
超過勤務手当	107,567
非常勤職員手当	549
短時間職員給与	20,973
児童手当	16,145
施設施工旅費	0
施設施工庁費	23,505
施設整備費	231,440
諸謝金	4,790
入所者作業謝金	1,838
入所者給与金	47,487
職員旅費	826
研修旅費	0
外国旅費	0
委員等旅費	38
生徒旅費	258
入所者転送等旅費	0
庁費	34,129
情報処理業務庁費	0
入所者療養諸費	777,286
受託研究費	0
医療機器整備費	77,431
医薬品等購入費	113,206
通信専用料	0
各所修繕	7,438
入所者食糧費	85,465
自動車重量税	157

### (2) 医療機器整備状況

品名	規格・型式	単位：千円
自動体外式除細動器 一式	日本光電AED-3100 13台	5,294
据置型車椅子入浴装置	酒井医療 ライラックプラス浴槽LA-560MR	8,448
歯科ユニット	osada オパールコンフォート#2111	5,588
超音波診断装置	富士フイルムメディカル FC-1-X	3,960
X線TVシステム	島津製作所 SONIAL VISION 4LX	40,447
全自動散薬分包装置	トーヨー Ai8080win	6,930
薬品在庫管理システム	東邦システム ENIFwinNex-Sus	5,225
調剤支援システム(ハード部分)	トーヨー 調剤支援システム用クライアント端末	1,540

### (3) 施設整備状況

工事名	単位：千円
第3センター東45寮解体工事	4,968
膨脹タンク更新工事	4,950
園外周フェンス整備工事	24,200
面会人宿舍整備工事	207,240



### 3. 入所者関係

#### (1) 平成26年度～令和元年度 年度別入所者数

	26年度			27年度			28年度			29年度			30年度			令和元年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
年度未入所者数 (人)	105	106	211	91	81	177	75	93	168	72	85	157	66	80	146			
年度末平均年齢 (歳)	83.2	85.7	84.5	83.3	86.2	85.0	84.0	87.0	85.5	84.3	87.4	86.0	84.7	88.2	86.6			
再入所者数 (人)	-	-	0	2	1	3	2	1	3	1	0	1	1	1	2			
社会復帰者数 (人)	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-	1			
転園者数 (人)	0	1	1	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0			
死亡者数 (人)	4	7	11	16	11	8	8	4	12	4	8	12	7	5	12			

## (2) 月別推移状況

年月	区分	繰越 入所者数	転入再 入所者数	転退 所者数	死亡者数 (再計)	月末 入所者数	延入所者数	月末 入所者数	平均 入所者数
平成31.	4	157	0	1	1	156	4,680	156	156.0
令和元年.	5	156	1	2	2	155	4,848	155	156.4
	6	155	0	0	0	155	4,650	155	155.0
	7	155	0	1	1	154	4,800	154	154.8
	8	154	0	2	2	152	4,740	152	152.9
	9	152	0	1	0	151	4,556	151	151.9
	10	151	0	0	0	151	4,681	151	151.0
	11	151	0	2	2	149	4,487	149	149.6
	12	149	0	2	2	147	4,612	147	148.8
令和2年.	1	147	0	0	0	147	4,557	147	147.0
	2	147	1	2	2	146	4,252	146	146.6
	3	146	0	0	0	146	4,570	146	147.4
	計		2	13	12				

## (3) 年齢別人数

(年度末現在)

区分	男	女	計	構成比
45歳未満	0	0	0	0.0%
45～49歳	0	0	0	0.0%
50～54歳	0	0	0	0.0%
55～59歳	0	0	0	0.0%
60～64歳	0	0	0	0.0%
65～69歳	3	0	3	2.1%
70～74歳	6	1	7	4.8%
75～79歳	6	9	15	10.3%
80～84歳	14	13	27	18.5%
85～89歳	16	25	41	28.1%
90～94歳	17	16	33	22.6%
95～99歳	3	12	15	10.3%
100歳以上	1	4	5	3.4%
合計	66	80	146	100.0%

## (4) 在所期間別人数調

(年度末現在)

区分	男	女	計	構成比
5年未満	7	4	11	7.5%
5～10年	2	3	5	3.4%
11～15年	3	0	3	2.1%
16～20年	3	2	5	3.4%
21～25年	4	2	6	4.1%
26～30年	7	7	14	9.6%
31～35年	3	10	13	8.9%
36～40年	4	1	5	3.4%
41～45年	3	3	6	4.1%
46～50年	5	8	13	8.9%
51～55年	4	10	14	9.6%
56～60年	3	2	5	3.4%
61～65年	6	3	9	6.2%
66年以上	12	25	37	25.3%
計	66	80	146	100.0%

(5) 開園〔1909年〕以来年齢別死亡者数調

(年度末現在)

性別	年齢	0～9	10～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59
男		13	75	205	281	357	348	287	224	196	175
女		8	37	58	74	78	90	73	70	66	70
計		21	112	263	355	435	438	360	294	262	245
性別	年齢	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～99	100～	不詳	計
男		154	164	151	136	126	112	84	2	9	3,099
女		67	51	74	60	77	80	84	10	6	1,133
計		221	215	225	196	203	192	168	12	15	4,232

(6) 月別寮籍別入所者数

(月末現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1センター	30	28	30	30	28	27	27	29	30	30	30	31
第3西センター	24	26	26	26	27	25	25	25	24	25	23	26
新センター	11	11	11	11	11	11	11	10	10	10	8	4
一般寮	58	57	56	56	53	54	54	53	52	53	52	52
病棟籍	33	33	32	31	33	34	34	32	31	29	33	33
合計	156	155	155	154	152	151	151	149	147	147	146	146

(7) 疾病別死亡患者数統計表 (全科)

【全科】

集計期間：平成26年4月1日～令和2年3月31日

ICD10コード	疾病名	死亡者数					
		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年
C20	直腸癌			1			
C61	前立腺癌					1	
C159	食道癌						
C169	胃癌	1		1			
C189	大腸癌			1			
C220	肝臓癌	1					
C221	胆管細胞癌	1					
C259	膵臓癌			2		1	
C349	肺癌	2	1			1	1
C549	子宮体癌			1			
C859	悪性リンパ腫				1		
D046	右上腕ボーエン病		1				
D374	大腸腫瘍		1				
D376	肝腫瘍				1		
D383	縦隔腫瘍		1				
D432	脳腫瘍			1			
G595	頸髄症		1				
G919	硬膜下水腫			1			
I219	急性心筋梗塞	1			1		
I255	心筋虚血						1
I500	うっ血性心不全		2	1	1		
I509	心不全		1	2	2	1	
I619	脳出血		1		1		
I635	脳幹梗塞			1			
I639	脳梗塞					1	
J189	肺炎		9	3		2	6
J849	間質性肺炎				1		
J9609	急性呼吸不全				1		1
K567	腸閉塞					1	
K922	消化管出血	1	1				
N178	急性腎不全			1		1	1
N185	末期腎不全	1					
N189	慢性腎不全			1			
R54	老衰	2		2	3	2	2
R090	窒息	1					
R571	出血性ショック						
R688	多臓器不全					1	
R730	耐糖能異常		1				

(8) 委託診療件数（施設別・入院・通院別）

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		総計		
	入院	通院	入院	通院	入院	通院	入院	通院	入院	通院	入院	通院	入院	通院	入院	通院	入院	通院	入院	通院	入院	通院	入院	通院	入院	通院	
NHO 東京病院		6	2	8	1	9		25		5		4		6		5		2		2		6		1		3	79
NHO 村山医療センター		1							1			1													1	2	
NHO 埼玉病院		1		2		2		3	2	2	1	1		1		6	1	2					1			4	21
公立昭和病院	2			3		2		1						1		2		1		4			2		1	3	17
杏林大学	1	2		1	1	2	2			2	1	1		3	2			1					1			7	13
防衛医科大学校病院				2	1	2						1			1											2	6
多摩北部医療センター	3		2	2	1	5	1	6		13		7	2	12	1	11		3		1			2		2	5	67
複十字病院	1	20		14		1	2		2	3		2	1		1		3							2	2	1	50
新山手病院		1		1		2		1				1												2	0	0	8
武蔵村山病院		1						1										1					1			0	5
東京白十字病院	1	2	2			1				1				1			1									4	6
うしき産婦人科クリニック						1		1						1				1					1			0	6
東京大学医学部附属病院						2		1				1			1											0	6
その他	1	1		3		3		2		1		1		0		3		0					0		0	1	14
計	6	38	4	36	4	32	3	43	3	27	2	21	2	26	4	29	2	16	1	10	0	14	0	8	31	300	

\*延べ件数(件)

(9) 平成26年度から令和元年度 医療社会事業（ソーシャルワーク）統計

① 相談件数

年度	入所者	外来
平成26年度	3,798	344
平成27年度	3,307	322
平成28年度	3,074	325
平成29年度	2,676	316
平成30年度	2,322	291
令和元年度	2,222	280
計	17,399	1,878

② 援助内容

年度	心理社会的問題援助	退院援助	受診受療援助	経済的問題	社会復帰援助
平成26年度	2,780	0	918	2,144	0
平成27年度	2,263	0	866	1,960	0
平成28年度	2,109	0	86	1,823	0
平成29年度	1,889	0	739	1,721	0
平成30年度	1,672	0	706	1,499	2
令和元年度	1,650	0	720	1,450	1
計	12,363	0	4,035	10,597	3

③ 援助方法

年度	面談	電話・書信での相談	電話等での調整収集提供	協議・カンファレンス	記録文書	訪問
平成26年度	3,059	921	624	2,112	2,042	5
平成27年度	2,588	967	990	1,722	1,910	9
平成28年度	2,314	1,172	1,140	1,583	2,045	9
平成29年度	2,116	1,086	1,113	1,331	1,826	6
平成30年度	1,716	956	947	1,243	1,663	6
令和元年度	1,645	1,004	1,035	1,232	1,644	3
計	13,438	6,106	5,849	9,223	11,130	38

④ 個別外援助

年度	院内カンファレンス・会議	文書・資料作成・整備	教育
平成26年度	35	232	7
平成27年度	20	28	6
平成28年度	27	24	6
平成29年度	27	19	8
平成30年度	40	15	6
令和元年度	28	12	6
計	177	330	39



#### 4. 治療棟診療科受診者数

(上段：延べ人数 下段：1日平均人数)

診療科/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
内科	155	173	167	137	220	168	166	130	178	176	116	166	1,952
	7.8	9.1	8.4	6.2	10.5	8.8	7.9	6.5	8.9	9.3	6.4	7.9	8.1
精神科	70	54	89	54	87	46	85	64	88	91	149	95	972
	3.5	2.8	4.5	2.5	4.1	2.4	4.0	3.2	4.4	4.8	8.3	4.5	4.1
神経内科	7	0	14	8	5	5	6	6	12	5	4	6	78
	0.4	0.0	0.7	0.4	0.2	0.3	0.3	0.3	0.6	0.3	0.2	0.3	0.3
耳鼻科	16	396	435	449	372	339	371	332	302	332	333	395	4072
	0.8	20.8	21.8	20.4	17.7	17.8	17.7	16.6	15.1	17.5	18.5	18.8	17.0
皮膚科	132	302	374	387	380	425	401	349	360	380	389	521	4,400
	6.6	15.9	18.7	17.6	18.1	22.4	19.1	17.5	18.0	20.0	21.6	24.8	18.3
眼科	312	113	104	170	187	171	164	105	158	162	138	177	1,961
	15.6	5.9	5.2	7.7	8.9	9.0	7.8	5.3	7.9	8.5	7.7	8.4	8.2
外科	57	71	48	53	45	40	49	54	50	35	49	67	618
	2.9	3.7	2.4	2.4	2.1	2.1	2.3	2.7	2.5	1.8	2.7	3.2	2.6
整形外科	0	70	137	130	102	125	135	106	137	134	113	134	1323
	0.0	3.7	6.9	5.9	4.9	6.6	6.4	5.3	6.9	7.1	6.3	6.4	5.5
婦人科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
泌尿器科	117	22	8	20	10	14	0	15	14	15	12	12	259
	5.9	1.2	0.4	0.9	0.5	0.7	0.0	0.8	0.7	0.8	0.7	0.6	1.1
リハビリ科	112	97	85	124	126	85	152	81	109	68	114	87	1,240
	5.6	5.1	4.3	5.6	6.0	4.5	7.2	4.1	5.5	3.6	6.3	4.1	5.2
歯科	239	229	194	217	199	234	229	210	211	198	210	257	2,627
	12.0	12.1	9.7	9.9	9.5	12.3	10.9	10.5	10.6	10.4	11.7	12.2	10.9
乳腺外来	365	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	365
	18.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5
透析室	31	33	32	27	37	30	30	31	27	12	12	13	315
	1.6	1.7	1.6	1.2	1.8	1.6	1.4	1.6	1.4	0.6	0.7	0.6	1.3
計	1,613	1,560	1,687	1,776	1,770	1,682	1,788	1,483	1,646	1,608	1,639	1,930	20,182
平均計	80.7	82.1	84.4	80.7	84.3	88.5	85.1	74.2	82.3	84.6	91.1	91.9	84.1

## 5. 診療統計関係

### (1) 薬剤に関する概況

#### ① 処方せん発行枚数および調剤回数等

区分	処方せん発行枚数	調剤回数	延べ剤数
内用剤	15,177	23,586	438,966
外用剤		7,274	7,274
注射剤	2,792	4,268	4,268
計	17,969	35,128	450,508

#### ② 医薬品消費額

区分	消費額 (単位：円)
内用剤	23,613,127
外用剤	10,496,080
注射剤	5,064,526
計	39,173,733

#### ③ 製剤

区分	外用液剤 (滅菌)	外用液剤 (非滅菌)	外用固形剤 (非滅菌)	内用剤 (非滅菌)	注射剤 (IVH)	合 計
製剤種類	0	2	0	7	0	9
製剤回数	0	28	0	66	0	94

(2) 臨床検査に関する概況

① 臨床検査業務統計表

		区分	院内検査件数				外部委託 件数(別掲)	
			入院	外来	請求外件数	総件数		
件 数 統 計	合計	1~8	10,525	18,017	16,133	44,675	875	
	尿・便等検査	1A,1B	128	658	728	1,514	0	
	髄液・精液等	1C,1Z	0	0	0	0	0	
	血液学的検査	2A~2C・2Z	979	1,383	1,179	3,541	17	
	生化学的検査	3A~3M・3Z	8,232	12,786	10,046	31,064	232	
	内分泌学的検査	4A~4H・4Z	72	348	0	420	115	
	免疫学的検査	5A~5K	748	2,264	2,026	5,038	442	
	微生物学的検査	6A~6C・6Z	366	578	2,154	3,098	39	
	病理組織検査	7B・7C・7D	0	0	0	0	9	
	細胞診検査	7A	0	0	0	0	21	
	機能検査	8A	0	0	0	0	0	
	染色体検査	8B	0	0	0	0	0	
	遺伝子検査	8C・8Z・7Z	0	0	0	0	0	
生 理 機 能 検 査	合計	9	臨床検査技師実施件数				技師外実施 件数(別掲)	出張件数 (再掲)
			入院	外来	請求外件数	総件数		
			31	302	253	586	2,409	8
	心電図検査等	9A	26	212	236	474	0	8
	脳波検査等	9B	4	1	17	22	0	0
	呼吸機能検査等	9C	0	2	0	2	0	0
	前庭・聴力機能検査等	9D	0	0	0	0	155	0
	眼科関連機能検査等	9E	0	0	0	0	1,973	0
	超音波検査等	9F	0	3	0	3	8	0
	その他	9I・9G・9Z	1	84	0	85	273	0
穿刺・採取料等	9J	0	308	116	424	694	0	
			総数	計上内容等				
MRI件数			0	臨床検査技師が実施したMRI件数				
内視鏡件数			0	臨床検査技師が介助した件数				
病理解剖件数	7Z	全身	0	脳解剖を含む病理解剖数				
		一部のみ	0	脳解剖を含まないまたは脳解剖のみの病理解剖数 ただし屍検は含まない				
輸血管理部門の取扱い状況			*****					
入庫数	製剤数	2	入庫した血液製剤バッグ数					
出庫数	製剤数	2	輸血管理室から出庫した血液製剤バッグ数					
輸血済み血液製剤数	製剤数	2	輸血が実施された血液製剤バッグ数					
血液製剤廃棄率	%	0.00	自己血を除く血液製剤廃棄率(年度通算)					
病理組織ブロック数	個	0	病理解剖を除くブロック数					
免疫染色枚数(病理)	枚	0	のべ染色枚数(組織および細胞)					
特殊染色枚数(病理)	枚	0	のべ染色枚数(組織および細胞)					
医療機器保守点検件数	件数	48	検査部門内外の医療機器点検件数					
各種チーム医療連携業務	件数	71	ICT,NSTラウンド等への参加回数や地域医療連携業務等の件数					
各種指導・教室等実施状況	件数	0	DM教室、新人職員または臨地実習などのオリエンテーション					
治験取扱い患者人数	患者数	0	採血、生理機能検査、検体前処理等の回数に関係なく1患者1件					
臨床研究取扱い患者人数	患者数	0	院内の倫理委員会で承認された研究に関する扱い患者数					
実習・研修等受入れ状況	単位	0	計算式=受け入れ日数(1日を8時間として)×人数					
			入院	外来	総件数	計上内容等		
ホルター心電図等解析件数	件数	0	0	0	ホルターECG・血圧計、PSG,SASなどの解析件数			
超音波検査等所見記載件数	件数	0	0	0	計測、解析や超音波検査や脳波検査などの所見を記載した件数			
小児・重心・筋ジス・精神患者検査件数	患者数	0	0	0	小児(14歳以下)、重心・筋ジス・精神患者を検査した件数(項目限定)			
検査説明・相談件数	件数	0	0	0	説明あるいは相談に5分以上を要した件数			
鼻腔ぬぐい液等検体採取件数	件数	0	0	0	臨床検査技師が採取した件数			
採血管準備患者数	患者数	678	321	999	検査部門で採血管準備した患者数(職員健診分は除く)			
静脈採血患者数	患者数	0	308	308	検査技師が静脈採血した患者数(職員健診や接触者健診などは除く)			

② 外部精度管理参加状況

メーカー名/事業名	部門	実施日	参加項目	評価
2019年度 第1回 アボット メーカー精度管理	免疫	2019.04.22	HBsAg・HBsAb・HCV・AFP・CEA CA19-9・FER・PSA・TSH・FT3・FT4	良好 ±2SD以内
2019年度 第2回 アボット メーカー精度管理	免疫	2019.08.06	HBsAg・HBsAb・HCV・AFP・CEA CA19-9・FER・PSA・TSH・FT3・FT4	良好 ±2SD以内
第12回コレステロールコントロールサーベイ (積水メデイカル)	生化	2019.05.13	TC・TG・HDL-C・LDL-C	良好 ±1SD以内
平成30年度 (第27回) 富士ドライケムサーベイ	生化	2019.07.02	NH3	良好 ±1SD以内
2018年度 (第22回) デタミナーサーベイ (協和メデイックス)	生化	2019.06.12	TC・TG・HDL・LDL・CRE・UN・UA GLU・IP	良好 ±1SD以内
2019年度東ソーHbA1cコントロールサーベイ (東ソー)	生化	2019.07.05	HbA1c	良好 ±1SD以内
エームス尿検査成績管理 (149回)	一般	2019.06.11	尿定性	良好 期待値内
エームス尿検査成績管理 (150回)	一般	2019.09.09	尿定性	良好 期待値内
エームス尿検査成績管理 (151回)	一般	2019.12.10	尿定性	良好 期待値内
平成31年 第28回免疫検査精度管理 (ニッポーメデイカル)	生化学	2019.02.25	CRP・β2MG	良好 ±1SD以内
令和元年度日臨技臨床検査精度管理調査	生化・免疫 血液・一般 細菌・生理 輸血	2019.06.05	臨床検査172項目	良好 評価A 評価B 107項目
令和元年度 (第53回) 日本医師会臨床検査精度管理調査	生化・血液 免疫・一般	2019.09.11	臨床検査123項目	良好 評価項目点:98.0
令和元年度東京都臨床検査技師会精度管理調査	生化・血液	2019.10.30	臨床検査71項目	良好 評価A:71項目

③ 認定資格取得者状況

認 定 資 格	認 定 機 関	取得者
有機溶剤作業主任者	社会法人 労働基準協会連合会	工藤元記
特定化学物質作業主任者	社会法人 労働基準協会連合会	工藤元記
二級臨床検査士：血液学	日本臨床検査同学院	望月規央
二級臨床検査士：微生物学 (寄生虫含む)	日本臨床検査同学院	望月規央 久高果市
超音波検査士 (消化器領域)	公益社団法人日本超音波医学会	渡邊孝浩 岩崎順子
認定認知症領域検査技師	一般社団法人日本臨床衛生検査技師会	岩崎順子
認定臨床微生物検査技師	認定臨床微生物検査技師制度協議会 (7団体)	望月規央
感染制御認定臨床微生物検査技師 (ICMT)	ICMT制度協議会 (7団体)	望月規央
感染制御スタッフ (ICS)	四病院団体協議会	望月規央

(3) リハビリテーション科に関する概況

① 理学療法・作業療法・言語聴覚療法別実施件数

(件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
理学療法	906	875	885	998	869	848	844	823	761	805	735	839	849
物理療法	274	245	235	252	226	213	191	169	158	187	144	157	204
作業療法	371	352	322	355	350	260	224	214	186	194	164	208	267
小集団(棒体操)	41	33	39	41	52	37	28	44	39	35	37	42	39
言語聴覚療法	184	162	177	191	190	133	189	168	165	179	141	196	173

※ 理学療法部門における物理療法件数は物理療法のみでの件数も含まれる。

※ 作業療法部門における小集団(棒体操)件数は作業療法件数に含まれる。

② 理学療法・作業療法・言語聴覚療法の月別実施者数

(人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
第1病棟	176	159	121	135	174	162	177	127	131	100	87	173	144
やすらぎ病棟	207	190	177	198	170	199	205	210	199	210	187	219	198
第1センター	252	233	240	266	240	198	220	229	242	270	241	262	241
第3西センター	224	219	240	243	242	206	180	215	206	217	203	236	219
新センター	141	115	122	141	140	125	130	130	115	127	123	89	125
一般寮	232	219	253	280	213	203	234	212	193	193	193	214	220
外来	1	7	17	6	1	2	3	1	0	2	0	2	4
第二共済	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1,233	1,142	1,170	1,269	1,180	1,095	1,149	1,124	1,086	1,119	1,034	1,195	1,150

新患件数	2.6件
処方件数	22.3件
実働日数	20.4日
職員数	7.9人

※ 追加処方も含む

※ PT・OT・STにおける職員数

1日平均実施件数	63件
1人あたりの実施件数	163件
1日平均実施人数	56人



③ 義肢装具処万件数

(件)

区分	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
義肢新規	1	0	1	0	1	0
更新	3	1	0	1	1	4
修理	1	1	4	2	0	3
装具新規	84	104	113	82	68	85
更新	90	100	75	38	38	35
修理	84	77	54	27	4	36
自 助 具	23	26	52	33	61	63
歩行解析	0	1	0	0	0	0
その他 <sup>※1</sup>	42	31	55	41	46	79
合 計	328	341	354	224	219	305
調整等 <sup>※2</sup>		281	237	207	248	188

※ 1：家屋改修、褥瘡予防関係、車椅子・歩行器改良を平成22年から実施。

※ 2：処方以外に細かな調整や修理、試作等が増加しているため、平成27年度から計上した。

#### (4) 放射線科に関する概況

##### ① 撮影機器別件数一覧表（入所者のみ）

*	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
一般撮影	1,416	2,208	1,496	1,381	1,635	1,420
透視撮影	9	9	10	3	3	1
CT撮影	458	685	417	356	298	308
移動撮影	100	201	106	74	45	76
乳腺撮影	64	24	0	0	0	0
歯科撮影	33	90	48	60	113	140
合計	2,080	3,217	2,077	1,874	2,094	1,945

##### ② 外部委託読影件数（入所者のみ）

検査項目	平成29年度	平成30年度	令和元年度
入所者CT検査	177	113	215
入所者胸部検診	112	157	165
合計	289	270	380

##### ③ 放射線画像入出力数（入所者のみ）

*	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
園内画像出力	37	31	19	30	22
園外画像取込	50	43	34	39	29

## (5) 栄養管理室に関する概況

### ① 年間入所者数

区 分		入所者数	分類	比率 (%)	
一	般 食	31,696	A	56.7	A/G
特 別 食	加 算 食	9,886	B	17.7	B/G
	非 加 算 食	12,929	C	23.1	C/G
	特 別 食 小 計	22,815	D	40.8	D/G
喫 食 入 所 者 数 小 計		54,511	E	97.5	E/G
欠 食 ・ 外 泊		1,386	F	2.5	F/G
入 所 者 数 総 合 計		55,897	G	100.0	

### ② 年間入所者食数

区 分		入所者数	分類	比率 (%)	
一	般 食	94,881	A	58.0	A/G
特 別 食	加 算 食	29,205	B	17.9	B/G
	非 加 算 食	39,074	C	23.9	C/G
	特 別 食 小 計	68,279	D	41.7	D/G
入 所 者 食 数 小 計		163,160	E	99.7	E/G
禁 食		443	F	0.3	F/G
入 所 者 食 数 総 合 計		163,603	G	100.0	

### ③ 行事食、選択食年間実施数

区 分	実 施 数
行 事 食 実 施 回 数	35 回
選 択 食 実 施 回 数	88 回
選 択 食 実 施 人 数	6,804 人

### ④ 栄養食事指導、病棟訪問年間実施数

区 分	合計実施数	内 訳		
		糖 尿 病	高 血 圧 症	そ の 他
個 人 栄 養 食 事 指 導 件 数	6 人	2	2	1
病 棟 訪 問 実 施 人 数	53 人			

### ⑤ チーム医療カンファレンス年間実施数

区 分	実 施 数
褥 瘡 カ ン フ ァ レ ン ス	11 回
病 棟 カ ン フ ァ レ ン ス	22 回
N S T カ ン フ ァ レ ン ス	10 回
認 知 症 ケ ア カ ン フ ァ レ ン ス	10 回

(延べ人数90人)

## 6. 医療事故分析報告

### (1) 内容別件数

内容	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3a	レベル3b	レベル4	レベル5	合計
1 薬 剤	74	51	95	1	0	0	0	221
2 輸 血	0	0	0	0	0	0	0	0
3 治療・処置	42	35	20	3	0	0	0	100
4 医療機器等	3	5	1	1	0	0	0	10
5 ドレーンチューブ	1	0	1	4	0	0	0	6
6 検査に関すること	4	4	3	1	0	0	0	12
7 療養上の世話	19	95	148	116	3	0	0	381
療養上の世話の計画または指示								0
療養上の世話の管理、準備、実施	26	95	193	116	3	0	0	433
転倒・転落	8	73	78	46	3	0	0	208
熱 傷	1	1	1	20	0	0	0	23
表皮剥離	2	12	32	87	0	0	0	133
誤嚥・誤飲	0	1	1	0	0	0	0	2
その他	15	17	14	5	0	0	0	51
8 その他	14	19	14	5	0	0	0	52
合計	157	209	282	131	3	0	0	782

### (2) 部署別報告件数

部署	発生件数
1病棟	137
やすらぎ病棟	105
新センター	80
第1センター	90
第3西センター	153
第1治療棟	67
第2・3治療棟	94
夜勤外来	0
薬剤科	16
検査科	4
栄養科	17
リハ科	11
医局	1
庶務課	0
その他	7
合計	782

### (3) 職種別報告件数

職種	発生件数
医 師	3
看護師(含准看護師)	685
看護助手	41
薬剤師	17
臨床検査技師	3
理学療法士・作業療法士等	13
栄養士・調理師等	16
診療放射線技師	1
事務	1
その他	2
合計	782

### (4) 発生曜日別件数

	発生件数
平 日	615
土・日曜日(休日)	167
合計	782

### (5) 発生時間帯

	発生件数
日勤	532
準夜	87
深夜	163
不明	0
合計	782

### (6) 患者年齢別

	発生件数
50歳代	0
60歳代	16
70歳代	84
80歳代	324
90歳代	284
100歳以上	37
複数(1事例で2名以上)	0
不 明(医療機器等で患者存在せず・職員)	37
合計	782

## 7. 看護学校関係

### (1) 学生数

( ) 男子再掲

学 年	学 生 数			
	学生定員	現員数 (男子再掲)	寄宿舎生数	通学生数
1年生 (第52回生)	20	13 (1)	3 (1)	10
2年生 (第51回生)	20	20 (7)	7 (4)	13 (3)

### (2) 応募・入学・卒業状況

学 年	入学年度	応募者	受験者	入学者	入学男子	退学者	卒業者数	倍率
1年生 (第52回生)	R1	自己14 一般16	自己14 一般16	13	1			自己2.8 一般2.0
2年生 (第51回生)	H30	自己15 一般27	自己15 一般26	20	7	1	19	自己1.9 一般2.2

### (3) 一般学歴

学 年	入学者学歴						准看護学校	
	大学	短大	高校	衛生看護科	中学	その他 (大検等)	当該年度	当該年度外
1年生 (第52回生)	3	2	7 (1)			1	11	2 (1)
2年生 (第51回生)	9 (3)	3	7 (3)			1	18 (7)	2

### (4) 年齢別

学 年	18歳	19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40歳以上	最高年齢
1年生 (第52回生)			3	2	3	3	2	47
2年生 (第51回生)				3	4	7	6	47

### (5) 出身別

学年	北海道	青森	宮城	秋田	山形	福島	群馬	茨城	栃木	埼玉	千葉	東京	神奈川	山梨	長野	富山	石川	静岡	愛知	兵庫	大阪	和歌山	岡山	広島	山口	高知	香川	愛媛	福岡	熊本	鹿児島	佐賀	長崎
1年生		1							3		6											1		1									1
2年生	1					1			9		7			1			1																

### (6) 卒業生進路状況

卒業 年度	卒業 者数	就 職										未 定	進 学																			
		国立高度医療専門医療センター		ハンセン療養所		国立病院機構		委託 治療 施設	官公 立(公 的)病 院	法人 その 他の 病院	助 産 師 学 校		保 健 師 学 校	大 学																		
		セ ン タ ー	循 環 器 器	研 究 セ ン タ ー	精 神 科 神 経 科 医 療	タ ー ン タ ー	国 際 医 療 セ ン タ ー								セ ン タ ー	成 育 医 療	自 施 設	他 施 設	実 習 施 設	実 習 外												
R1	19			2							2						2		2			1	10	0								

### (7) 国家試験合格状況

年度	回生	卒業者数	受験者数	合格者数	合格率	既卒者合格率
R1	51	19	19	19	100%	100%

## 国立療養所多磨全生園年報編集委員会委員

---

委員長	三宅 智 (副園長)
委員	水谷 義彦 (事務部長)
委員	岩垂 朋昭 (庶務課長)
委員	久米 俊 (福祉課長)
委員	筒井 秀知 (薬剤科長)
委員	小林 愛子 (教育主事)
委員	高橋 勝 (副看護部長)
委員	柴山 圭広 (庶務課長補佐)
委員	尾崎 正之 (歯科医師)

---

---

発行年月日	令和2年9月
発行者	国立療養所多磨全生園 〒189-8550 東京都東村山市青葉町4-1-1 電話042-395-1101
発行責任者	石井 則久
編集者	国立療養所多磨全生園年報編集委員会
印刷・製本	社会福祉法人 東京コロニー コロニー東村山印刷所

---

---



